

Animal Nursing (アニマル・ナーシング)

Vol. 8 No. 1 (第8巻 第1号)

2003

11

Nov.

巻頭エッセイ ヒトと動物—すてきな関係者—

HAB研究

牧畜民は家畜を看護するか？

動物の存在が人物の印象に及ぼす影響

海棲哺乳類のストランド（座礁）—その原因をさぐる—

動物看護

終末期のペットをもつ飼主の気持ちを考える

—在宅療養を望む飼主とのインタビューから分析する—

北川動物病院におけるフェレットの入院看護の工夫

当院における伝染性疾患に対する看護

—猫カリシウイルス感染症の看護を实践しての一考察—

動物看護〈臨床〉

犬の毛周期の成長期と休止期の比率からみた被毛状態

動物看護〈トリミング〉

動物病院におけるトリミング業務の検討

トリミング来院の飼主へのアンケート結果

報告

パネルディスカッション “動物看護師の教育課程が抱える課題とは？”

「第1回 移行措置における動物看護師資格認定試験」総評



Animal Nursing (アニマル・ナーシング)

Vol. 8 No. 1 (第8巻 第1号)

2003

11

Nov.

巻頭エッセイ ヒトと動物—すてきな関係者—

HAB研究

牧畜民は家畜を看護するか？

動物の存在が人物の印象に及ぼす影響

海棲哺乳類のストランド（座礁）—その原因をさぐる—

動物看護

終末期のペットをもつ飼主の気持ちを考える

—在宅療養を望む飼主とのインタビューから分析する—

北川動物病院におけるフェレットの入院看護の工夫

当院における伝染性疾患に対する看護

—猫カリシウイルス感染症の看護を実践しての—考察—

動物看護〈臨床〉

犬の毛周期の成長期と休止期の比率からみた被毛状態

動物看護〈トリミング〉

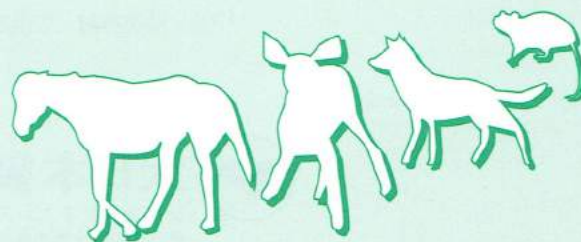
動物病院におけるトリミング業務の検討

トリミング来院の飼主へのアンケート結果

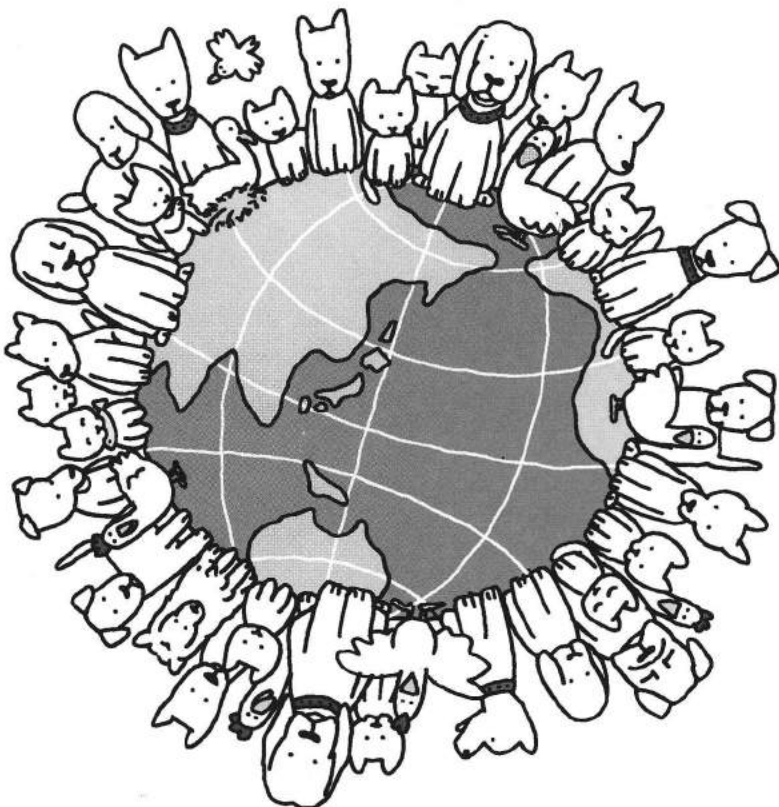
報告

パネルディスカッション “動物看護師の教育課程が抱える課題とは？”

「第1回 移行措置における動物看護師資格認定試験」総評



大日本製薬の小動物用製品



■犬糸状虫症の予防・消化管内線虫駆除に……

カルドメック[®]チュアブル P

(動物用医薬品) (要指示)

■犬糸状虫症の予防に……

カルドメック[®]錠

(動物用医薬品) (要指示)

■猫の犬糸状虫症予防および猫回虫・猫鉤虫駆虫剤

カルドメック[®]チュアブル FX

(動物用医薬品) (要指示)

■犬の慢性心不全に……

エナカルド[®]錠

(動物用医薬品) (要指示)

■3種混合生ワクチン

犬用ビルバゲン[®] DA₂ Parvo

(動物用医薬品) (要指示)

■3種混合生ワクチン

猫用ビルバゲン[®] CRP

(動物用医薬品) (要指示)

■遺伝子組換え型 猫白血病ワクチン

リュウコゲン[®]

(動物用医薬品) (要指示)

■疾病の食事管理に……

Hill's PRESCRIPTION DIET[®]

■健康維持の食事管理に……

Hill's SCIENCE DIET[®]

■犬・猫用ニューキノロン製剤

VICTAS[®] ビクタス[®] S 注射液5%/錠10mg・40mg

(動物用医薬品) (要指示)

■犬用ニューキノロン外耳炎・皮膚感染症治療剤

VICTAS[®] ビクタス[®] S MTクリーム

(動物用医薬品) (要指示)

■動物用吸入麻酔剤

イソフル[®]

(動物用医薬品) (要指示)

■個体識別電子IDチップ

LIFECHIP[®] ライフチップ[®]

■犬用非ステロイド系消炎鎮痛剤

リマダイル[®] 錠

(動物用医薬品) (要指示)

■非ステロイド性抗炎症点眼剤

ティアローズ[®]

(動物用医薬品)


※カルドメック、エナカルドはメリアルの所有登録商標



大日本製薬株式会社

アニマルサイエンス部

〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8 TEL.06(6203)5318

- 3 ●巻頭エッセイ● ヒトと動物—すてきな関係考— 林 良博(東京大学)
- 7 ●総説● HAB 研究 牧畜民は家畜を看護するか? 曾我 亨(弘前大学)
- 15 ●原著● HAB 研究 動物の存在が人物の印象に及ぼす影響 金児 恵(東京大学大学院)
- 24 ●短報● 動物看護 終末期のペットをもつ飼主の気持ちを考える
—在宅療養を望む飼主とのインタビューから分析する—
西谷孝子・西谷利文(西谷獣医科病院)
- 28 ●短報● 動物看護 北川動物病院におけるフェレットの入院看護の工夫
高嶋絵理子・森本かおり・古川修治・山村穂積(北川動物病院)
- 30 ●短報● 動物看護 当院における伝染性疾患に対する看護
—猫カリシウイルス感染症の看護を実践しての—考察—
西元博子(西谷獣医科病院)
- 34 ●原著● 動物看護(臨床) 犬の毛周期の成長期と休止期の比率からみた被毛状態
野手盾夫子(日本動物病院看護士学院)
- 45 ●話題提供● HAB 研究 海棲哺乳類のストランド(座礁)—その原因をさぐる—
石垣奈陽(日本動物病院看護士学院)
- 50 ●短報● 動物看護(トリミング) 動物病院におけるトリミング業務の検討
赤池久恵・井上五月・渡辺由希・中田かおる
松本恵実・前嶋朱美(赤池ペットクリニック)
- 55 ●短報● 動物看護(トリミング) トリミング来院の飼主へのアンケート結果
井上五月・松本恵実・保阪 香・前嶋朱美・渡辺由希
赤池久恵・鈴木加奈子(赤池ペットクリニック)
- 59 《書評》 動物看護師に期待される「人と動物の関わり」についての理解
森山哲美(常磐大学人間科学部)
- 60 ●報告● 日本動物看護学会 第12回大会
パネルディスカッション「動物看護教育カリキュラムについて」
“動物看護師の教育課程が抱える課題とは?”
牧田登之(元 山口大学農学部長)
多川政弘(日本獣医畜産大学獣医学科 教授、動物保健学別科長)
高橋英司(帝京科学大学理工学部アニマルサイエンス学科 教授)
酒井健夫(日本大学生物資源科学部獣医学科 教授)
長田久雄(桜美林大学大学院国際学研究科老年学専攻 教授)
渡辺 茂(慶応義塾大学文学部生物心理学 教授) (収載順)
座長/桜井富士朗(日本動物看護学会副会長)
- 

65 「第1回 移行措置における動物看護師資格認定試験」総評 日本動物看護学会 会長 今道友則

学会規約/66

投稿規定/68

論文執筆を終えて・編集後記/69

ANIMAL NURSE

定期
刊行

パキッ!とはじけて知りたいこといっぱい

- 創刊日1998年4月1日
- 判型:A4判 平綴じ
- 総頁:68頁 カラー約20頁
- 本体価格:1冊1,500円(税別・送別)
- 年間購読料:6冊9,000円(税別・送共)
- 発行日:偶数月1日発行(隔月刊)

獣医師のサポート的存在であるアニマルナースの職業意識の向上と職域の確立を図り、動物病院で力を発揮できるアニマルナースを育成する教育誌を目指します。内容は、主に学術的でわかりやすい技術解説を集め、その中に看護の優しい心を備え持つ動物看護に役立つ誌面を作成していきます。またアニマルナース自身がつくるページ、犬・猫の看護に限らず、様々な動物の看護を取り上げる企画を盛り込んでおります。

No.34 (2003年10月号) 主要目次

特集 ライフステージから考える 犬と猫のフードのお話し

今、必要な栄養を犬と猫の成長段階に応じて理解する 阿部又信

- study
- 動物看護への提言 3 ペインコントロールという観点から考える看護
1/3回目「痛みを苦しむ動物への看護について」 ジェフ C.H.コー
 - 知って役立つ体の構造と病気 第4話 副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群) 浜部有羽子
 - Season Study 春・夏・秋・冬 ひふのはなし 最終回 脂漏性皮膚炎 柴田久美子
 - 眼科診療とその看護[看護編] 最終回 目に傷がついた症例(角膜腫瘍) 中井江梨子
 - 犬と猫の問題行動 第四回 こんな時こんなアドバイス 高倉はるか
- from ANIMAL NURSE
- アニマル ナーシング ケア Part6 ②急性腎不全 松下容子
 - 紹介します、私の一日 鈴木智恵
 - 新連載 クライアント エデュケーション5 一飼育前から高齢犬までの飼育指導—
より良い関係を築くために! 愛犬との付き合い方 第1回 子犬との付き合い方 秋葉亮子
- PLUS ONE
- アニマルナースのための 知識のワクチン 石丸昌子

No.35 (2003年12月号) 目からウロコのハムスター学 (仮題)

- study 林 典子
- 動物看護への提言 ジェフ C.H.コー
 - 知って役立つ体の構造と病気 浜部有羽子
 - アレルギーのお話し(仮題) 岩崎利郎
 - 薬のお話し(仮題) 下田 実
 - 犬と猫の問題行動 高倉はるか



臨床獣医師のための イヌとネコの問題行動 治療マニュアル

好評発売中

CLINICAL VETERINARY BEHAVIOR

■著者:
武内ゆかり(東京大学獣医動物行動学
研究室助教授)
森 裕司(東京大学獣医動物行動学
研究室助教授)

■B5判 約185頁
■本体価格 8,700円(税別・送別)

主要目次

- 第1章 獣医学における動物行動学
1. ヒトと動物の関係がもたらす明暗/
2. 動物行動学の成立過程/3. 進化的・
適応的観点から見た動物の行動/4. 獣
医動物行動学の目的と課題
- 第2章 問題行動の種類
1. 問題行動とは/2. イヌでみられる主
な問題行動/3. ネコでみられる主な問
題行動/4. 獣医師が問題行動治療を行
う際の注意点
- 第3章 行動治療のプロセス
1. 行動治療の流れ/2. 質問票による
診察前調査の実施/3. 診察(カウンセ
リング)/4. 医学的検査/5. 診断/6.
治療方針の説明/7. フォローアップ
- 第4章 行動治療の基本的手法
1. 行動修正法/2. 薬物療法/3. 医学
的療法
- 第5章 イヌの問題行動



- 臨床獣医師のための
イヌとネコの問題行動
治療マニュアル
- CLINICAL VETERINARY BEHAVIOR
2003/10/25 発行
1. 攻撃行動/2. 恐怖・不安に関連する
問題行動/3. その他の問題行動
- 第6章 ネコの問題行動
1. 不適切な排泄/2. 攻撃行動/3. そ
の他の問題行動
- 第7章 問題行動の予防
1. 適切なコンパニオンアニマルの選択
/2. 十分な社会化/3. 子イヌ教室、子
ネコ教室への参加/4. 飼い主とイヌの
絆の構築/5. 飼い主の啓発
- 巻末資料
1. 2. 3

新刊

「小動物衛生学」(第4巻)、「動物医療の倫理と法」(第6巻)、
「小動物栄養学」(第8巻)、「エキゾチック動物の看護」(第14巻)
「小動物臨床検査[上・下巻]」(第7巻)に続き、
動物看護学全書第13巻「小動物歯科学」発行!

動物看護のための 小動物歯科学

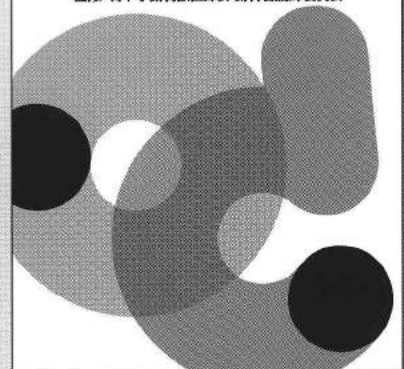
著者:奥田綾子、網本昭輝、
山縣純次、藤田桂一、
横山 滋、幅田 功
監修:日本小動物獣医師会
動物看護士委員会

[動物看護学全書—13]

動物看護のための 小動物歯科学

著者/奥田綾子 網本昭輝 山縣純次
藤田桂一 横山 滋 幅田 功
監修/日本小動物獣医師会 動物看護士委員会

小動物歯科学の基礎
と臨床、そして予防歯
科を合理的に解釈、理
解ができるよう編集され
た待望の1冊です。口
絵カラーページで理解
度がさらにアップします。



ヒトと動物

—すてきな関係考—



林 良博 (東京大学教授—大学院農学生命科学研究科・農学部—)

◆動物の管理が下手な日本人

日本で動物の管理がうまくいっていないのは、なにも野生動物に限ったことではない。日本人は動物との間合いの取り方が下手だといわれる。その場合の動物は野生動物ではなく、家畜やペットを指している。実際にいま日本には、「問題行動」といわれるやっかいな問題を抱えている愛犬家が少なくない。

ヒトと動物の関係学会が8年前に設立されたとき、イヌの訓練師であった藤井久蔵氏(故人)は、その講演の中で「日本には権勢症候群にかかっているイヌが多い」と指摘した。日本人は動物との間合いの取り方がわからないため、いったん可愛がるとべたべたに可愛がってしまう。イヌは社会的動物で群をつくるため、飼い主が群のリーダーとして適切な振る舞いをしないと、この家はどうなっているのか、管理者不在だから自分が管理者になってみようかと妙な錯覚を起こして、イヌが飼い主に命令を下すようになる。散歩に行っても、自分がこっちに行きたければこっちに行くというように、飼い主の言うことを一向に聞かない。権勢症候群という問題行動を一言で表現すればそういうことになる」と藤井久蔵氏は指摘した。

私たちがアニマルセラピーを考えていくときに、どのように動物とつき合えば高いセラピー効果を得られるか、またどういう状態が動物たちにとってもっとも幸せであるか、ということを考えておかなければならない。残念ながら、動物との密接なつき合いの歴史が浅い日本人にとって、これは苦手な分野といえる。

◆動物の個性を生かす

野良猫がセラピストとして都会人を癒していることはよく知られている。しかしネコの優れた特性は、その野生味にあるというよりも、その都会性にある。M.W. フォックス博士がいうように、「ネコはいまでも2つの世界、文明と野性の世界を渡り歩いている不思議な生き物」である。

このネコの特性は、ネコと一緒に暮らした経験のある人はだれもが知っている。ネコにはイヌのような忙しさが無い。悠然と構えたところがある。お年寄りやネコの相性がいいのは、ゆっくりとしたネコの動作をお年寄りが好むからだろう。お年寄りがイヌ、とくに大型犬を飼う場合には、散歩で強く引かれたときに転んで骨折するという恐れもあるが、ネコの場合にはそういう心配もない。

欧米の小学校には教室の中でネコを飼っているところがある。ネコは高いところが好きなので、授業中は窓の手すりなどの上から子どもたちを見下ろしているか、または寝ている。休み時間になると、降りてきて子どもたちと会話を交わす。ネコが存在することで、子どもたちの気持ちが和んでいく。日本の学校は荒れているという話であるが、私は1つの方法として、日本の小中学校でネコを飼ったらどうかと思うほどだ。これも広義のアニマルセラピーといえるだろう。

しかし、これはあくまでも一般論である。ネコやイヌは個体差が大きく、彼らの個性を語るのは、人の個性を語るくらい難しいところがある。ネコであるにもかかわらず、イヌ以上にイヌらしいネコを私は知っている。また逆に、ネコのような振る舞いをするイヌも

存在する。したがってどの動物がアニマルセラピーに向くかを一般論で語ることはできないが、あえて場所で分けるならば長時間にわたって教室にいるならネコで、運動場に向くのがイヌだろう。また伸びやかな行動を楽しむならばネコで、よく訓練された行動を欲するならばイヌである。

◆アニマルセラピーの医療的効果

アニマルセラピーが教育的に優れ、またそれを受ける弱者や障害者に高い満足感を与えるということに賛同する人も、本当に医療効果があるかという点については疑問をもたれるかもしれない。

しかし実際に、自分で飼っているイヌを撫でたとき、最初の3分間で最高血圧が10ミリ程度低下し、また、その後の6分間でもゆっくりと血圧が低下していることが報告されている。これは高血圧で悩んでいる人にとっては朗報である。

しかし残念ながら、一緒に暮らしていない見知らぬイヌを撫でた場合には、このような明確な変化がみられない。相手のイヌの気心がわからない場合には、たとえイヌ好きの人であっても緊張しているのかもしれない。たとえば、病院にセラピー犬が飼われていて、「血圧を下げるためにイヌを撫でてください」とお医者さんに言われたようなものだろう。

自分が飼っている、あるいはよく知っているイヌを撫でるときは、人間もリラックスしているがイヌの方も安心している。イヌやウマのように、人間の微妙な感情を読みとる名人は、こちらが緊張していると相手も緊張している。アニマルセラピーに用いられるイヌは、よく訓練されているから耐えることができる。また特定の人間だけでなく、広く人間好きのイヌが用いられる。とはいえ、あまりにもいろんな人から触れられるのはイヌにとって愉快的ことではない場合もあるだろう。この場合には、イヌと人がアニマルセラピーという行為を通して会話しているとは言い難い。やはり自分で飼っているイヌ、よく知っている間柄のイヌの場合にのみ、会話していると言えるのではないだろうか。

この点は、アニマルセラピーを実施するときにもっとも注意すべきことかもしれない。イヌやネコなどの動物は、医療に使う薬や注射器ではない。豊かな感情

があり、会話ができる相手である。「動物の愛護及び管理に関する法律」は、その前文でこうした精神を高らかに唱っている（同法は、1999年12月に全会一致で成立し、2000年12月から施行されている）。

◆通院回数や死亡率が減少する

1990年に、アメリカ・カリフォルニア大学のシーゲル教授が1,000人の高齢者を対象に通院回数を調査した結果、イヌと暮らしていない患者は年間に9.49回も医師にかかったのに対し、イヌと暮らしている患者は8.42回であったことが明らかになった。

シーゲル教授がとくに注目したのは、離婚や知人または家族の死という強いストレスを受けた人たちの通院回数において、イヌと生活していない人の通院回数はイヌと生活している人に比べると20%も高かったことである。つまり、イヌのセラピー効果は、離婚とか家族の死といった極めてつらい経験をした人たちに対して、とくに顕著であることが理解できる。

エイズ患者の場合も同様である。アメリカのように進んだ社会でも、エイズ患者は社会から疎外される。エイズのような免疫低下をおこす病気はいろいろな病原体に感染しやすい。アメリカ・ジョージタウン大学の大学病院エイズ専門医師は、「たとえイヌがエイズ患者に何らかの感染症をうつす可能性があったとしても、その人がイヌから受ける精神的なメリットのほうがもっと大きい。だからエイズ患者にイヌを飼わせるべきだ」と言っている。

もっと注目されているのは、ペットが患者にあたえる延命効果である。心臓病を患った人が退院してから何年生存したかを追跡調査した結果、イヌを飼っている人が1年以内に死亡したのはわずか5.6%であったのに対し、イヌを飼っていなかった人の死亡率は28%であったという。

またオーストラリアでは、5,741人の高齢者を対象に大規模な疫学調査が行われた。日本と同じように、どの先進国においても高齢者の医療費が国家財政を圧迫している。そうした中であって、高齢者にペットを飼ってもらうことで国家財政の軽減を図れないかというプロジェクト研究である。この研究結果を見てもペットを飼っている人は飼っていない人に比べて血圧、中性脂肪、コレステロールの値が低い。このような類

のデータが各国で出始めているのがアニマルセラピーの現状である。

◆人と動物の対等な会話をめざして

アニマルセラピーは人と動物の会話である。その会話の結果、いろいろな効果が期待される。しかしアニマルセラピーという動物との会話を考えた場合、心に留め置かなければならないことがある。確かに人は、アニマルセラピーによって動物から恩恵を受ける。それでは動物は、人からどんな恩恵を受けているのだろうか。

このような人と動物の関係を考えるとき、いつもあるアリの話を思い出してしまう。大きいアリと小さいアリでは、大きいほうが強いに決まっている。しかし、大きいアリと小さいアリと一緒に暮らす場合には、大きいアリの会話方式に小さいアリが合わせるのではなく、大きいアリが小さいアリに合わせているという。つまり、小さいアリが用いる伝達物質（脂肪酸）を大きいアリが自分に塗りつけて、同種化を図っているという。

人間は、少しはこれを見習ったほうがいいのではないか。言葉にしろ、文化にしろ、支配者が非支配者にそれを押しつけるというのが人間の定めであるが、実はアリの方が賢いのではないか。

私たちが動物たちとつき合っていくとき、つまりアニマルセラピーという会話を成立させようとした場合、私たちは私たちの言葉を彼らに覚えさせている。日本人は日本語で、アメリカ人は英語で、命令語を教えるそれに従わせる。つまり、イヌは人間社会で暮らしているから、彼らは人間の言葉を覚えなさいということである。

イヌたちが喜々としてそれに従ってくれることは大変ありがたいが、彼らの会話方式を人間も少しは取り入れたらどうか。そこではじめて対等の会話ができるのではないか。イヌはボディランゲージという言葉をもっている。しっぽを振ったり耳を使ったりして全身で自分の感情を表現する。人間には動物行動学、動物心理学などの学問がある。もう少しイヌの行動学の成果を取り入れて、それをイヌとのつき合いの中で生かしていくべきではないか。

動物たちが私たちに与えてくれている恩恵を考えれ

ば、せめてその100分の1くらいはお返しをするのが人間としての責任ではないかと私は思う。

イヌはたいへん辛抱強い動物である。じっと我慢している、そのわずかなしぐさや表情を読み取ることは大切である。そして排泄など犬にとって我慢させるべきでないことを即刻止めるべきである。しぐさや表情から、イヌが何を欲しているのか、何を考えているのか、どのように読み取ったらいいのか。それは人間が何を考え、何を欲しているのかを知ると同じと考えよう。しぐさや表情という人とイヌの共通言語によって、私たちはイヌの気持ちを知ることができる。人間の気持ちを知ることと比べたら、イヌの気持ちを知るほうがよほど楽かもしれない。なぜなら人間は、たとえ言葉で「好き」といっても、本心は「嫌い」な場合があるからだ。

◆万人にとってのシートン

『シートン—子どもに愛されたナチュラルストーリー』（今泉吉晴著）が2002年7月に福音館書店から刊行された。初めてのシートン評伝である。シートンは野生動物、とくに滅び行くアメリカ大陸西部の野生動物の保護に心を砕いたナチュラルリストであったが、イヌやウマにも深い見識をもっていた。いくつか、以下に引用する。

「今日なお、イヌを暴力でしつける人がいますが、シートンはすでに、ドッグ・ウィスパラーこそ、人とイヌのいい関係をつくることを見ぬいていました」

「シートンは、けっして過去の人ではなく、これからの人です。つい最近、ホース・ウィスパラーが世界で注目されたように、とうの昔に、シートンがたいせつだといっていたことが、いま、ようやく世界の関心事になりつつあります」

このように今泉氏が紹介するシートンは、しかし、一部の人たちから反感を買った。その理由を私なりに考えてみると、以下のようなシートンの文章が、一部の人たちの反感を買ったのではないかと思う。

「カウボーイは、世界一のウマの乗り手であることを、いつも誇りにしています。…中略…でも、彼らの主張

をよく検討してみると、彼らの誇りはみな、同じひとつの事実によっていることがわかります。彼らが誇るのは、ウマが人間をふり落とそうとしてどんなにあばれようとも、ウマの背中から落ちないということだけなのです」

「ウィリアム・ブラックウェル（シートンが尊敬する少年時代の隣人）は、人にきびしく、気に入らなければ暴力をふるったりしました。とくに、ウマをひどくあつかう人を見ると、もうがまんができなくなってしまいます。『人間はひどいめにあっても、悲鳴ぐらいあげられる。でも、動物はなにもいえないんだから、死ぬまでめんどろをみななければいけない』というのが、ブラックウェルの口ぐせでした。

ウマにはげしくむちを打つ隣人を見て、なぐりたおしたことも一度や二度ではありませんでした。有名なボクサーをなぐって、ぎゃくになぐりたおされたこともありましたが、彼は自分の正義のためのたたかいをやめようとはしませんでした。

じっさい、彼は動けなくなったウマを売りはらったり、撃ち殺して処分したりしない、リンゼー地区（郡）で、ただひとりの農夫でした。なぜと聞かれると、彼は『動けなくなるほど十分に働いたあわれなウマなら、残りの人生を食べさせてもらうくらいは当然のことだ』と答えました。彼の農場では、ダンカン、ジュリーなど何頭かが『引退して』ぶらぶらしており、10年以上も生きたウマもいました」

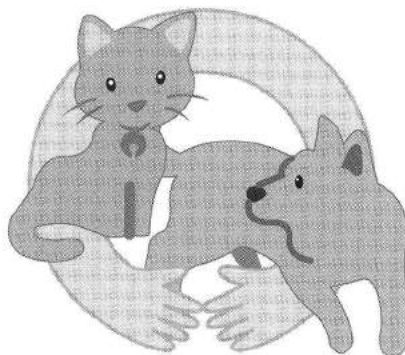
シートンは、アメリカ合衆国の子どもに愛されたナチュラルリストであったが、これからは世界の人びと、とくに動物を理解したいと願う人びとに愛されるべきナチュラルリストである。

イヌと暮らす人びとは、ドッグ・ウィスパラー（イヌの気持ちがわかり、大声で叱るのではなく、優しくささやきかける人）であることが望ましい。しかし勘違いしてはいけないのは、私は「ドッグ・ウィスパラー原理主義者」になった方がよいと言っているのではない。ときには叱ることもある。ときには怒ることもある。それは人間だから当たり前のことだ。また、行動治療の場合には、強制もあり得る。言いたいのは、「ドッグ・ウィスパラー」のこころを忘れてはいけないということである。

NHK学園「愛犬と暮らす」第4回公開講座テキスト（2003年）より、許可を得て転載（一部改変）

林 良博（はやし・よしひろ）

1946年、広島県生まれ、富山県育ち。1969年、東京大学農学部卒業。1975年、東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻博士課程修了。東京大学農学部助教授、ハーバード大学客員研究員、コーネル大学客員助教授などを経て、1990年より東京大学農学部教授。WHO（世界保健機関）、IWC（国際捕鯨委員会）などのアドバイザーや委員を歴任。東京大学前農学部長、ヒトと動物の関係学会前会長、農学博士。主な著書に「幸せになる犬との暮らし」（幻冬舎文庫）、「老犬とどう暮らすか」（光文社）、「検証アニマルセラピー」（講談社ブルーバックス）など。



牧畜民は家畜を看護するか？

曾我 亨 (弘前大学)

Do pastoralists in east africa nurse their livestock?

Toru SOGA

はじめに

本稿の目的は、東アフリカに住む牧畜民が家畜に対してどのように接しているかを報告し、動物看護という行為が家畜に対しても成立するかどうかを検討することである。筆者は動物看護に関わる者ではなく、また、その理論的検討をするだけの知識を備えているわけでもない。ここで目指すのは、むしろ近代の家畜に対する態度を相対化し、動物看護という行為が家畜に対して成立するかどうかを考える上での材料を提供する、ということになるだろう。以下では、動物看護が成立するもっとも基本的な要件—人間が動物に向けるまなざし—について簡単に検討した後、東アフリカに住む牧畜民が家畜に向けるまなざしについて紹介する。その上で、家畜に対する看護のありようについて考えたい。

1. 動物看護が成立した背景

動物が病気や痛み「苦しむ」ことは、ありえない(イリッチ 1998)。病気に苦しむ(受苦)という行為は、人間にのみ可能な文化的行為なのであり、動物が苦しむのは物語のなかだけなのである。けれども犬や猫を家族の一員としてみる人間は、動物の行動を人間流に解釈してしまう。犬は単に、犬の群れの一員として行動しているだけなのに、飼い主は、安心感や慰め・触れあい・献身的といった親と同じものをくれる犬に、無意識に親を見取ってしまう。そして病気にかかった動物に「苦しんでいる」さまを見取ってしまうのであ

る(フォーゲル 1991)。

日本動物看護学会が発行したテキスト「動物看護学総論」によると、動物看護学の母胎は愛玩動物の医療にある。家畜専門の獣医師が提供する医療に満足できない飼い主のニーズに応えるため、愛玩動物を専門にあつかう医療が分化し、さらにそのなかで医療と看護の分業が確立していったのである。この医療と看護の分業がおきた原因としては、医療技術の高度化・複雑化などがあげられるが、それだけでなく、これが動物を擬人化する飼い主の期待により応えようとする試みであることは否定できないだろう。動物看護は、ただ動物を治療すればよいというのではなく、病気や怪我で「苦しむ」動物の回復を援助したり、動物の「苦しみ」を引き受ける飼い主の気持ちにも配慮する行為である。動物看護とは擬人化のうえに成立しているのだ。そうであるとすれば、『動物看護学 総論』の冒頭に書かれた疑念、すなわち愛玩動物だけでなく、家畜にも動物看護という理念は成り立つのかという疑念が生じるのも当然のことといえる。擬人化される愛玩動物とは異なり、家畜は擬人化の対象ではないからである。

2. 無名な存在としての家畜

日本において家畜が擬人化の対象ではないことは、家畜が名前をもたず、また呼びかけられないことからよく分かる。たしかに家畜のなかには、馬のように名前がつけられ、命令されたり呼びかけられたりするものも存在する。けれども、命名されるのは家畜のなかでも比較的、個性性が認められた動物に対してだけである。日本では、肉牛に名前がつけられ登録簿にも記録されているが、種牛など特殊なものをのぞき、飼

い主がその名を覚えていることはないといってよい。屠殺や使役の対象となる家畜は基本的に「無名」の存在なのであり、呼びかけの対象とはなり得ないのである。

非常に特殊な場合においては、家畜にも名前がつけられ「有名性」を獲得する場合もある。筆者はかつて、鹿児島県の徳之島において闘牛の調査をしたことがある（曾我 1991）。闘牛には立派な名前がついていた。闘牛の名前には飼い主の名前が必ず含まれていて、たとえば「闘魂嵐〇〇号」（〇〇には飼い主の名前が入る）とか「電撃グラマン〇〇号」といった名前がつけられていた。闘牛は清潔な小屋に飼われ、体も磨き上げられ、吟味された餌が与えられている。これは、同じ島で飼われている肉牛に対する扱いとは対照的であった。闘牛はとても大切にされているのである。

けれども闘牛の名前が呼称として用いられることは一度もなかった。闘牛の名前は、飼い主がウシに向かって呼びかけるために命名されたのではない。それは第一に、飼い主が他の者との会話のなかで言及するために命名されているのであり、第二に（こちらがより重要なのだが）勝ち続ける闘牛の名前を勇壮な言葉で飾り立てることによって、飼い主その人を飾り立てているのである。だから負けが込むと闘牛は家畜商に売られ、肉牛として処分されてしまう。飼い主は負けた闘牛の「顔も見たくない」と言う。飼い主が負けて売られる闘牛の死を悼むことなどあり得ないのであり、「有名性」を獲得したからといって、闘牛を擬人化したり、闘牛をコミュニケーションの対象としている訳ではないのである。

3. 「有名性」をおびた牧畜社会の家畜

これに対し、東アフリカの牧畜社会では、家畜に対して個性性を著しく認めていることが数多く報告されている。この節では、まず、牧畜民が家畜をどのような存在としてとらえているのかを簡単に見ていこう。

最初に紹介するのは、牧畜民が家畜を数えないという事実である（太田 1987）。私が調査している牧畜民ガブラには、「数える (*heda*)」という動詞があるが、彼らが数えるのはタバコの本数や餌の数など、無個性な物に限られている。一方、彼らは家畜を「トアッダ (*toadha*)」する。トアッダとは、辞書には「数える」と書かれているが、正確には「出席をとる」と訳すべ

き動詞である。牧畜民は、家畜を「1、2、3、4…」と数えるのではなく、「誰それ、誰それ、誰それ…」と出席をとっているのである。

こうした「出席をとる」ことを可能にしているのが、彼らの家畜に対する深い認識である。牧畜民は、自分が飼育するすべての家畜を個体識別している。つまり我々が、家族や友人の顔を覚えているように、彼らは家畜の顔を覚えているのである。その認識は驚異的だ。筆者は調査に行くたびに、前回の調査で撮った写真を人々に渡すようにしているが、彼らは写真に写った自分たちの姿を見て喜ぶだけでなく、そこに写っている家畜の姿を見て大喜びするのである。そして筆者に向かって、「このラクダは誰それに貸してあげたので、今は村にいないんだ」とか、「このヤギは死んでしまった。だけどこのヤギの仔ならまだいるぞ。ほらそこにいるあのヤギだ」とか、一頭一頭の家畜について、その後、どんな人生(?)を送っているかを語ってみせるのである。

このように牧畜社会で飼育されている家畜は、まるで人間と同じように強い個性性を帯びている。また牧畜民はラクダ・ウシ・ヤギ・ヒツジに名前をつけている。ガブラの場合、仔には母獣とおなじ名前をつける。彼らは家畜を搾乳するとき、この名で家畜を呼ぶ。家畜の母仔は、仔が母獣のミルクを飲んでしまわぬように、日中は別々に放牧され、夜間も別々の家畜囲いに入れられている。1日に2回、朝と夕に母仔を会わせてミルクを搾るが、ガブラはこの時、母仔を引き合わせようと、仔ヤギの遠くにいる母ヤギを呼んだり、あるいは逆に母ラクダの遠くにいる仔ラクダを呼んだりするのである。

東アフリカの牧畜社会において家畜を個体識別し、命名し、さらに搾乳時に母仔の名を呼ぶことは、普遍的なことであるといってよい。一般的に、牧畜民は飼育する家畜の一頭一頭について、その色や性癖、乳量、ウシの場合は角の形、祖先と子孫などを熟知している。またそれぞれの個体について、その母獣や祖母獣、さらには曾祖母獣といった具合に、数世代も遡ってその特徴を記憶している。家畜は呼びかける対象となるが、この点は、前節に述べた闘牛に対する人々の態度とはとくに異なる点である。それでは、牧畜民にとって家畜はどのような存在なのだろうか、さらに見ていくことにしよう。

4. 牧畜民にとっての家畜

牧畜社会において家畜は、単に食料として重要なだけではない。家畜は結婚に際して支払われる婚資となるから、家畜がなければ結婚することもできない。また賠償にも用いられるから、家畜がなければ罪をあがなうこともできない。さらに牧畜民は家畜を相互に授受することで友人関係を締結するから、家畜がなければ友人を作ることもできない。このように家畜は、社会的な側面においても重要な役割を果たしているのである。さらに家畜は文化的にも重要である。まず家畜は神に祈る手段となる。彼らは家畜を供犠して神に祈るのだ。また家畜は歌や詩の題材にもなる。牧畜社会において家畜は、生業・社会・文化の各側面において重要な役割を果たしており、牧畜社会を成立させる重要な要素となっているのである。

こうした社会に生まれた者は、家畜に対して強い関心を抱かずにはいられない。とくにウシを飼育しているナイロート系の牧畜社会においては、ウシと人間の奇妙な結びつきが報告されている。それは「同一視 (identification)」と呼ばれる現象である。ヌエル社会を例にとって説明しよう (エヴァンス=プリチャード 1978)。ヌエルの人々は、自分の本当の名前のほかに「ウシにちなんだ名前」をもっている。男たちは相手のお気に入りの雄牛 (favorite ox) の形や色からとった名前でお互いを呼び合い、女たちは雄牛や自分が乳搾りする雌牛の名前をとって自分の呼称とする。若者は、自分と同じ名前のお気に入りの雄牛にちなんだ歌をつくり、それを歌いながら雄牛について歩く。夕方に牧草地から自分の雄牛が帰ってくると、彼は優しく撫でてやり、背中に灰を塗ったり、腹や陰囊についているイバラを取り除いてやったりする。雄牛を魅力的に見せるため角には長い房をつけ、首には鈴をつけてやる。もはやここまでですと、ウシは私たちの社会のペットと見紛うばかりである。

ヌエルで調査したエヴァンス=プリチャードによれば、ヌエルにとって「自分の雄牛の姿ほど満足感と誇りを与えるものは他にない」のであり、「ウシを誇示することができればできるほど、彼は幸福感を味わう」のだという。ヌエルのように同一視をしているわけではないが、筆者が調査している牧畜民ガブラも、夕方、放牧から家畜が帰ってくると、男たちは家畜囲いに集まり、じっと家畜をみつめている。彼らは、放牧中に

失踪した家畜がないかどうかを確認し、家畜の細かい仕草を見て健康状態を調べたり、家畜が満腹しているかどうかを調べているのである。けれども彼らは、家畜をただの財産とみなし、その状態を確認しているわけではない。エヴァンス=プリチャードがいうように、彼らは家畜と共にいることで深い満足感を得ているのである。

女たちも家畜と共にいることで深い満足感を得ている。生まれたばかりの仔ヤギが母ヤギと間違えて、いつも世話をしてくれる女の後について歩いたりする。女たちはそんなときに実に楽しそうだ。なにかの折に「お前さんはどうして町に住まないんだい」と尋ねると、驚きの声をあげて「町なんかに住んだら、家畜の鳴き声が聞こえないじゃない。そんなところに住めないわ」と答えたものである。牧畜民のエートス (心的態度) は家畜と共にある暮らしに埋め込まれているのである。

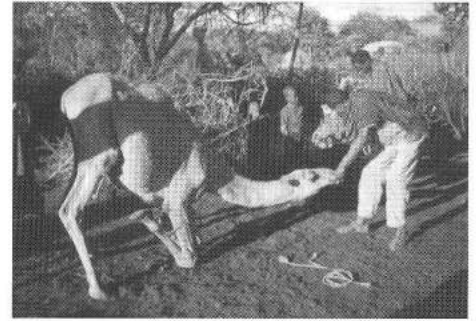
このように家畜の個性性をみとめ、家畜に感情を揺さぶられる彼らであるが、家畜は一方で、屠殺されるものでもある。もっとも牧畜民が家畜を屠殺する機会はさほど多くはない。牧畜民は自らを「ミルクの民」であると認識している。家畜を屠殺ばかりする人がいるとしたら、それは牧畜民ではなく狩猟民なのだ。彼らが屠殺するのは、儀礼のときや、大切な客人を迎えたときにすぎない。日常生活のなかで屠殺されるとしたら、それは病気になってもう治らない個体なのである。

お気に入りの雄牛が弱ってしまい、屠殺されることになることになると、そのウシを同一視する青年は悲しみにくれてしまう。ボディ社会を調査した福井正子は『キリントの歌』のなかで、次のように述べている。「モラレのウシ (筆者注：お気に入りの雄牛のこと) が病気にかかること、他の仔ウシを犠牲にし、その血で清めて病をいやそうとつとめる。いよいよだめだとなれば、友人たちがモラレのウシを首長の放牧キャンプの中に運び込んで、そこで儀礼にのって殺す。モラレのウシの持ち主は、泣き叫び、激しく抵抗する手足を友人に押さえつけられて、家の中に閉じこめられている」(福井 1981 p202)。

このような激しい感情表現をとまなうのは、お気に入りの雄牛を屠殺した場合だけだが、同一視の対象とならないヤギやヒツジについても、同じような感情の



ヤギの去勢風景。睪丸と体の間にある血管をつちで叩いて潰しているところ。



足裏に刺さったトゲを抜くために、ラクダを座らせようとしているところ。



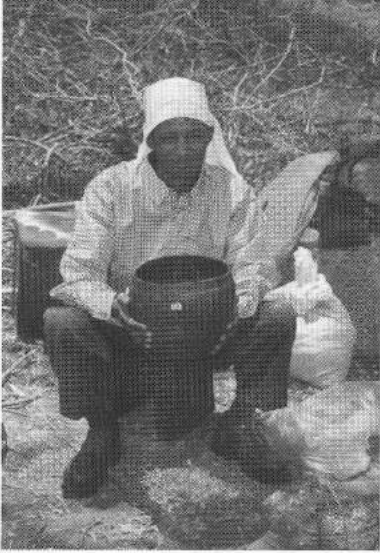
縛られたラクダの乳首。日中、ラクダの母仔を一緒しておくとも、仔ラクダは母乳を飲んでしまう。この日は、ラクダの母仔ともに井戸へと出かけた。人間が搾乳する分を確保するために、4つある乳首のうちのひとつが縛られている。



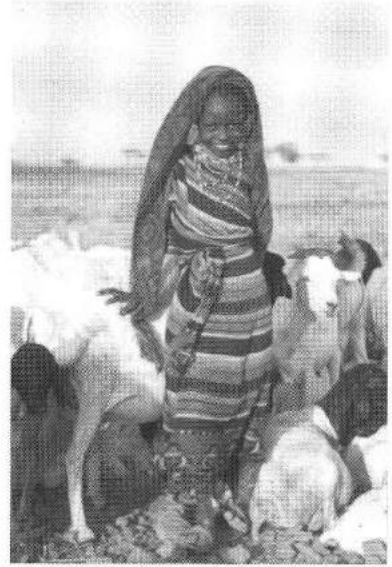
塩を食べるラクダ。ラクダには定期的に塩を与える。



母ラクダのなかには、仔ラクダにミルクを与えまいとするものがある。放置しておくとも、仔ラクダは衰弱死してしまうし、母ラクダは泌乳をやめてしまう。ガブラは、そうした母ラクダの鼻と肛門を縛りつけ、一日中、仔ラクダのそばに留めておく。こうすると、母ラクダは仔ラクダがミルクを飲むのを拒絶しなくなるのである。



結婚式に向かう青年。彼が手にしているのは、搾ったラクダのミルクを入れる容器である。結婚式ではラクダのミルクで作ったヨーグルトが大量に消費される。



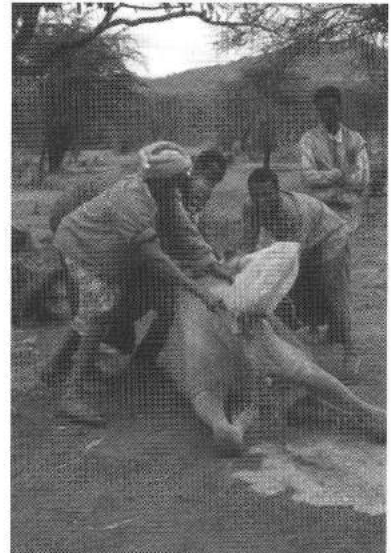
放牧に出発する少女。ヤギ・ヒツジの放牧は、少女の仕事。



ラクダのミルクを娘の頭にかけて祝福する。牧畜民は肉の民ではなく、ミルクの民であり、儀礼の際にもミルクが重要な役割を果たす。



井戸場の風景。井戸から汲み上げられた水は、細長い水飲み場に導かれる。ウシが一行になって水を飲んでいる。



病気で動けなくなってしまったラクダは屠殺し、食料とする。

動きを稀に観察することができる。筆者の調査したガブラの事例を紹介しよう。筆者が寄宿していた家族に大切な客人がやってきたときのことだ。家長は客人をもてなすために立派な雄ヤギを屠殺した。ところが翌朝、ヤギを放牧にだす時間になっても、牧童をしていた娘が家から一步も出てこない。家長が厳しい口調で叱っているが、娘は何も答えない。事情を聞くと、昨夜屠殺されたのは、彼女がひときわ気に入っている雄ヤギであった。娘はすっかり悲しくなって、放牧に出るのを拒否したのである。

もちろん、こうした行為が実際に観察されるのは稀であるし、あったとしても、それは年端もいかない子供であることが多いのだが、家畜が、決してただの経済的価値に還元できるだけの存在ではないことがわかるだろう。

5. もの言わぬ家畜

そうは言っても、ガブラが家畜の行動を擬人的に表現することは稀である。「このラクダは、あのラクダを好いている (*fed*)」とか、「このラクダは人を怖れる (*soda*: 怖れる、敬意を払う)」とか、「牧草を食べて満足している (*ya kuufu*)」とか表現することはあるものの、基本的に家畜は擬人的には表現されない。これがもっとも顕著にあらわれるのは、物語のなかにおいてである。

ガブラの昔話 (*duri duri*) には、ライオンやセグロジャッカル、ゾウ、ハイエナなどの野生動物 (*bineesa*) が登場する。彼らはすべて家畜を飼育する者として登場し、家畜をめぐる争いを繰り返す。

〈ガブラの昔話〉

昔々、ライオンは雄のウシを、ハイエナは雌のウシを飼っていた。ある日、ハイエナがいないときに、雌ウシは仔を産んだ。ライオンはガゼルの仔をつかまえ、ハイエナに「お前さんがいないあいだに、お前さんのウシが仔を産んだよ。俺の雄ウシも仔を産んだ。これがお前さんの仔だよ、しっかりつかまえておけ」と言ってガゼルの仔を渡した。しかしハイエナがつかまえる前に、ガゼルの仔は逃げてしまった。ハイエナはライオンが怖いので何も言えなかった。さらにライオンは「お前の仔は逃げてしまったのだから、俺の雄ウシが産んだ仔にお前のウシのミルクをやってくれ」と言っ

た。ハイエナは他の動物たちに訴え、集会が開かれた。しかし皆、何も言わなかった。ライオンに喰われてしまうのが恐ろしかったからである。ところで、リスはこの集まりにやってこなかった。3日経ってようやくあらわれた。動物たちは「なぜ遅れたのか？」とリスに聞いた。リスは「井戸のなかの火事を消すのに手間取って遅れたのだ」と答えた。動物たちは驚き「井戸が火事になるのかい？」と尋ねた。リスは「雄が仔を産むのかい？」と言うや否や穴に飛び込んだ。ライオンは襲いかかったが、もうリスが逃げた後だった。動物たちは「雄は仔を産まない」とリスが言った」と口々にはやし立て、ハイエナは仔を取り戻すことができた。

昔話に登場する野生動物たちは、家畜をめぐる争い、集会を開いて解決策を模索する。一方、こうした昔話のなかで家畜は物を言わぬ存在としてあつかわれている。家畜は現実の世界においても、物語の世界においても、家畜のままであり続けるのだ。

ガブラは野生動物に個性を認めてはいないものの、物語の世界では、人間のように家畜を飼育し、悩み、話し合う存在としてあつかっている。逆に、家畜の個性を認める一方で、物言わぬ存在としてあつかっている。前節において、我々は家畜が私たちの社会のペットのようにあつかわれる様を見てきたが、こうした物語を見ると、ガブラが家畜を人間のように見なしたり、擬人化したりしないことがはっきり見てとれるのである。

6. 家畜の病や外傷に対する態度

ガブラ語は病気と痛みを区別せずドックバ (*dhukuba*) と呼ぶ。ガブラの男たちは、朝・夕にはかならず家畜囲いに集まり、家畜のちょっとした仕草などを手がかりに、家畜の健康状態に気を配る。家畜は頻繁に病気になったり、怪我をしたり、体調を崩したりする。彼らはそうした兆候をみとめると、すぐになんらかの対処をする。アカシアのトゲが刺さり、足を引きずるラクダをみつけると、ガブラはラクダを寝ころばせ、足の裏からトゲをほじりだす。ダニをみつけると、むしり取る。膿がたまっていれば、切開して膿をだす。歯並びが悪くて頬を噛みがちなラクダをみつけると、その歯を叩き割って取りのぞくこともある。骨折がみつかり、添え木をあてて患部を固定する。

抜歯や骨折治療など特別な技術を必要とする場合は、ラクダ医 (*cireesa gaala*) に依頼するが、たいていのことは自分たちでやってしまう。よくおこなわれるのは焼ゴテをもちいた施術である。腰の異常が原因で足を引きずるラクダには、腰の部分に焼ゴテをあてるし、目に異常があるラクダには、目の周囲に焼ゴテをあてる。また、瀉血^{しやくけつ}することもある。

こうした外科的な施術とくらべて、内科的な処方や呪術的な処方はさほど多くない。せいぜい咬みタバコを水に溶いて飲ませたり、お守りを家畜の首に結わえつけたりするくらいである。太田 (1991) は、牧畜民トゥルカナが13種の薬草を15種の病気に対して使用していると報告しているが、それにしても家畜の病気に対する治療体系は、あまり発達していないのが特徴である。近年、町で薬が売られるようになり、ガブラは薬を用いるようになってきた。家畜用の薬を買ってきて注射したり、ダニ取りの薬で家畜を洗ったり、人間の抗生物質を水に溶いて飲ませたり、傷口にふりかけたりするようになってきた。けれども牧畜民独自の治療方法では、単純な怪我を除いて家畜の病気を治すことはほとんどできない。病気になった家畜は、自然に治るか、死んでしまうかのどちらかである。病気の家畜に対する牧畜民の態度は、つぎのトゥルカナの一言によくあらわれている。「(だめかも知れないけれども) ただやってみるだけさ」(太田 1991)。

7. 牧畜民は家畜を看護するか?

その効果のほどはともかくとして、牧畜民が病気や怪我をした家畜に対し、それなりの医療的な対処をしていることが確認できた。それでは牧畜民は家畜の看護をするのだろうか。最後にこのことについて見ていこう。

まず、動物看護とは具体的にどのような行為を指しているのだろうか? 『動物看護学 総論』のなかに挙げられている具体的な行為としては、(1)飲食や排泄、休息・睡眠を助けたり、身体を清潔に保つように世話をしたり、(2)採光、換気、温度、静寂などの生活環境を調整したり、(3)薬、検査、処置などが患畜にとって安全かつ安楽なものとなるよう工夫したり、(4)治療経過の報告や食餌管理の助言などをして飼主にも配慮すること、などが挙げられている。これらを手がかりに、牧畜民の「看護行為」について見ていこう。

具体的にあげた4つの行為のうち、ガブラが病気や怪我をした家畜に対しておこなっているとはっきりわかるのは、飲食の援助だけである。たとえばひどい怪我をして歩けないラクダのために、彼らは牧草となる木の枝を切り、これを家畜囲いにまで運んだりする。また母ラクダが授乳を拒むことが稀におきるが、そうした場合ミルク・ティーを作って仔ラクダに「哺乳」することもある。すっかり弱って座り込んでしまったラクダを、5~10人がかりで立ち上がらせ、集落の近くで食餌させることもある。けれども、ガブラが家畜の看護をしているとは言い難いように思える。家畜の死が避けられないとわかれば、彼らはあっさりと屠殺してしまうからだ。家畜はあくまでも食料であり、家畜の生をまっとうさせようという発想はガブラにはない(我々の社会でも、家畜の生をまっとうさせようという考えはない)。

ただし看護という言葉の意味を、病気の家畜に対してだけでなく、健康な家畜がおくる生活の全領域に拡張するならば、家畜が快適で健康に暮らすことができるよう、ガブラはかなり気をつけている。家長は牧童に牧草の状態を常にチェックさせ、常に最良の放牧場へ家畜を連れて行かせるよう指示をだす。また家畜に害をなす昆虫が発生すると、すぐさまこれを避けて集落を移動させたり、放牧キャンプを設営して家畜を移動させる。家畜の状態に常に気を配り、のどが渇いていると観ればすぐに井戸場に連れて行って水を汲み上げる。これは重労働である。常に家畜の健康にも気を配り、発情期には、後ろに向いたラクダのペニスをかきつけて交尾がうまくいくよう補助をする。出産時には、仔ラクダを母体から引き出し、出産の補助をする。家畜囲いのなかにも常に清潔が保たれるよう気を配り、糞がたまると家畜囲いからかき出したり、新しい家畜囲いを作ったりする。これも重労働である。

これらはすべて看護というよりは、家畜の管理活動と呼んだ方がよいことであるが、彼らの管理活動は、我々の社会でおこなわれている家畜管理と比べても、はるかに熱心である。先に述べた徳之島の場合、肉牛は糞と泥にまみれて飼育されているが、ガブラがこれを見たら驚愕するであろう。彼らの家畜管理の水準は、経済的に見合うか否かといったレベルに設定されているのではない。彼らが飼育しているのは、経済的価値に還元できる動物なのではなく、一緒に写真に写るこ

とが喜びであるような動物なのである。筆者はこの水準の高さに、牧畜民の家畜に対する気遣い (care) を認めるのである。

彼らと家畜の関係を端的に示している事例を最後に挙げよう。彼らは家畜を良い牧草が生えている場所へと連れて行こうとする。良い牧草が生えている場所は、しばしば敵対する牧畜民の居住地との境界に位置することが多く、家畜をそこへ連れて行くことは生命の危険をとまなう行為である。あるとき筆者は、家畜を移動しようとしている青年に、そんなところへ出かけていくのは怖くはないかと尋ねたことがある。青年は「なにが怖いものか。人は家畜の為に生きているのだ」と答えた。彼らにとって家畜は人の為に存在するのではない。人こそが家畜の為に存在するのである。

動物看護という主客逆転した現象 (人間が動物を看護する) は、飼い主による愛玩動物の擬人化に応える形で誕生した。それは人間-動物関係を最小化し、愛玩動物を人間の世界に取り込む行為であった。その一方で、我々の社会において人間-家畜関係は疎遠化し、家畜は経済的枠組みのなかでのみ取り上げられるようになってしまった。これに対し、ガブラをはじめ牧畜社会にみられる主客逆転した行為 (たとえば家畜の為に集落を移動させる) は、擬人化のなかから誕生したのではない。それは人間-家畜関係が接近した生活のなかで、家畜の発する非言語的なコミュニケーションを、擬人化することなく読みとることによって誕生した行為なのである。

本小論の最初にとりあげた疑念、すなわち愛玩動物だけでなく、家畜にも動物看護という理念は成り立つのかという疑念に答えるためには、まず人間-家畜関係の問い直しがなされる必要がある。逆に、動物看護を家畜に対しても実践していくことが、人間-家畜関係の問い直しになるのではないか。そんな予感がしている。

謝辞

動物看護という馴染みのないテーマを考えることで、これまで理解できなかった牧畜民のエートス (心的態度) を考えることができた。本小論執筆の機会を与えてくださった日本動物看護学会副会長の桜井富士朗先生に、この場を借りてお礼申し上げたい。

参考文献

- 1) イヴァン・イリッチ (1998) 『脱病院化社会-医療の限界-』 (金子嗣郎訳) 晶文社
- 2) エヴァンス=プリチャード (1978) 『ヌアー族-ナイル系-民族の生業形態と政治制度の調査記録-』 (向井元子訳) 岩波書店
- 3) 太田至 (1987) 「牧畜民による家畜群の構造的把握法」『アフリカ-民族学的研究-』 (和田正平編著) p771~786, 同朋舎出版
- 4) 太田至 (1991) 「トゥルカナの家畜をめぐる病気観」『ヒトの自然誌』 (田中二郎ほか編) p295~321, 平凡社
- 5) 曾我亨 (1991) 「徳之島における闘牛の飼育と、その分類・名称・売買の分析-人々はいかに闘牛を楽しんでいるか-」『日本民俗学』第188号, p1~48, 日本民俗学会
- 6) 日本動物看護学会教科書編集委員会 (2002) 『動物看護学総論』日本動物看護学会
- 7) 福井正子 (1981) 『キリントの歌』河出書房新社
- 8) ブルース・フォークル (1991) 『ペットの気持ちがわかる本-ヒトとペットの心理ゲーム-』 (加藤由子監訳, 山崎恵子訳) ペットライフ社

動物の存在が人物の印象に及ぼす影響

金児 恵 (東京大学大学院)

The influence of companion animals on person perception in Japan

Megumi KANEKO

〈要約〉

欧米においては、コンパニオン・アニマルの存在が、飼主、あるいはその側にいる人物の印象に好ましい影響を与えたとの研究報告がなされている。本研究は、日本においても同様の結果が得られるかどうかを、Lockwood (1983) の手法を用いて追試したものである。86名の成人男女を対象に、絵の中に動物がいる場合といない場合で側にいる人物の印象が異なるかどうかを、17個の形容詞対を用いて実験的に検証した。その結果、3種類の絵のうち2つにおいて、動物が側にいる人物は動物が側にいない人物よりも、より「弱い」「依存的な」などの好ましくない評価がなされた。これは、欧米における先行研究とは一貫しない結果であった。

key word : コンパニオン・アニマル、人物の印象、社会的知覚、動物絵画統覚テスト (ATAT)

序論

ペットはコンパニオン・アニマル (伴侶動物) とも言われ、近年では、単なる動物ではなく家族の一員として人間と共に生活する存在として広く認められるようになってきた (e.g. Cain, 1983; 総理府, 2000)。1970年代から欧米で盛んになった人間と動物の絆 (human-animal bond) に関する研究では、ペットを飼っている方が心臓疾患後の延命率が高い (Friedman, Katcher, Lynch, & Thomas, 1980)、ペットの存在が心拍数や血圧の減少をもたらす (DeMello, 1999) 等の身体的・生理的効果、また孤独感やうつ状態を和らげる等の心理的効果 (e.g. Goldmeier, 1986; Zasloff & Kidd, 1994)、そして動物が人と人との社会関係を促進する社会的効果 (e.g. Mugford & M' Comisky, 1975) など、ペットが人間に対して持つ様々な肯定的な効果が指摘され

てきた。本研究はこの3つ目の社会的効果に関するものであり、動物の存在が人物の印象に及ぼす影響を検討することを目的とする。

ペットは「社会的潤滑剤 (social lubricant)」あるいは「社会的促進剤 (social facilitator)」などと言われ、飼い主の対人関係や交流を促進する機能を持つ存在だとされる。例えば、ペットを飼うことによって他者とのコミュニケーションが増える (Mugford & M' Comisky, 1975)、ペットを連れていくことによって飼い主が見知らぬ人と話をするきっかけができる (Messent, 1983; Rogers, Hart, & Boltz, 1993)、などの効果が明らかにされてきた。こうしたペットの社会関係促進効果が働く理由の一つと考えられているのが、「ペットがいることにより、側にいる人は「いい人 (nice)」と他者から見られるようになり、話しかけやすい雰囲気を作られる」というものである (Veever, 1985)。つまり、人は他者が動物と一緒にいる様子を観察することによって、その人についての肯定的な印

象を形成したり、望ましい性質を当てはめたりする可能性があるというのである。こうした動物の社会的効果は、例えばアメリカの政治家などにも利用されており、F. ルーズベルト大統領やニクソン大統領は犬を可愛がる様子をマスコミで報道することで、自らの好ましい性格を国民に伝えようとしたといわれる。最近では、クリントン大統領も犬・猫を「同じホワイトハウスの住人=家族」として扱い、実際に猫の「ソックス」はアメリカ国民の人気者となり、大統領のイメージアップに一役買った。

このように、動物が存在することは人の人柄や人間関係の印象を好ましいものにすると思われるが、こうした効果の存在を実験的に証明しようと試みたのがアメリカの心理学者 Lockwood (1983) である。彼は、心理学入門クラスの68人の学生を対象に、人物の側に動物がいる絵、あるいは人物のみが描かれている絵を見せ、絵の中の人物の印象、および描かれた光景の雰囲気や状態をセマンティック・ディファレンシャル (SD) 尺度を用いて評定させる実験を行った。その結果、絵中に動物がいる場合には、いない場合よりも、人物がより「友好的」「幸福」「大胆 (臆病ではない)」あるいは「緊張が少ない」等と好ましく解釈されることを見出し、動物の存在が人の性格や人間関係の印象に肯定的な影響を及ぼすことを明らかにした。

また、Rossbach & Wilson (1992) は写真を用いて同様の実験を行い、犬が側にいない写真よりも犬が側にいる写真の方が、より人物が幸せで安全に見えることを示した。さらに、Geries-Johnson & Kennedy (1995) は、犬、猫、鳥の間の比較も行い、猫や鳥が側にいる場合や動物がいない場合に比べて、犬が側にいる場合は人物がより好ましい (例えば、「一緒にいて楽しいだろう」「この人物に会いたい」などの項目で評定) と見なされることを示した。

以上のように、動物の存在が人の印象や場面の雰囲気や状態を好ましいものにするという知見が、これまで欧米でいくつか見られている。では、こうした動物の効果は、日本においても見られるのであろうか。残念ながら、この点を検討した研究はまだない。そこで本研究では、Lockwood (1983) を追試し、日本においても同様の動物の効果が見られるか否かを検討することを目的とした。

1. 方法

【被験者】

札幌市で行われたある公開セミナーにおいて「社会心理学」の講義を受講している19～69歳までの女性78名、男性8名の計86名 (平均年齢45.4歳) を対象に、2001年5月に実施した。

【手続き】

被験者は、配布された質問紙の冊子を受け取り、各自でそこに載せられた3種類の絵を見た上で、絵の中に描かれている人物 (刺激人物)、および絵に描かれている光景の雰囲気や状態を評定した。冊子 (A4用紙サイズ) は、絵のページ、人物評価のページ、雰囲気評価のページを1セットとし、3セット (3種類の絵) がランダムな順番で並べられ、表紙および簡単なデモグラフィック項目を尋ねる巻末の質問紙が付けられたものであった。

【絵】

刺激として用いた3種類の絵は、場面A：ソファに座る女性、場面B：公園のベンチに座る男性、場面C：道路を歩く女性、であった。なお、刺激に用いた絵は、Lockwood (1983) が用いた絵をなるべく忠実に再現するように、筆者が手書きにより作成した。ただし、実験実施上の必要から、以下の3点について改良を施した。①場面AとBでは刺激人物が日本人らしく見えるよう修正を行った。②場面Bについては、Lockwood (1983) は野生と思われる小鳥を用いているが、本研究では対象の動物を場面間で統制するため、犬に変更した。③場面Cは、より社会的交流が多くなるとと思われる散歩場面での人物の印象および人物の年齢による動物の効果を見るために、筆者が新規に作成した。

そして、被験者には次の教示が与えられた。

「下の絵を1～2分間見てください。そして、絵の中の人が誰なのか、絵の中では何が起きているのか、次には何が起きるだろうかを考えてください」

【実験デザイン】

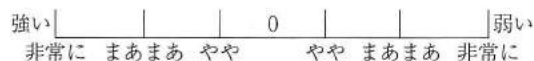
操作された独立変数は、場面AとBにおいては動物の有無 (それぞれ1要因2水準) であり、それぞれ絵中の刺激人物の側に動物 (犬) が描かれているものと、動物が描かれておらず刺激人物だけのもののいず

れかを被験者に提示した（図1-1、図1-2、図2。ただし、場面Bについては動物が描かれていない絵は省略）。一方、場面Cの実験デザインは、動物の有無と刺激人物の年齢（高低）を独立変数とした2×2の要因配置計画であった。刺激人物が若い女性であるものと年配の女性であるものそれぞれについて、動物（犬）が側にいる絵といない絵の計4種類を作成し、そのいずれかを被験者に提示した（図3-1、図3-2。ただし、動物が描かれていない絵は省略）。被験者は、「動物あり条件」、あるいは「動物なし条件」のいずれかにランダムに割り振られ、AからCの場面について、動物が描かれている絵、あるいは動物が描かれていない絵のいずれかを一貫して観察し、評定した。ただし、刺激人物の年齢も操作された場面Cに関しては、それぞれの条件の中でさらにランダムに配置された。

【評定尺度】

被験者は、それぞれの絵の観察に続き、1）絵中の刺激人物を評定するためのセマンティック・ディファレンシャル（SD）尺度、および2）絵に描かれている光景の雰囲気や状態を評定するSD尺度に回答するよう求められた。紙面の都合上、刺激人物を評定する尺度には、Lockwood（1983）が用いた20対のうちの17対の形容詞対（表1）が、絵の光景の雰囲気や状態を評定する尺度にはLockwood（1983）が用いた11対のうちの7対の形容詞対（表2）が用いられた。これらの形容詞対の提示順序が異なる2種類の質問紙が用意され、順序効果が被験者間でカウンターバランスされた。

形容詞対は次のような形式で配置された。



尺度への回答に先立ち、被験者には次の教示が与えられた。

〈人物の評価のページ〉

「絵の中でどんなことが起きているか想像してください。この絵の人物はどんな人だと思いますか。以下の各特徴について、当てはまるところにひとつずつ○を付けてください。もしどちらとも言えない場合は0に○を付けてください」

〈絵の雰囲気や状態の評価のページ〉

「絵の中でどんなことが起きているか想像してください。その状況はどんな雰囲気だとおもいますか。以下の言葉について、その雰囲気に当てはまると思うところにひとつずつ○を付けてください。もしどちらとも言えない場合は0に○を付けてください」

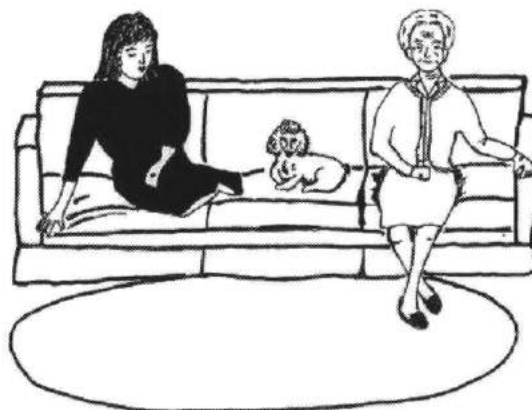


図1-1 場面A（動物あり条件）

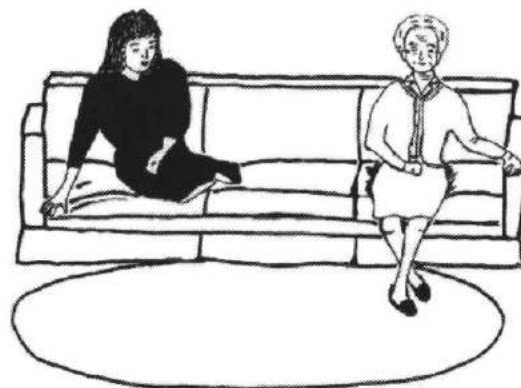


図1-2 場面A（動物なし条件）

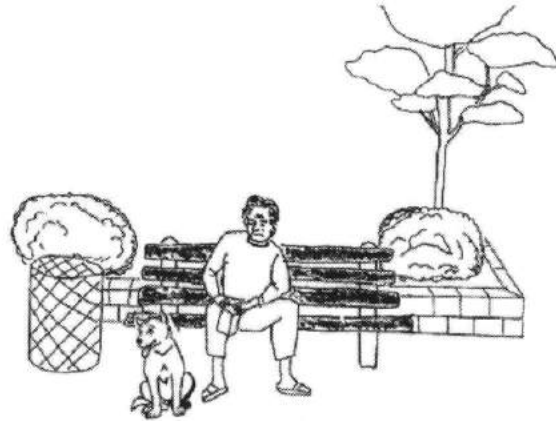


図2 場面B (動物あり条件)



図3-1 場面C (動物あり/若年女性条件)

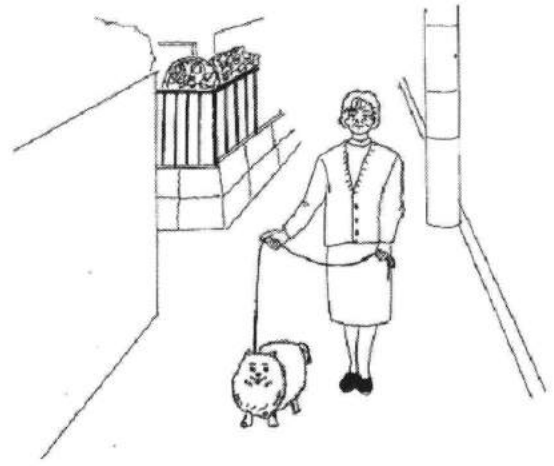


図3-2 場面C (動物あり/中年女性条件)

表1 人物評価用の形容詞対

健康な-不健康な	依存的な-独立的な
不安そうな-自信のある	幸せな-不幸な
知的な-知的でない	うれしい-悲しい
攻撃的な-攻撃的でない	大胆な-臆病な
強い-弱い	やさしい-乱暴な
勤勉な-怠惰な	孤独な-孤独でない
害のない-危険な	思いやりのない-思いやりのある
友好的でない-友好的な	裕福な-貧しい
信頼できる-信頼できない	

表2 絵の雰囲気や状態評価用の形容詞対

友好的な-敵意に満ちた	ユーモアのある-まじめな
破壊的な-建設的な	堅苦しい-くだけた
危険な-安全な	心地よい-不快な
緊張した-リラックスした	

2. 結果

全ての形容詞対について、その意味がより肯定的なときに得点が高くなるように、1～7点に得点化し（「0どちらも言えない」を選んだ場合は4点）、それを動物あり条件と動物なし条件の間で比較するt検定を行った¹⁾。刺激人物の評価についての結果を表3に、絵の雰囲気についての結果を表4にまとめて示した²⁾。なお、本研究では男性の被験者数が女性に比べて極端に少なかったため、性差の検討を行うことはできなかった。

【場面 A】

評定の対象とした刺激人物は、絵中の右側の白い服の女性であった。絵中に動物が描かれている場合（以下、動物あり条件 $n = 43$ ）は、動物が描かれていない場合（以下、動物なし条件 $n = 43$ ）よりも、絵中の人物は有意に「知的ではない」「弱い」「臆病な」と知覚されるとともに、より「依存的な」と知覚される傾向が示された。つまり、動物が側にいる人物の方が否定的な評価を受けた。

絵の雰囲気評価については、動物の有無の効果は見られなかった。

【場面 B】

場面 B 中の刺激人物の評定は、1つの形容詞対のみについて条件間に有意差が見られた。動物あり条件の方が、動物なし条件よりも、刺激人物はより「孤独でない」と知覚された。つまり、動物が側にいる刺激人物の方が肯定的な評価を受けた。

また、絵の雰囲気については、動物あり条件の方が動物なし条件よりも、有意に「友好的な」「リラックスした」「心地よい」と知覚された。つまり、動物がいる場面の方が肯定的な評価を受けた。

【場面 C】

絵中の人物の年齢（若年／中年）および動物の有無の2要因分散分析を行ったところ、「害のない－危険な」と「友好的な－友好的でない」の形容詞対で動物の主効果（それぞれ $F(1, 81) = 3.73, p < .10$; $F(1, 81) = 5.88, p < .05$ ）が見られ、「強い－弱い」「害のない－危険な」「独立的な－依存的な」で年齢の主効果（それぞれ $F(1, 81) = 3.45, p < .10$; $F(1, 81) = 3.78, p < .10$; $F(1, 82) = 6.33, p < .05$ ）が見られた。平均値を検討すると、動物あり条件の方が絵中の人物はより「危険な」「友好的でない」と否定的に知覚され、若年人物の方が「害のない」と知覚される一方、中年人物の方が「強い」「独立的な」と知覚された。年齢と動物の有無との交互作用は見られなかった。

また、絵の雰囲気については、「友好的な－敵意に満ちた」「建設的な－破壊的な」「リラックスした－緊張した」「くだけた－堅苦しい」において動物の有無の主効果が見られ（それぞれ $F(1, 82) = 2.86, p < .10$; $F(1, 82) = 3.69, p < .10$; $F(1, 82) = 4.03, p < .05$; $F(1, 81) = 3.96, p < .05$ ）、動物あり条件の方がより「敵意に満ちた」「破壊的な」「緊張した」「堅苦しい」と否定的に知覚された。人物の年齢の主効果および動物の有無と年齢の交互作用は見られなかった。

3. 考察

これまでの欧米の研究結果からは、動物が側にいる人物はより友好的で、幸福で、臆病でないといった肯定的な印象をもたれることが示されてきた（Lockwood, 1983; Rossbach & Wilson, 1992; Geries-Johnson & Kennedy, 1995）。このように動物が側にいることで人物がより「つきあいやすい相手」だと他者に知覚されることが、動物が人と人との会話や交流を促進する社会的効果の一因と考えられるだろう。

しかし本研究では、場面 A と C において、動物が側にいる人物は動物が側にいない人物よりもむしろ否定的な評価を受けた。このことは、動物と一緒にいる人は肯定的な印象を受けやすいという、これまで欧米で得られてきた知見と一致しない。一方、場面 B では動物がいる場合の方が人物は肯定的に知覚され、絵によって一貫しない結果が得られた。

このような結果が得られた理由を考察してみると、

1) Lockwood (1983) は、7段階評定で得られたデータを、例えば「非常に～やや、強い」と「非常に～やや、弱い」とに分割することにより2値データに変換し、 χ^2 検定によって被験者間の分布の比較を行っている。しかし、もともと7段階評定で得たデータをこのように縮約してしまうことは、データが持つ豊かな情報を切り捨ててしまうことを意味しており、望ましい分析法とは言えない。この点に対して Lockwood (1983) が正当な理由を述べていないことから、本研究では、データの変換を行わず、より適切と考えられるt検定を用いることとした。

2) ここで従属変数をまとめて尺度構成をしなかった理由は、探索的因子分析を行った結果、場面間で項目間の因子構造がかなり異なることが判明したからである。この分析法は、Lockwood (1983) と同様である。

表3 人物の評定平均値(括弧内SD)とt検定結果

	場面A			場面B			場面C(若年女性)			場面C(中年女性)		
	動物あり		動物なし	動物あり		動物なし	動物あり		動物なし	動物あり		動物なし
	mean (SD)	t	mean (SD)	t	mean (SD)	t	mean (SD)	t	mean (SD)	t	mean (SD)	t
1) 健康な-不健康な	5.14 (1.32)	-1.59	4.51 (1.72)	4.14 (1.47)	1.08	5.91 (1.27)	6.10 (0.94)	-0.54	5.52 (0.93)	5.91 (1.18)	-1.15	
2) 自信のある-不安そうな	5.05 (1.46)	-1.25	3.74 (1.72)	3.30 (1.83)	1.15	4.59 (1.71)	5.38 (1.16)	-1.78*	5.33 (1.62)	5.29 (1.68)	0.09	
3) 知的な-知的でない	5.65 (1.46)	-2.01*	4.12 (1.48)	4.12 (1.43)	0.00	5.59 (1.33)	5.62 (1.16)	-0.07	5.67 (1.32)	5.38 (1.24)	0.72	
4) 攻撃的でない-攻撃的な	5.91 (1.44)	-0.89	4.88 (1.80)	4.63 (1.54)	0.71	6.18 (1.01)	5.95 (1.24)	0.66	5.43 (1.60)	5.86 (1.32)	-0.98	
5) 強い-弱い	4.30 (1.37)	-2.59*	3.91 (1.63)	4.07 (1.49)	-0.49	3.91 (1.15)	4.43 (1.33)	-1.37	4.76 (1.22)	4.62 (1.50)	0.34	
6) 勤勉な-怠惰な	5.84 (1.07)	-0.74	4.26 (1.61)	4.02 (1.60)	0.67	5.86 (1.28)	5.62 (0.97)	0.70	5.38 (1.24)	5.76 (1.14)	-1.04	
7) 害のない-危険な	5.81 (1.44)	0.26	4.56 (1.64)	4.74 (1.42)	-0.56	5.86 (1.46)	6.52 (0.60)	-1.92*	5.43 (1.66)	5.86 (1.24)	-0.95	
8) 友好的な-友好的でない	5.28 (1.92)	0.06	3.74 (1.61)	3.93 (1.55)	-0.55	4.91 (1.95)	5.86 (1.35)	-1.84*	4.52 (1.69)	5.38 (1.80)	-1.59	
9) 信頼できる-信頼できない	5.91 (1.36)	-0.77	4.40 (1.55)	4.14 (1.55)	0.77	5.68 (1.29)	5.57 (1.57)	0.25	5.29 (1.31)	6.05 (1.05)	-2.11*	
10) 独立的な-依存的な	5.05 (1.66)	-1.70*	4.79 (1.63)	4.47 (1.75)	0.89	3.91 (1.57)	4.33 (1.59)	-0.88	5.14 (1.20)	4.77 (1.73)	0.81	
11) 幸せな-不幸な	5.49 (1.50)	-0.08	4.19 (1.59)	3.72 (1.65)	1.33	5.45 (1.44)	6.19 (1.12)	-1.86*	5.52 (1.25)	5.64 (1.56)	-0.26	
12) うれしい-悲しい	4.93 (1.42)	-0.36	3.74 (1.35)	3.44 (1.45)	0.97	5.05 (1.50)	6.14 (0.91)	-2.92**	5.05 (1.53)	5.48 (1.78)	-0.84	
13) 大胆な-臆病な	3.98 (0.83)	-2.85**	3.72 (1.55)	3.63 (1.27)	0.30	3.77 (1.23)	4.19 (1.08)	-1.18	4.19 (1.03)	4.41 (0.85)	-0.76	
14) やさしい-乱暴な	5.81 (1.12)	-0.47	4.65 (1.72)	4.61 (1.50)	0.14	5.64 (1.14)	6.05 (0.67)	-1.45	5.43 (1.33)	5.64 (1.22)	-0.54	
15) 孤独でない-孤独な	4.84 (1.76)	0.75	3.70 (1.81)	2.95 (1.62)	2.01*	4.68 (1.96)	5.52 (1.37)	-1.63	4.57 (1.66)	4.91 (1.77)	-0.64	
16) 思いやりのある-思いやりのない	5.58 (1.22)	-0.15	4.61 (1.75)	4.67 (1.17)	-0.22	5.09 (1.60)	5.57 (1.43)	-1.03	5.19 (1.50)	5.59 (1.47)	-0.88	
17) 裕福な-貧しい	5.88 (1.24)	-0.77	3.67 (1.49)	3.63 (1.60)	0.14	5.46 (1.57)	5.62 (1.36)	-0.37	6.00 (0.89)	5.41 (1.47)	1.60	

** p<0.01, * p<0.05, + p<0.10

表4 絵の雰囲気の評定平均値(括弧内SD)とt検定結果

	場面A			場面B			場面C(若年女性)			場面C(中年女性)		
	動物あり mean (SD)	動物なし mean (SD)	t	動物あり mean (SD)	動物なし mean (SD)	t	動物あり mean (SD)	動物なし mean (SD)	t	動物あり mean (SD)	動物なし mean (SD)	t
1) 友好的な-敵意に満ちた	5.61 (1.55)	5.55 (1.49)	0.21	4.95 (1.34)	4.16 (1.38)	2.69**	5.50 (1.30)	5.95 (1.02)	-1.26	5.14 (1.53)	5.73 (1.72)	-1.18
2) 建設的な-破壊的な	4.93 (1.16)	5.33 (1.34)	-1.46	4.30 (1.06)	4.02 (1.28)	1.10	5.09 (1.31)	5.62 (1.12)	-1.42	5.00 (1.27)	5.50 (1.26)	-1.30
3) 安全な-危険な	5.98 (1.32)	6.10 (1.23)	-0.43	5.19 (1.74)	4.74 (1.42)	1.29	5.50 (1.74)	6.10 (1.09)	-1.35	5.29 (1.74)	5.59 (1.74)	-0.58
4) リラックスした-緊張した	5.62 (1.85)	5.26 (1.90)	0.87	5.28 (1.55)	4.47 (1.72)	2.30*	5.18 (1.68)	6.14 (1.20)	-2.15*	5.00 (1.61)	5.46 (1.95)	-0.83
5) ユーモアのある-まじめな	3.79 (1.88)	3.36 (1.95)	1.03	3.28 (1.45)	2.98 (1.28)	1.02	3.27 (1.96)	3.67 (1.65)	-0.71	2.81 (0.98)	3.27 (1.83)	-1.04
6) くだけた-堅苦しい	4.10 (1.90)	4.26 (1.82)	-0.41	4.19 (1.45)	4.09 (1.46)	0.30	3.77 (1.63)	4.33 (0.86)	-1.42	3.57 (1.25)	4.19 (1.57)	-1.42
7) 心地よい-不快な	5.07 (1.86)	5.31 (1.85)	-0.60	4.42 (1.75)	3.77 (1.77)	1.72+	5.36 (1.53)	5.71 (1.38)	-0.79	5.00 (1.58)	5.41 (1.82)	-0.79

** p<0.01, * p<0.05, + p<0.10

単位

場面 A・C と、場面 B の間に、いくつかの違いがあることがわかる。まず、場面 A・C の人物は女性であるが、場面 B の人物は男性である。また、場面 A・C の動物は愛玩犬であるが、場面 B では大型の雑種犬である。さらに、場面 A・C の動物は居間にいたり鎖でつながれていたりすることからおそらく人物のペットであることが想像されるが、場面 B に関しては人物と動物の関係は不明確である。これらの要因が、被験者に場面 A・C の人物と動物との間に「密着した関係」を想起させ、そのことが人物や光景の評価を好ましくないものにした可能性もある。しかし、この解釈については推測の域を出ない。

さらに、本研究結果の解釈の際に注意しなければならないのは、本研究で得られた否定的な評価は本当に悪い評価なのか、という点である。本研究では、先行研究にもとづいて、形容詞対のある一方を「肯定的」、その対極にある一方を「否定的」としてきた。しかし、例えば場面 A や C で「より弱い」「より依存的」と判断されたことが本当に否定的な評価を意味するのかわかるとは、実は一概には決めることはできない。なぜならば、対人関係における調和の維持が重視される日本社会においては、「強い」あるいは「独立的」などといった印象が、対人関係の促進という点ではむしろ不利に働く可能性も否定できないからである (cf. Markus & Kitayama, 1991)。この点については、今後の研究において、刺激人物を SD 尺度によって評価させるだけでなく、例えば刺激人物と交流を持ちたいと思うかどうかを尋ねる項目等を用いてより詳細に検討する必要があるだろう。

いずれにしても、少なくとも現時点においては動物の存在が人の印象に及ぼす影響が欧米のそれとは同じではなかった、ということは重要な知見である。実際、現在の日本では、マンションや百貨店の広告などで犬が「幸せな家庭」の雰囲気作りに用いられる一方で、ペットを飼う人が「マナーがなっていない」「寂しい人」などと必ずしも肯定的なイメージを持たれているわけではないことも明らかになっている (Kaneko-Yuki & Akiyama, 2001)。今後は、欧米とは異なる日本の住宅事情や、少子高齢社会ゆえの人とペットの関わり方などの文化的要因を考慮に入れつつ、日本においては本当に動物の存在が人と人の社会的相互作用を促進しない場合があるのか、またそうした可能性があるとする

ればそれはどのような状況で起こるのか、といった問題をより詳細に検討していくことが望まれる。ペットブームと言われて久しく、「ペットは家族の一員」という言葉にもおよそ抵抗がなくなりつつある日本において、今後人と動物のあるべき関係を考えていくことが必要となっていくだろう。

引用文献

- Cain, A. O. (1983). A study of pets in the family system. In A. H. Katcher, & A. M. Beck (Eds.) *New perspectives on our lives with companion animals* (pp 72-81). Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- DeMello, L. R. (1999). The effect of the presence of a companion-animal on physiological changes following the termination of cognitive stressors. *Psychology and Health*, 14, 859-868.
- Friedman, E., Katcher, A. H., Lynch, J. J., & Thomas, S. A. (1980). Animal companions and one year survival of patients after discharge from a coronary care unit. *Public Health Reports*, 95, 307-312.
- Geries-Johnson, B., & Kennedy, J. H. (1995). Influence of animals on perceived likability of people. *Perceptual and Motor Skills*, 80, 432-434.
- Goldmeier, J. (1986). Pet or People: Another research note. *The Gerontologist*, 26, 203-206.
- Kaneko-Yuki, M., & Akiyama, H. (2001). Companion animal in social network and mental health. In K. J. Ajrouch (Chair), *Health issues in med-life and old age*. Symposium conducted at the 54th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America, Chicago, IL, November.
- Lockwood, R. (1983). The influence of animals on social perception. In Katcher, A. H. Beck, A. M. (Eds.), *New perspectives on our lives with companion animals* (pp 64-71). Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, 98, 224-253.
- Messent, P. R. (1983). Social facilitation of contact with other people by pet dogs. In A. H. Katcher, & A. M. Beck (Eds.), *New perspectives on our lives with companion animals* (pp. 37-46). Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Mugford, R. A., & M' Comisky, J. G. (1975). Some recent work on the psychotherapeutic value of cage birds with old people. In R. S. Anderson (Ed.), *Pet animals and society* (pp. 54-65). London: Bailliere Tindall.
- Rogers, J., Hart, L. A., & Boltz, R. P. (1993). The role of pet dogs in casual conversations of elderly adults. *The Journal of Social Psychology*, 133, 265-277.
- Rossbach, K. A., & Wilson, J. P. (1992). Does a dog's presence

- make a person appear more likeable? : Two studies.
Anthrozoös, 5, 40-51.
- Veevers, J. E. (1985). The social meanings of pets : Alternative roles for companion animals. *Marriage and Family Review*, 8, 11-30.
- Zasloff, R. L., & Kidd, A. H. (1994). Loneliness and pet ownership among single women. *Psychological Reports*, 75, 747-752.
- 総理府 (2000) 「臓器移植・動物愛護」 「月刊世論調査」 (総理府広報室編) 2000年11月号

終末期のペットをもつ飼主の気持ちを考える

—在宅療養を望む飼主とのインタビューから分析する—

西谷孝子¹⁾・西谷利文²⁾ (西谷獣医科病院)

The consideration for feelings of takecarers who have pets in Terminal Care
— A series of interviews to a takecarer who desire to care for pets at home —

Takako NISHIYA・Toshifumi NISHIYA

はじめに

獣医療の進歩および一般家庭におけるコンパニオン・アニマルへの関心度に伴って、犬の平均寿命が延長し、老齢犬を受診する機会が増加している。それと同じく終末期へと進む患畜も多く、ペットの残された時間を一緒に過ごしていきたいと希望する飼主も多い。

今回、愛犬がリンパ腫と診断され、終末期を迎えるに当たりその治療を病院ではなく在宅で希望された飼主に、インタビューを行った。その結果、終末期のペットを持つ飼主の気持ちを考えることができ、今後の終末期の在宅療法の指標を得たので報告する。

1. 研究目的

- 1) 終末期の在宅療法を希望する飼主の気持ちを知る。
- 2) 終末期の在宅療法における動物看護師の役割を確認する。

2. 研究方法

1) 調査期間

平成14年6月30日から平成14年7月12日

2) 調査対象者

当院にてリンパ腫治療中で、在宅療養を望む飼主 1名

3) 調査方法

面接時間は1時間から1時間30分で、会話の内容はMD(マイクロディスク)に録音した。病気の告知を受けてからの飼主の気持ち、また動物病院との

かかわりなど、いままでの経過を振り返ってもらう形でインタビューした。

3. 患畜と飼主の紹介

【患畜】

ゴールデン・レトリバー (愛称:ベティちゃん)、雌、6歳、体重25kg

〈在宅療養前〉

平成13年4月27日に頸部の腫脹を主訴として来院し、組織検査によりリンパ腫と診断された。同年5月17日から抗癌治療を開始し、合計8回行った。その後約半年間は経過良好であったが、平成14年5月7日再び頸部のリンパが腫大し、翌日より再度多剤による抗癌治療を開始した。その後約1ヶ月間は経過良好であった。しかしながら全身状態が悪化し、抗がん剤の投与を中止せざるを得なくなった。その後ステロイドと抗生物質のみの投薬で様子を見ていたが、平成14年6月30日より状態がさらに悪化し、飼主の希望で在宅療養となった。

〈在宅療養後〉

平成14年6月30日夜から在宅療養となり、7月1日から4日まで1日2回(朝・夜)当院獣医師が往診していた。昼中も飼主は患畜の途中経過(体温・排泄の有無など)を電話で報告してくれていた。往診3日目には、フードを食べ始め自力で排尿もするようになったので、点滴治療を終了し自宅で様子を見てもらうことになった。7月5日に飼主のインタビューへ訪問した時は、食欲の維持もできていた。

【飼主】

飼主は55歳の女性主婦。家族構成は飼主ご夫婦と4

1) 西谷獣医科病院 動物看護師 2) 西谷獣医科病院 獣医師
〒721-0902 広島県福山市春日町浦上2016番1号

歳のラブラドル・レトリバー（愛称：キャロルちゃん）。愛犬2頭とも専属のトレーナーがいて、しつけのトレーニングをしている。「犬は自分の子供のようだ」と話している、日頃から食事や健康管理に対しても意識している。また、毎日愛犬を連れて近くの公園を散歩している。その公園には同じように犬を連れて友達がおり、犬同士を遊ばせたり、飼主同士が話を交わしたりしている。そして、犬がもたらしてくれる喜びなどをよく話している。

7年前に、飼っていたアフガンハウンドが頸部の腫瘍により当病院で亡くなっている。

4. インタビューの結果

【1回目】

7月4日に飼主宅にて（飼主、獣医師1名、動物看護師1名）。時間は19～20時まで。患畜の状況としては、在宅で点滴を始めて3日目の、患畜の状態が回復している時点での面接。

以下、「質問内容」とそれに対する「飼主の言葉」

①リンパ腫の告知を聞いた時の心情

「獣医師を信じているので、そんなに大きな不安もなく冷静でいられた。検査結果も最悪の場合を考えていました」

②抗癌治療を始めてからの気持ち

「ベティの負担にならないようにと、いつでも考えられています。1週間に1回から3週間に1回になって、ベティなら絶対がんばり続けてくれると思いました」

③状態が悪いが在宅療養に移行した時

「状態が悪いと電話を受けた時には、パニックとなり、自分の中では冷静でいたつもりでしたが、自分で車の運転ができませんでした。飼主仲間に運転をお願いしました。彼らは夜遅くまで、ベティに付き添ってくれました」

④現在の様子

「ベティのつらい顔を見るのが、私にとっても苦痛なので、皆がもうベティに『がんばらなくてもいい』と伝えて、ベティに自分で決めさせた結果がこの状態

です。フードも少しずつ食べ、自力で歩けるようになりました」

⑤病院の対応について

「人間であれば子供であっても、どこが痛いとか、どのようにしんどいとか教えてくれますが、犬の場合はまったく分かりません。だから飼主は、人に対して以上に不安感があります。人間とは違うが、病んでいる時は犬も同じです。犬には不安感を尋ねることができません。目、食欲、動きでしか判断できません。病院側は、その時の飼主に対するケアはできていました。診察後に『その後はいかがですか』という電話をこまめにいただいて、心強かったです」

⑥公園の仲間について

「飼主仲間10名ほどで連絡網を作っています。良いことも悪いことも、連絡網でまわして皆でディスカッションします」

【2回目】

7月5日に飼主宅にて（飼主、動物看護師2名）。19時より20時まで。

①現在の気持ち

「ベティが立位できなくなった時、完全に介護してあげようと思いました。往診にも来てくれて安心です。前に飼っていた犬も、腫瘍が原因で病院にて息を引き取っていますので、そのこともあり、自宅で介護しようと思いました」

②病院の対応について

「どこが痛いかも分からない中で、ベティのあの顔を見たら、『治療はもういいです』となります。多くの仲間に恵まれています不安はあります。そんな時は、病院スタッフのケアに助けられます」

③金銭面について

「先生から治療に入る前に『コストもかなりかかる』と言われたが、値段を聞いてから治療を止めるのはよくない。また治療は、一度中止した後に再開することを繰り返せば、コストもかかってしまう。この子たちからもらう癒しは、お金では換えられません。何か気になれば、すぐ病院にも連れて行きます」

5. 考察

インタビューという、対象者が話したいことを自由に話せるように配慮した、あらかじめ構成されてない流動的な質問を行った。今回、インタビューでの答えを元に考察する。

飼主は、愛犬が頸部のリンパ腫と告知を受けた危機的状況の時に、多少の動揺はあったものの冷静でいられたと答えている。このことは、以前に飼っていた犬も悪性腫瘍で亡くした経験があることと、2回目のインタビューにもあるように、「完全に介護してあげようと思いました」という気持ちを、常日頃から持っていたことによるのではないかと考えられる。

保坂¹⁾は、「人はこのような危機に際して、それまでに学習してきたコーピング（対処法）や無意識的な心理的防衛機制を用いて対処していこうとする」また、「患者より家族の方が危機を早く脱出する理由は、親戚や同じように患者を持つ他の家族などと励まし合ったりすることで相互のソーシャルサポートが得られ、それによって危機を早め乗り越えることができるためと考えられる。同時に患者自身の危機のほうがかはるかにシビアなため、＜わたしががんばらなければ＞という機制が強く働くからであろう」と述べている。

今回のケースにおいては、在宅療法を行っている飼主宅において、一緒に見守ってくれる飼主仲間の存在は心の支えとして大きくあり、このような背景も、終末期を家で迎えようとする一因となっているのではないかと考える。終末期を在宅で迎えたいと希望する飼主がいる場合、過去にペットの死に立ち会ったことがあるか、また、介護する飼主を精神的に支える存在の人たちがいるか、ということも、情報として収集しておく必要があると考える。

さらに、重症で終末期のペットを持つ飼主は、医療者が常時いない家で過ごしていくことは大きな不安があると考える。例えば今回の事例では、飼主は、

「ベティのつらい顔を見るのがとても苦痛なので」

「ベティのあの顔を見たら、『治療はもういいです』となります」

「（不安感）犬の場合にはまったく分かりません」

「多くの仲間に恵まれています不安はあります。そんな時は、病院スタッフのケアに助けられます」

「診察後に『その後はいかがですか』という電話をこまめにいただけて、心強かったです」

という発言が認められている。これらの点についての不安をいかに軽減できるかが、課題であると考ええる。

今回は在宅にて、点滴時は動物看護師が同行して1日2回の往診、動物看護師より飼主へ様子を尋ねる電話、また、獣医師の携帯電話の番号も飼主に知らせて急変に備えた。その結果、飼主にとっては、病院スタッフに助けられているという気持ちにつながったのであろう。

川越²⁾は在宅ターミナルケアの条件として、「①看取る家族がいること、②症状がコントロールされていること、③往診するかかりつけの医者がいること、④訪問する訪問看護師がいること、⑤積極的な延命治療を希望してないこと、⑥緊急時の入院先が確保されていること」と述べている。在宅療法に移行しても、入院時と変わらぬ管理と状況の把握ができるようにすること、また、介護している飼主の気持ちを考えた配慮が、つねに必要なことが川越の主張からも示唆される。

インタビューの最後には、金銭面の話を聞くことができた。動物の医療において、医療費の問題は飼主にとって大きな割合を占める。今回は、治療を受ける段階で獣医師より説明を受け、飼主も納得し、望む治療を受けられていると考える。しかしながら、すべての飼主がそのような方法を望むとも限らない。どのような状況下であっても、飼主は病名の告知を受け、病状を正しく理解し、在宅での介護の意思を家族で確認し、獣医師より金銭面での説明も受け、治療に参加してもらいたい。

まとめ

終末期を在宅で迎える飼主への、動物看護の介入方法として、以下のことに配慮する必要がある。

- 以前にペットの死をどのような形で経験しているかを、情報収集しておく。
- 主に介護する飼主の精神的支えとなる人がいるかどうかを、把握しておく。
- 介護する者の不安が軽減することを看護目標として、動物看護の計画を具体的に立案し実施していく。

おわりに

今回の患者は、調査期間が終わり在宅療養11日目（7月11日）に、食欲不振で外来受診時に急変し永眠

した。飼主さんも快くインタビューに応じてくださり、飼主の気持ちをよく理解することができた。逝く前に一緒に公園にも出かけ、公園の仲間の犬たち一頭一頭に挨拶をしているようだったとも言われた。今回のインタビューを通して、人と動物の関係を深く考えることができたことに本当に感謝したい。これからも、飼主の多様化するニーズに答えられるように、動物看護師として考えていきたいと思う。

引用文献

- 1) 保坂隆 (2002) 「危機モデルと危機の介入」『ナーシング・ムック11 全科に役立つメンタルナーシング』(保坂隆編) p28, 学習研究社
- 2) 川越博美 (2002) 「在宅ターミナルケアを始めましょう」『コミュニティケア双書5 在宅ターミナルケアのすすめ』p33, 日本看護協会出版会

北川動物病院におけるフェレットの入院看護の工夫

高嶋絵理子¹⁾・森本かおり²⁾・古川修治³⁾・山村穂積⁴⁾ (北川動物病院)

The hospitalization of ferrets at the Kitagawa Animal Hospital

Eriko TAKASHIMA・Kaori MORIMOTO・Shuji FURUKAWA・Hozumi YAMAMURA

近年、フェレットは犬や猫につづくコンパニオンアニマルとしての人気が高まり、飼育頭数の増加が実感される。実際、北川動物病院でもフェレットの来院頭数は確実に増加している。また、来院頭数の増加に伴い、フェレットの生態に基づく専門的な看護が要求されるようになってきた。しかし、その入院看護については、犬や猫用の設備を流用することが多いため、様々な問題が生じている。本論文では、フェレットの入院看護について、北川動物病院における問題点とそれに対し実施している工夫を述べる。

1997年7月から2002年6月までの間について、北川動物病院におけるフェレットの来院頭数、および入院頭数を調査した(図1)。フェレットの来院頭数は348頭(雄188頭、雌160頭)で、うち入院頭数は61頭(雄37頭、雌24頭)であった。また、年別に観察すると来院頭数の増加に伴う入院頭数の増加が認められた。入

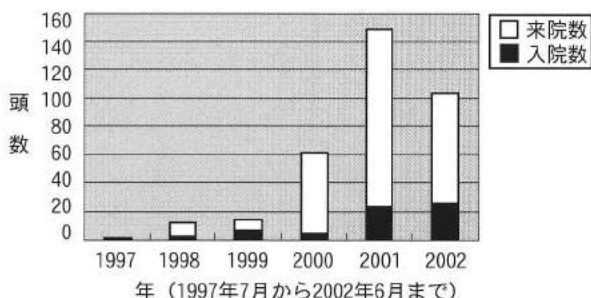


図1 北川動物病院における、フェレットの来院頭数に対する入院頭数

1) 北川動物病院 動物看護師
 2) 北川動物病院 獣医師
 3) 北川動物病院 獣医師・病院長
 4) 北川動物病院 獣医師・病院長
 〒174-0072 東京都板橋区南常盤台1丁目39番1号

院を必要とした主な疾患には、気管支肺炎、糖尿病、インスリノーマ、副腎腫瘍、ならびに消化管内異物があげられる。入院頭数の増加とともに、フェレット特有の生理機能や行動特性に関連した、入院看護における諸問題を経験することとなった。

1. フェレットの入院看護における問題点

1) フェレットの消化管の構造と機能から考えられる問題点¹⁾²⁾。

①フェレットは犬猫に比べて消化管が短いことから、食物の消化および通過時間が速い(約3時間)。そのため、食欲不振のフェレットには1日5~6回の強制給餌が必要である。

②排便回数が多いことから、1日4~5回の掃除を行う必要がある。

2) フェレットの行動特性から考えられる問題点¹⁾²⁾。

①犬猫用のステンレス製やプラスチック製の食器では転倒させたり、かじる可能性がある。

②輸液のラインをねじったり、ラインが体に絡まる可能性が高い。

③輸液のラインや留置針、および外科手術後の縫合部位や縫合糸をかじることが多い。

④犬舎の格子の間から逃亡したり、格子の間に挟まり受傷する危険性がある。

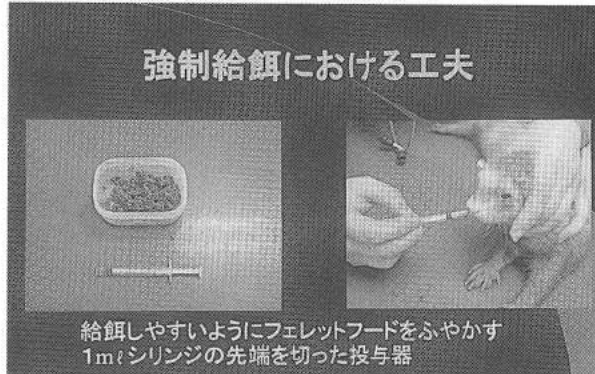
2. 入院看護の工夫

前述した問題点に対し、本院では次のような工夫をこらして対処している。

1) フェレットの消化管の構造と機能から考えられる問題点に対する工夫

①強制給餌における工夫

1mlのプラスチックシリンジの先端を切り、角を丸めて給餌器を作製した。その給餌器を用いて、ふやかしたフェレットフードを与えた。1日5～6回の強制給餌が必要な場合でも、1回に費やす時間が短縮できた。



2) フェレットの行動特性から考えられる問題点に対する工夫

①食器の工夫

平らで浅い陶食器を用いて¹⁾、転倒やかじることを防いだ。

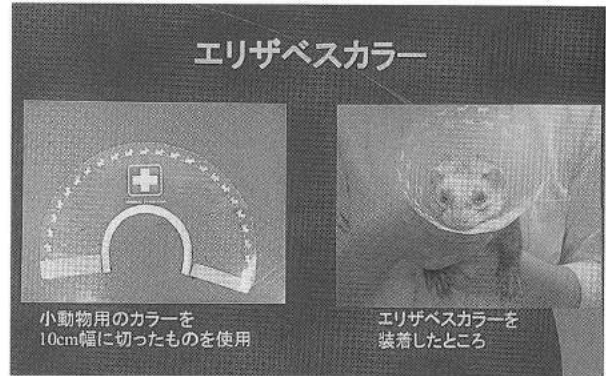
②点滴ルートの工夫

犬舎天井に固定した部位が回転する仕組みになっている、絡まないように工夫された輸液ライン(Standard save kit[®]〈米国・International Win社〉)の使用によって、点検回数を減らすことができた。



③エリザベスカラーの装着

フェレットに合わせ、小型動物用のエリザベスカラーを約10cm幅に切断して使用した。エリザベスカラーを装着することで、術創やカテーテルなどをかじることが防げた。



④犬舎における工夫

入院犬舎の扉にプラスチック製の板を貼り付けることで、逃亡や格子による事故を防げた。犬舎は通気性が必要なため²⁾、その上部には板を貼り付けないようにする。



3. 考察

北川動物病院におけるフェレットの入院頭数は年々増加傾向にあるものの、専用の入院設備を早急に整えることが困難であったため、フェレットの生態に対応した様々な工夫が必要になった。本論文では、北川動物病院におけるフェレットの入院看護の工夫について述べた。それらの工夫によって、フェレットに対する安全性と仕事効率の向上が実感できた。われわれは、今後もさらなる工夫を重ね、フェレットに対するよりよい入院環境を作ることを心掛けていきたい。

参考文献

- 1) 霍野晋吉 (1998) 『エキゾチックアニマルの診療指針 Vol. 1』 p110～133, インターズー
- 2) Elizabeth V. Hillyer, Katherine E. Quesenberry 編 (1998) 『フェレット、ウサギ、げっ歯類—内科と外科の臨床—』 (長谷川篤彦、板垣慎一監修) p1～27, 学窓社

当院における伝染性疾患に対する看護

—猫カリシウイルス感染症の看護を実践しての一考察—

西元博子（西谷獣医科病院）

The care for infectious diseases at the Nishiya Animal Hospital

— A case report of feline calicivirus infection —

Hiroko NISHIMOTO

はじめに

動物の伝染性疾患の看護において、注意すべき点は、抵抗力が弱くなっているために院内感染を起こす危険性があるということである。院内感染が起これば、その患畜の病状が悪化し生命の危険にさらされてしまう。また動物病院には、たくさんの動物が診察に来るために、それらの動物に感染する危険性もある。近年、こういった感染患畜に対する院内感染対策の問題は獣医療の場で大変重要な問題となっており、感染症に対する十分な理解が必要であると考えられる。

当院では院内感染を防ぐため、伝染性の患畜には隔離室での看護を行い、ガウンテクニック、感染性廃棄物の分別、使用した食器類の消毒などを行っている。

今回、伝染性疾患の一患畜について、抵抗力低下による院内感染の危険性を考えて、隔離室にて看護を行った。ここに当病院における伝染性疾患の看護の実際と、感染症の対策と予防、感染患畜についての取扱いについての一考察を報告する。

1. 症例紹介

猫：雑種、雄、年齢不詳

診断名：猫カリシウイルス感染症

場所：病院内の隔離室

現病歴：『3日前からくしゃみをする。食欲もない』と来院し、猫ウイルス性鼻気管炎（feline viral rhinotracheitis：FVR）を疑い、インターキャット®を皮下注射し、自宅にて抗生物質の投与を行っていたが、

6日後『水もフードも口にしない』と再来院し、皮下補液を行い、続けて自宅にて抗生物質の投与を行っていた。1週間後再来院の際、症状改善されておらず『水もフードもまったく口にしない』と飼主から言われる。鼻から口にかけて分泌物でドロドロになっている。

治療方針：内科的治療

治療内容：皮下補液、抗生物質の投与

薬物：皮下補液（ラクテック®）、皮下注射（バイトリル®）、初日のみ AD3E®

食事：猫用メンテナンス ヘルシーツナ®（缶詰）

入院期間：平成14年3月18日～25日

2. 看護の実際

1) 看護上の問題点

- ①衰弱しているため、状態が悪化し死亡する恐れがある。
- ②全身状態が悪いため、二次感染を起こしやすい。
- ③隔離室にいるため、異常の早期発見がされにくい。

2) 看護目標

- ①全身状態が改善され、元気、食欲がでる。
- ②二次感染を起こさない。
- ③治療が確実に受けられる。

3) 看護計画

- ・1日2回の見回り時の観察ポイント——バイタル測定、脱水の状態、尿測、流涎、くしゃみ、食欲。
- ・1日2回、確実に皮下補液、皮下注射を行う。
- ・顔面が汚染されやすいので、湯拭きなどをして清潔を保つ。
- ・ケージ内の二次感染を防ぐため、つねに清潔にする。

- ・感染症のため最小限の観察しかできないので、ひんぱんに隔離室の小窓より観察を行う。
- ・感染症のため、観察にはガウンテクニックを用い、これを最後に行う。

3. 当院での伝染病の看護の実践

●入院1～2日目

患畜は伝染性疾患感染症なので、他の患畜への感染を避けるため、病院内の隔離室にケージを置き看護を行った(写真1)。基本的に、観察や処置をするのは9時と19時の1日2回とし、その間は隔離室と隣接する小窓より観察した(写真2)。病院内の出入りを最小限にするため、必要物品は事前に隔離室に数日分用意し、それを使用した。観察をする時はガウン、帽子、マスクを着用し、観察者の体が病原体に汚染されないよう注意した(写真3)。バイタル測定中興奮したためか口から泡が出ている。目はあまり開いておらず下を向いたままであった。鼻水が出ておりくしゃみをよくしていた。流涎がひどく、皿の中の水はよだれでドロドロになっている。顔の湯拭きを行うが両前肢で抵抗する。フードはまったく食べておらずそのまま残っている。ケージの上のドアを開けて皮下補液、皮下注射を行うが、とてもおとなしくしており、頭を手にすり寄せてくる。皮下補液は2人がかりで確実に行うようにした(写真4)。補液は使用したものをナイロン袋に入れ密封し、アンテックビルコンS®を1%に希釈したもので消毒をし、孵卵器に入れてつねに暖かいものを使用した。観察はすべての非伝染性疾患の患畜の最後に行い、観察後は、頭、体、靴の裏など体中をアンテックビルコンS®にて消毒を行い、院内に入り薬用石鹸で手を洗い、ウエルバス®で消毒した。

●入院3～4日目

鼻水が出ており時々くしゃみをしている。シートへ黒っぽい軟便が出ており、尻から後肢にかけて汚れているので湯拭きを行った。フードはまったく食べていないが、流涎が少なくなり少し改善している。皮下補液しているとケージから出ようとするようになる。使用したオムツシート、点滴パック、新聞紙、フードの残り、排泄物は、隔離室内に感染性廃棄物用にごみ箱を作り、普通ごみと区別して処分した。

●入院5日目～7日目

表情がよく、ニャーニャー鳴いている。くしゃみをし鼻水も垂れているが、前ほど多くなく流涎は出ていない。缶づめを口に付けると少しなめるようになったが、2～3回すると抵抗するようになり、隙があるとケージから出ようとして元気が出てきた様子。

●退院日

症状が改善して退院となる。退院時は皮下補液を行い、飼主は病院内には入らず、隔離室よりそのまま連れて帰ってもらう。退院後の隔離室はケージ、ごみ箱、隔離室内の天井、床、壁、ドアなど汚染されている場所すべてを、アンテックビルコンS®で入念に消毒を行い、1日以上おいた後、床は次亜塩素酸ナトリウムを約2%に希釈したもので洗浄し、壁、ドアなども雑巾で拭き、感染性廃棄物として処理した。また、使用した皿、ガウン、タオルも次亜塩素酸ナトリウムを希釈した水溶液に漬け、使用済みの針、ガラスシリンジはアンテックビルコンS®をかけて消毒を行った。そしてどちらも1日以上おき、ガウンなどは他のものと分けて漂白剤入りの洗剤を使用し洗濯を行い、ガラスシリンジなどは蒸気滅菌し、紫外線殺菌灯にて保存した。

4. 考察

今回の症例は感染症にかかっていたため、院内感染の危険性を考え隔離室にて看護した。その結果、入院中は症状の悪化や二次感染はみられず、食欲もでてきたところで退院となった。伝染性疾患の患畜が入院した場合、まずは非伝染性疾患の患畜とは隔離し看護する必要があることと、その反面、異常の早期発見がされにくいことをつねに考えながら看護しなくてはならない。当院での伝染性疾患の患畜の看護は、病院内の酸素室を隔離室とし、そこにケージを置き看護を行っている。基本的に観察や処置を行うのは9時と19時の1日2回としている。その間は、隔離室と隣接する部屋の小窓から観察するようにした。そして、病院内の出入りを最小限にするため、必要物品は事前に隔離室に数日分用意しそれを使用した。また観察は、すべての非伝染性疾患の患畜の最後に行い、観察後は院内を通らずに表玄関より入っている。このように、つねに、動物看護師の「動線」を考えることは大切である。川

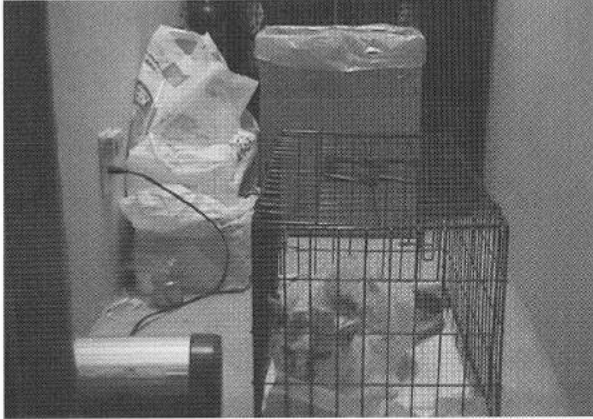


写真1 隔離室内の様子



(隔離室の外観)

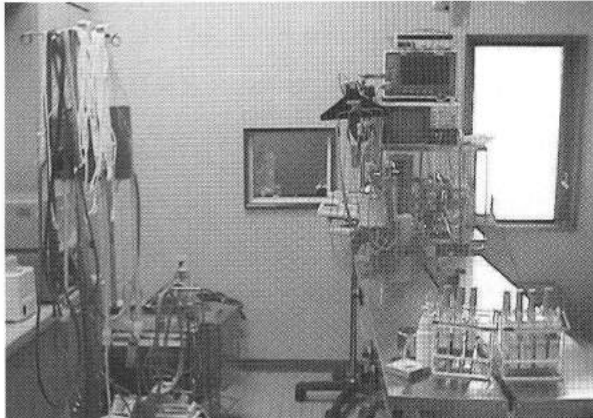


写真2 隔離室と隣接する小窓

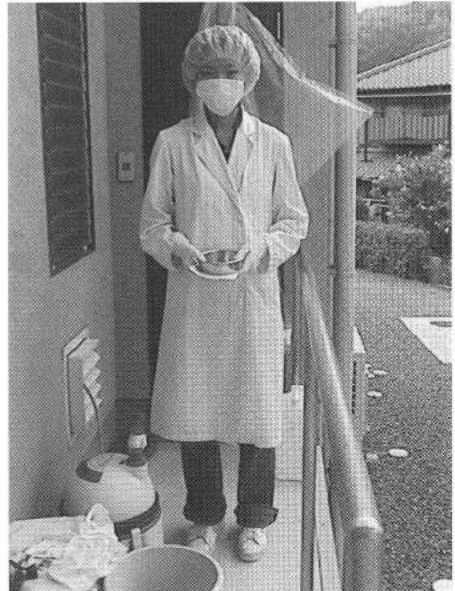


写真3 ガウン・帽子・マスク・手袋着用時

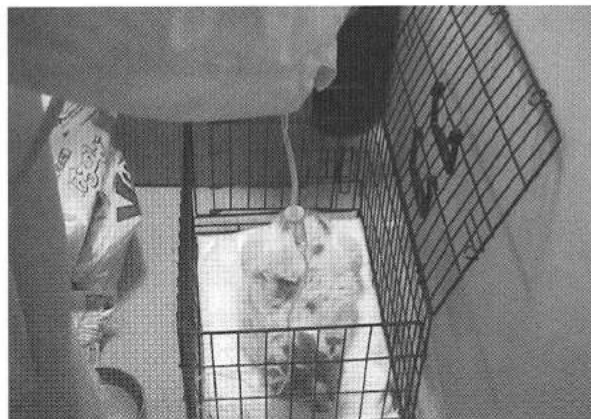


写真4 隔離室内での皮下補液の様子

島ら¹⁾は、「病院の構造は、汚染区から一般区へ、一般区域から順清潔区域へ一段階ずつ上がるように配置され、同様に人の動線や物品の移動も、清潔区域と一般区域が交差しないことが鉄則である」と述べている。

次に観察時には、ガウン、帽子、マスクを着用し、観察者の体が病原体に汚染されないよう注意した。患者は来院時、流涎やクシャミがひどかったため、観察時の観察者への汚染物質の付着が多く見られたが、ガウンなどを着用したため、院内への侵入を防いだと考えられる。

観察後は、頭、体、手足、靴の裏などの消毒、手洗いを行った。消毒や手洗いにより病院内への病原体の侵入を防いでいる。特に靴の裏は、病院内に入った時に床の汚染を防止するうえで必要である。また、手洗いは他の患者に触る時に最も接触が多い部分なので、観察直後にアンテックビルコンS[®]で消毒し、院内に入り、薬用石鹸で洗い、ウエルバス[®]で消毒している。

このようにまず、どのような疾患で、何による感染源や感染経路か、どのような消毒剤が必要かなどを考え、計画的に看護していくことが大切である。岡本²⁾は、「院内感染が発生すると、個体にとって不幸であることはもちろん、社会的や法的な問題に至る場合もあるため、院内感染を防ぐためにはスタッフ全員がその発生要因をよく理解し、つねにその対策に努力しなければなりません」と述べている。しかしながら、ウイルスの感染症についてはまだ不明な点が多く、感染予防に最善をつくす努力が必要と考える。

最後に、伝染性疾患の看護で大切なことは、退院後の使用物品、部屋などの取り扱いである。使用した皿、ガウン、タオルは次亜塩素酸ナトリウムを希釈した水溶液に漬け、また、使用済みの針、ガラスシリンジはビルコン[®]をふりかけて消毒を行った。そしてどちらも1日以上おき、ガウンなどは他のものと分けて漂白剤入りの洗剤を使用し洗濯を行い、シリンジは、蒸気滅菌をして紫外線殺菌灯にて保存した。また、患者の退院後はケージ、ごみ箱、隔離室内の天井、床、壁、ドアなど、汚染されている場所すべてをアンテックビルコンS[®]で入念に消毒を行い、1日以上おき、床は次亜塩素酸ナトリウムを希釈したものでこすり、壁やドアなども雑巾でふき、使用した雑巾などは汚染物質と一緒に処理している。また、患者の使用したオムツシート、点滴パック、新聞紙、余ったフード、尿、便

は、隔離室内に感染性廃棄物用にゴミ箱を作り、普通ゴミと区別し処分するようにした。次に入ってくる感染性疾患の患者へ感染させないためにも、消毒薬の適切な使用と十分な知識が重要であると考えられる。

おわりに

今回の症例により、伝染病の患者が入院した際には、他の患者からは隔離をして看護を行い、ガウンなどの着用、手足の消毒、汚染物質に対応した消毒薬の適切な使用、また感染性廃棄物の分別処理などが重要だと分かった。そのためには、感染症や消毒薬の十分な知識が必要であり、スタッフ全員が統一した院内感染対策をとることが大切である。今後は、当院での院内感染の対策マニュアル作成を目標とし、この問題をつねに意識し、前向きに取り組んでいこうと思う。

引用文献

- 1) 川島みどり、宮崎康 (1995) 『内科系実践的看護マニュアル』 p226~239, 看護の科学社
- 2) 岡本有史 (1999) 『動物看護学全書4 動物看護のための小動物衛生学』 p59, ファームプレス

参考文献

- 北尾洋子 (1994) 『小動物V T講座 入院動物のナーシングケア』 (VT教育研究会監修) p145~157, インターズー

犬の毛周期の成長期と休止期の比率からみた被毛状態

野手盾夫子（日本動物病院看護士学院）

The rate of growing and pause hairs in summer of variety strain of canine

Junko NOTE

〈要約〉

飼犬の被毛は健康のパロメーターであり、また動物看護上、トリマーの対象としても重要である。小型犬、大型犬、室内犬、室外犬の被毛を顕微鏡下で観察し、成長期と休止期の比率を一つの規準として分類してみた。22犬種の成犬98頭の胸部の毛を対象として採材した。成長期毛が少なかった犬種はボクサー、ドーベルマン、紀州犬などの大型犬で、多かったのはマルチーズ、プードル、シーズーなどの小型犬であった。室外犬は室内犬よりもわずかに成長期毛が多かった。短毛種と中毛種では、成長期毛と休止期毛が各23%と77%であったが、長毛種では成長期毛が57%、休止期毛が43%であった。性差はほとんど認められなかった。走査式電子顕微鏡を用いた観察など今後の課題も多いが、簡便な方法で、手近な飼犬の被毛を多数比較できたことは有意義であった。

犬の被毛は、犬の美容上で行われるトリミング、グルーミングにおいて重要である。また衛生上、落屑・悪臭を出さないようにし、寄生虫や細菌・真菌などによる皮膚病にならないようにするため、動物看護で重要な分野であるので、被毛の基礎を学ぶ必要がある。そして、被毛は栄養状態および健康状態のパロメーターでもある。

物言わない犬の健康状態が飼主にもよくわかるように、毛艶の良し悪しや毛の張りの有無など、簡単に判別しやすい基準があれば、毎日の生活の中で、異常に容易に気づくことができる。

最近では日本国内においても、小型犬のみならず大型犬をも室内で飼育する家庭が増加してきたので、室内で飼う場合の被毛の状況についても観察した。

この報告では、成長期と休止期、長毛種と短毛種、

室内と室外、雌雄、毛色、犬種などと、被毛の状態に関する基礎的知見を得る目的で遂行した。

1. 材料と方法

夏季における、関東地方で飼育されている健康な1歳～8歳の22犬種の成犬、総頭数98頭を対象に、いずれも胸部の毛を鉗子を用いて採取し、スライドグラスに並べ、流動パラフィンをかけ、カバーグラスをのせて鏡検した。約100本の毛の成長期と休止期の割合を算出した。また、メラニンの分布とクランピングの様子や毛根・毛幹・髓質の形状など特徴のある箇所は写真で示した。

2. 結果

1) 犬種別の毛の成長期と休止期の割合（表1）

① 成長期毛が少なかった犬種：Alaskan Malamute, Boxer, Doberman, 紀州

② 成長期毛が多かった犬種：Maltese, Papillon,

Poodle, Shih Tzu

- ③室外犬に比べると、室内犬の方がわずかに成長期毛が少ない傾向にあった (Figs.11, 13/グラフ1)。
- ④短毛及び中毛種と長毛種の、成長期/休止期の割合の平均値を以下に示した。
 〈短毛及び中毛種〉 成長期23% 休止期77%
 〈長毛種〉 成長期57% 休止期43%
- ⑤休止期毛が多いと、まもなく換毛が起こるという観点から、休止期毛の割合の分布をグラフに示した (グラフ2)。

2) 雄・雌による成長期と休止期の割合 (表2)

表2をグラフで表すと、グラフ3のようになる。雄33頭、雌32頭で比較したところ、表2とグラフ3から判るように、休止期毛の割合はほとんど差はないといえる。

3) 原産地による成長期と休止期の割合

①寒い地方 (表3)

②やや暖かい地方 (表4)

短毛及び中毛種と長毛種の違いはあるが、平均値で見るとほとんど差はみられない。

4) 顕微鏡による観察

- ①成長期と休止期の毛根・毛幹 (Figs. 1~6)
- ②短毛と長毛の毛根・毛幹 (Figs. 7~10)
- ③室外犬と室内犬の毛根・毛幹 (Figs. 11~14)
- ④雄・雌の毛根・毛幹 (Figs. 15~18)
- ⑤毛色とメラニン (Figs. 19~22)

【観察結果】

- 1. 成長期の毛は髄質が太く、毛根近くから認められた (Figs. 1, 2)。
- 2. 休止期の毛は髄質が不規則のものが多く、空所が見られるものもあった (Figs. 3, 4, 6)。
- 3. 成長期と休止期の細毛は、毛根から髄質の認められるところまでが長く、髄質に空所が見られた (Figs. 5)。
- 4. 短毛は毛も髄質も太く頑健であり、長毛は髄質が細い傾向にあった (Figs. 7~10)。
- 5. 室外犬と室内犬の毛の形状には、大差はなかつ

た (Figs.11~14)。

- 6. 雄と雌の毛の形状には、大差はなかった (Figs. 15~18)。
- 7. メラニンは毛色が濃いほど多く認められる。しかし、Weimaranerの毛色は銀灰色で濃い色ではないが、大粒の黒色と赤味を帯びたメラニンが多数存在した (Figs. 12, 14, 19~22, 24)。

5) 大型犬・小型犬の毛根と毛幹の大きさの違い

大型犬と小型犬の体型の違いによる毛の太さは大差なく、小型犬だから毛が小さく細いとは限らなかった (Figs. 25, 27)。

- 一次毛：毛根の幅は、大型犬は約10~20mm、小型犬は約5~15mmで、同等~最大4倍の違いはあるが、長さは大型犬は60~80mm、小型犬は40~70mmで、同等~2倍までにとどまる。毛幹の太さは、大型犬は5~11mm、小型犬は7~9mmとほぼ同等と言える。ただし、毛幹の太さは、近位で測定しているものであるが、遠位でも同等の太さの毛を確認できた。(WeimaranerとPugで比較し確認した：Figs.23, 24)
- 二次毛：毛根の幅は、大型犬は3~10mm、小型犬は2~6mmで、同等かわずかに大型犬の方が大きい。長さは大型犬は25~55mm、小型犬は30~55mmで、ほぼ同等と言える。毛幹の太さは、大型犬は2.5~7mm、小型犬は2~4mmとほぼ同等と言える。
- 二次毛は一次毛に比べて、毛根の幅は1/2以下、長さは2/3以下、毛幹の太さは1/2以下が多い (Figs. 25, 26)。

同じ倍率で観察した毛のサイズの一例を、表5に記載する。

3. 考察

毛の基本的な形としては、毛根から毛幹の中央部位にかけて、毛も髄質も太くなり、中央部位の後半部に位置する辺りが髄質も一番頑健な状態で太くなる。その先は長軸に沿って毛先へと細くなる。長毛も短毛も同様である。ただし、二次毛やうぶ毛は髄質を欠くこともあり、髄質が存在しても空所がめだつものが多い。極細の縮毛は髄質がほとんど認められないが、一部存在していることもあった。

犬の被毛には毛周期があり、成長期から移行期を経

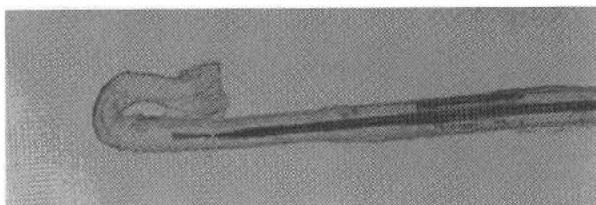


Fig. 1 Dachshund(LM) の成長期の毛根

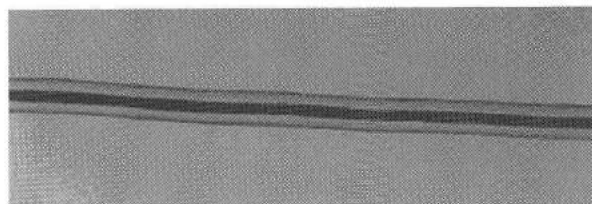


Fig. 2 Dachshund(LM) の成長期の毛幹

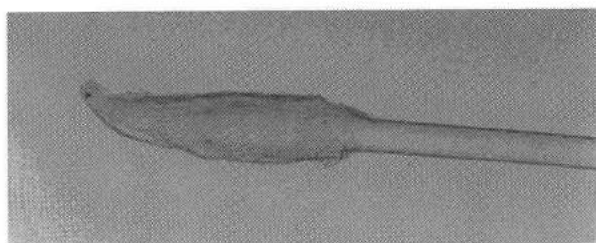


Fig. 3 Golden Retriever の休止期の毛根

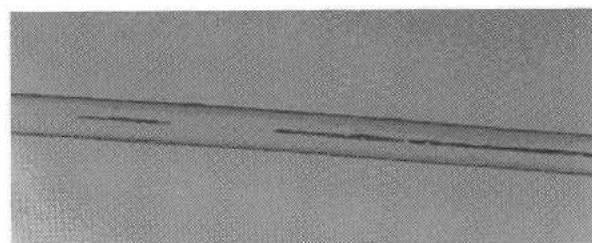


Fig. 4 Golden Retriever の休止期の毛幹

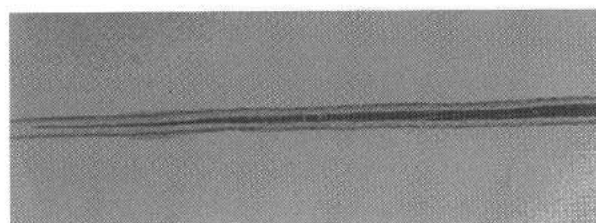


Fig. 5 Dalmatian の細毛の成長期の毛幹、髄質に空所が認められる

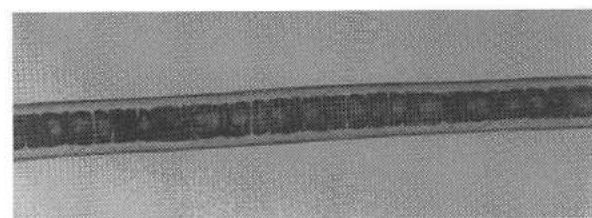


Fig. 6 Golden Retriever の休止期の毛幹、髄質に空所が認められる

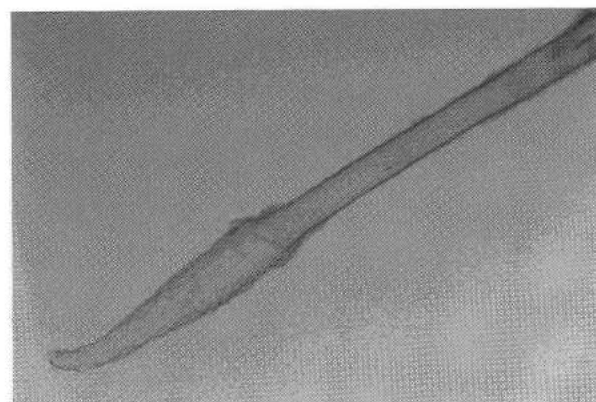


Fig. 7 短毛：柴犬の休止期の毛根

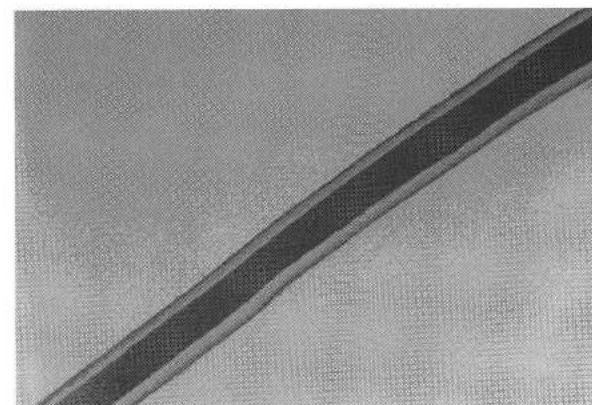


Fig. 8 短毛：柴犬の休止期の毛幹

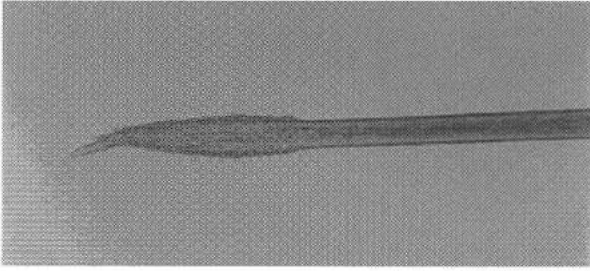


Fig. 9 長毛：Papillon の休止期の毛根、毛色は Brown

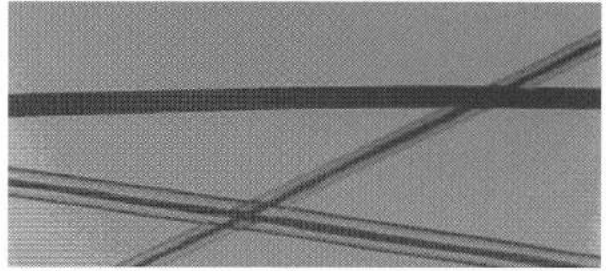


Fig.10 長毛：Papillon の休止期の毛幹、中央の Brown。他の毛幹は毛色が White

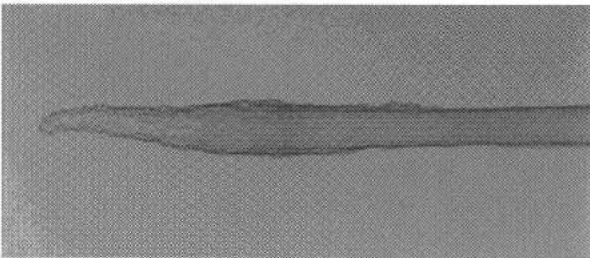


Fig.11 室外犬：Labrador Retriever の毛根、毛色は Beige

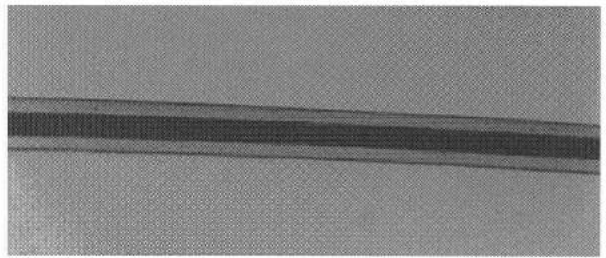


Fig.12 室外犬：Labrador Retriever の毛幹

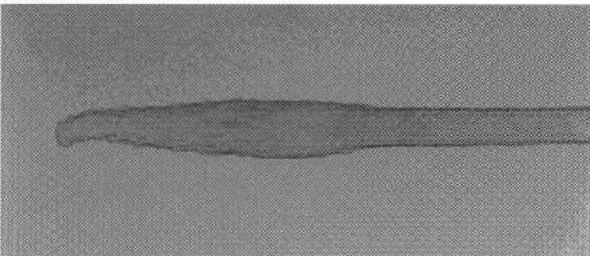


Fig.13 室内犬：Labrador Retriever の毛根、毛色は Beige

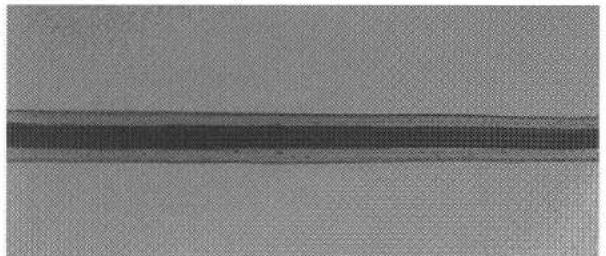


Fig.14 室内犬：Labrador Retriever の毛幹、毛色は Beige でメラニンを確認

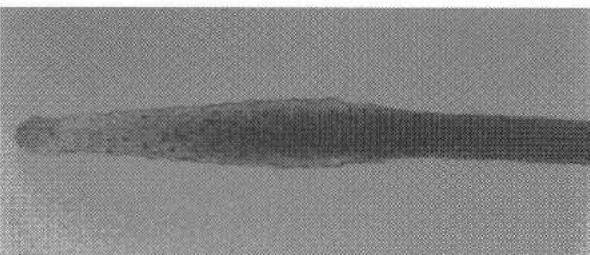


Fig.15 雄：Doberman の毛根

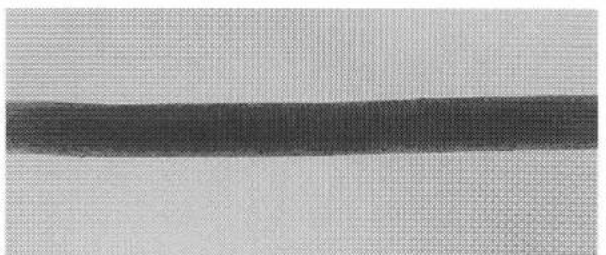


Fig.16 雄：Doberman の毛幹

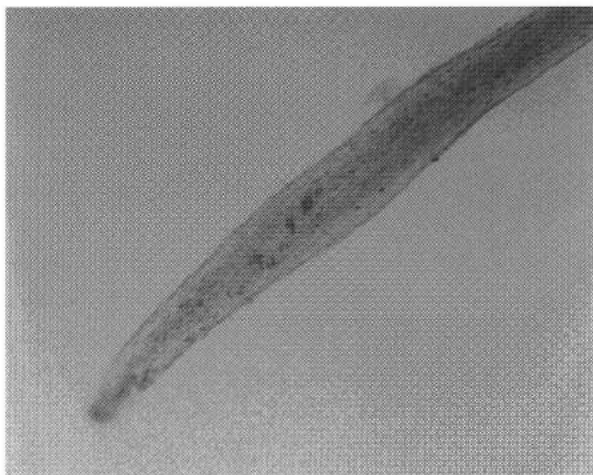


Fig.17 雌 : Doberman の毛根

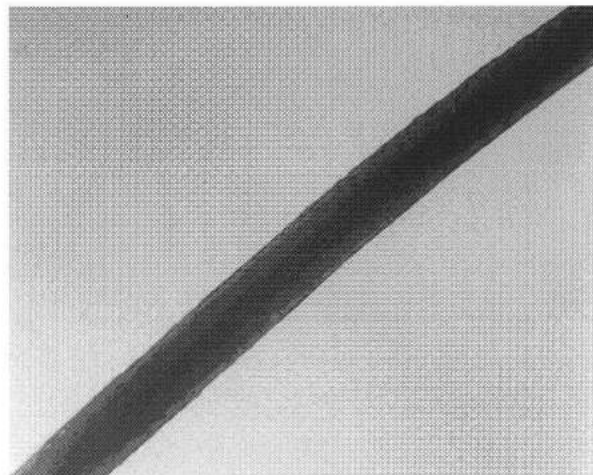


Fig.18 雌 : Doberman の毛幹

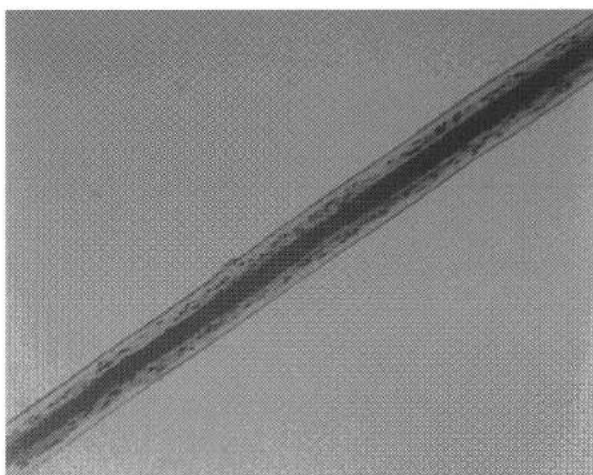


Fig.19 Weimaraner、毛色は銀灰色で特有のメラニン

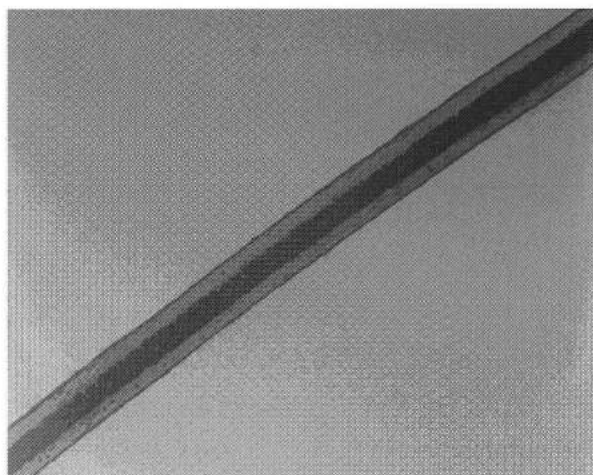


Fig.20 Golden Retriever、毛色が黄金色 (beige) のメラニン

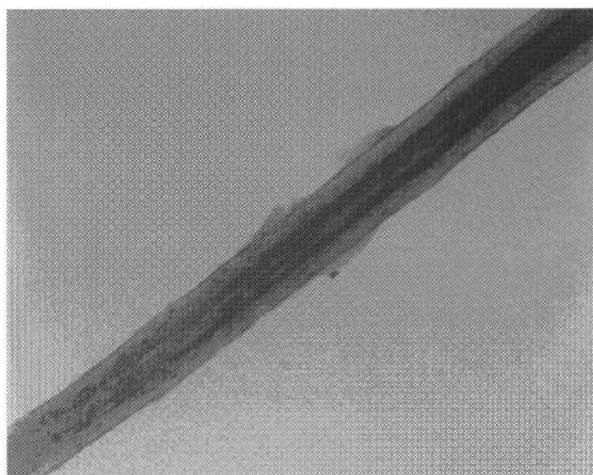


Fig.21 Doberman、毛色が濃茶色のメラニン

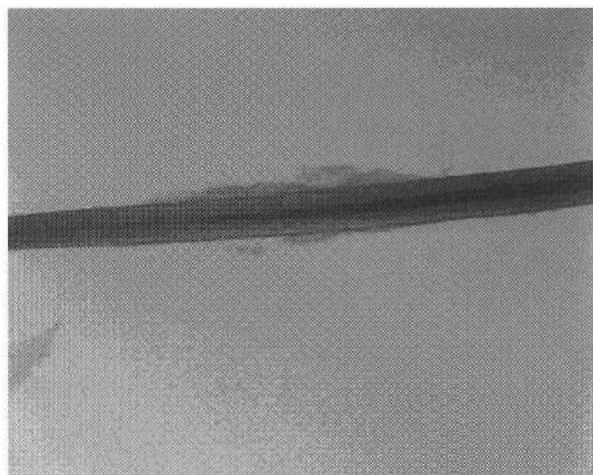


Fig.22 Labrador Retriever、毛色がチョコレート色のメラニン

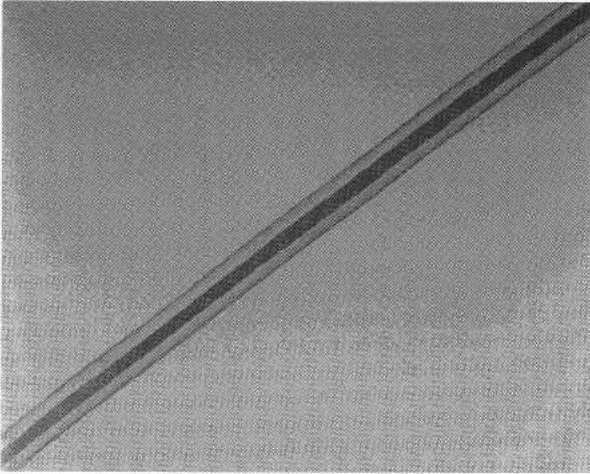


Fig.23 毛幹の中央部位の太さの比較、小型犬 Pug (小型犬でも太い例)

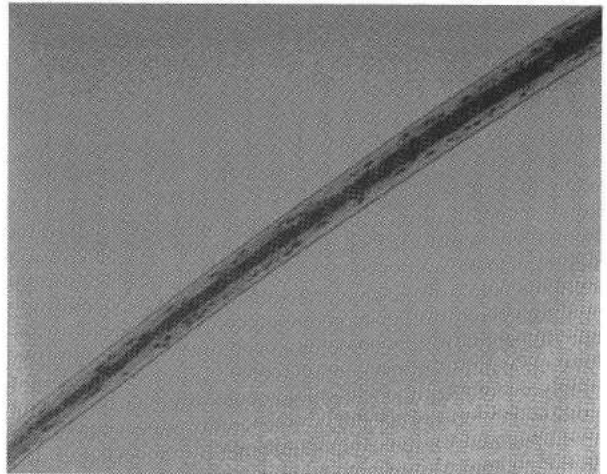


Fig.24 毛幹の中央部位の太さの比較、大型犬 Weimaraner (小型犬とほぼ同じ太さ)

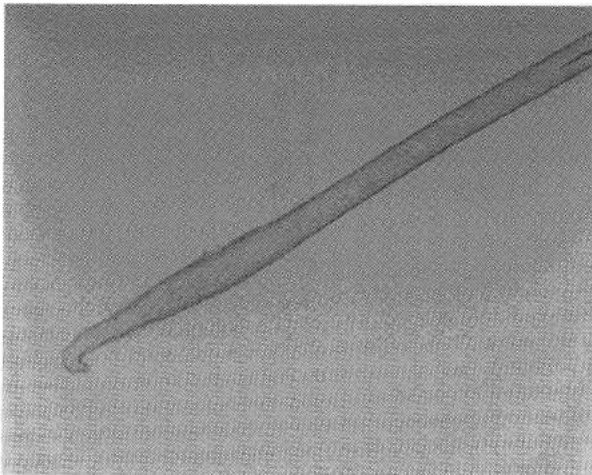


Fig.25 Pug の一次毛

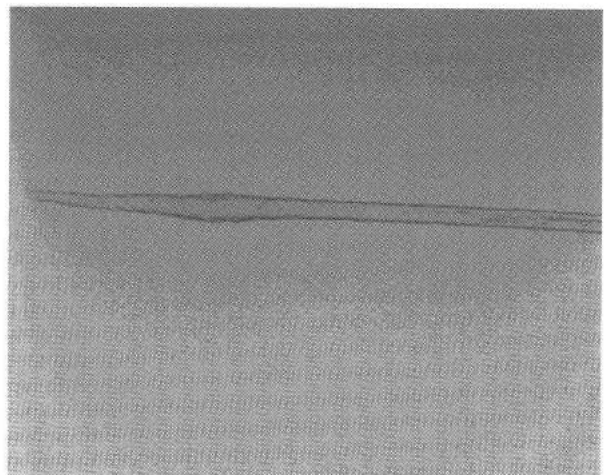


Fig.26 Pug の二次毛

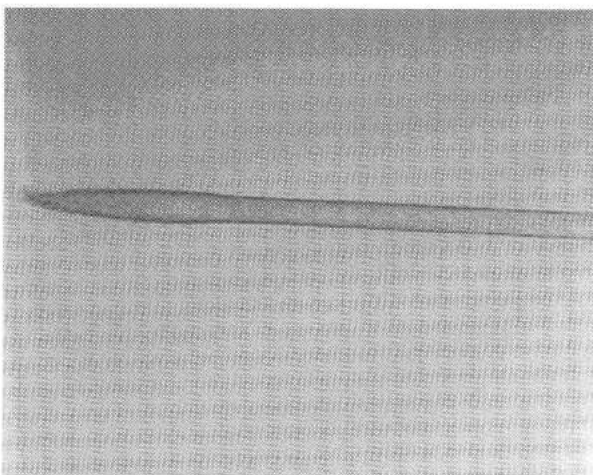
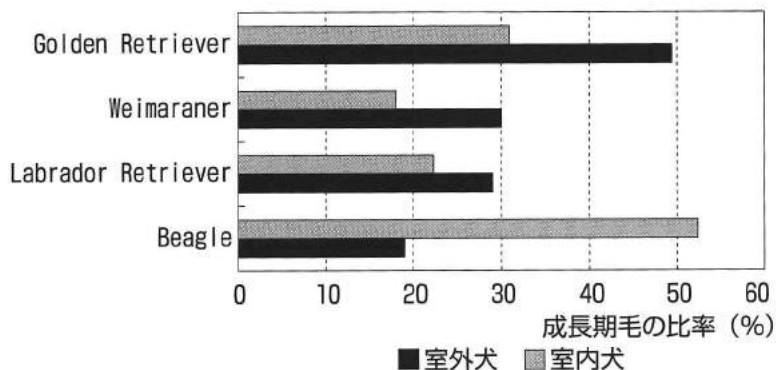


Fig.27 Boxer の一次毛

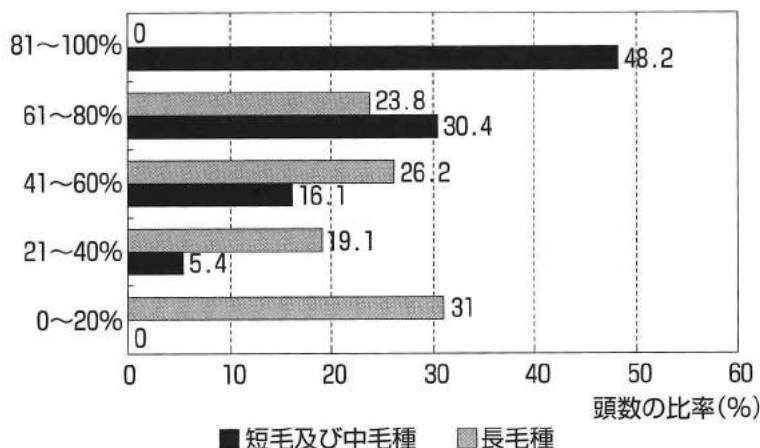
Boxer と Pug で毛根の大きさを比較したところ、Boxer の一次毛 (Fig.27) は、Pug の一次毛 (Fig.25) と二次毛 (Fig.26) の間の大きさであった。



グラフ1 室外犬と室内犬の成長期毛の比率

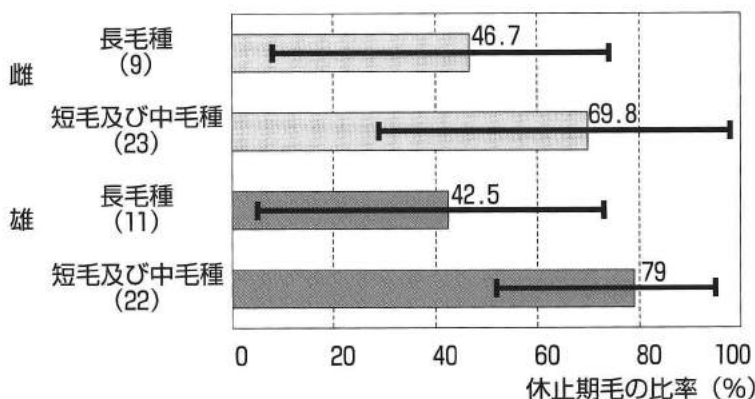
ただし、Beagleの室内犬はシャンプー後であったため、成長期毛が多いという結果が出た可能性がある。

休止期毛の割合 (%)



グラフ2 短毛及び中毛種と長毛種における休止期毛の割合

61%以上の休止期毛の割合を占めるのは短毛及び中毛種に極端に多く、長毛種は休止期毛が少ない割合の方に分布している。



グラフ3 雄・雌における休止期毛の比率 (平均値)

注 グラフの () 内の数値は頭数を表し、グラフ内の線で示す範囲には頭数分の数値が分布されていることを意味する。

表1 犬種別における成長期毛の比率

犬種	原産国	成長期の体毛の比率(%)	頭数	平均値(%)
短毛及び中毛種				
Alaskan Malamute	アラスカ	18, 2, 8	3	9.3
Beagle	イギリス	25, 13	2	19.0
	(室内)	44, 44, 60, 61	4	52.3
Boxer	ドイツ	6	1	6.0
Dachshund(short)	ドイツ	34, 30, 2, 6	4	18.0
Dalmatian	旧ユーゴスラビア	17, 12, 29, 8, 31, 21, 10, 21, 18, 10	10	17.7
Doberman	ドイツ	5, 16, 3	3	8.0
German Shepherd	ドイツ	18, 48, 44, 44, 30	5	36.8
Great Dane	ドイツ	44	1	44.0
Labrador Retriever	イギリス	71, 41, 21, 28, 14, 7, 11, 39	8	29.0
	(室内)	11, 24, 48, 6	4	22.3
Pharaoh Hound	マルタ島	36	1	36.0
Pug	中国	38, 4	2	21.0
Weimaraner	ドイツ	30	1	30.0
	(室内)	18	1	18.0
秋田	日本	12, 40, 28	3	26.7
紀州	日本	3	1	3.0
柴	日本	35, 7	2	21.0
長毛種				
Dachshund(long)	ドイツ	35, 30, 29, 53, 62, 53, 35, 56	8	44.1
Golden Retriever	イギリス	71, 54, 35, 27, 65, 47, 50, 54, 42	9	49.4
	(室内)	26, 36	2	31.0
Maltese	マルタ島(室内)	90	1	90.0
Papillon	フランス、ベルギー	56	1	56.0
Pomeranian	ドイツ	38	1	38.0
Poodle	フランス	59, 49, 69, 75, 81	5	66.6
Shih Tzu	中国	95, 67, 67, 82, 92, 97, 95, 76, 80, 89, 99, 95, 94, 92	14	87.1
日本スピッツ	日本	27	1	27.0

注)・同犬種で頭数分を、成長期の体毛の比率で表示する。
・室内飼の場合のみ(室内)と表示する。

て休止期へと至る。短毛及び中毛種の毛は、剃毛の後に生え揃うまで通常約130日かかるが、アフガン種などの長毛では18ヵ月かかると言われている⁷⁾。

成長期の毛は、毛乳頭を覆い、毛球の大部分を構成する毛母基細胞が活発な有糸分裂を行うことによって造られている毛であり、毛の一生のほとんどの時間を占める。顕微鏡での観察によると、成長期の毛には髄質が多く存在する。毛根では髄質に空所はないが、毛幹には空気を含む空間が存在し、保温の役割を果たす²⁾と言われており、『ヘアケアの科学』には、「寒冷地の毛は髄質が約50%以上を占めており、その髄質の空洞

が保温の役割を果たすなど、生存のために重要な役割を持つといわれている」⁶⁾と記述されている。不健康あるいは全身性疾患のような条件では、成長期の毛はしっかりとつなぎ止められていないので容易に脱落する。休止期毛が除去されると成長周期を刺激するため過度の換毛が起こりやすくなる。

毛色を決定づける毛包のメラニン細胞は、成長期を通じて色素産生をしたりしなかったりする。例えば黒い毛の場合は、明らかに全期間を通じて色素産生が活性化した状態が続くわけである。

休止期の毛は、毛の成長周期の最後の段階であり、

表2 雄・雌における成長期毛と休止期毛の割合 (%)

	短毛及び中毛種	長毛種
雄	18/82, 8/92, 13/87, 6/94, 12/88, 21/79, 5/95, 18/82, 48/52, 44/56, 41/59, 21/79, 28/72, 14/86, 7/93, 11/89, 39/61, 36/64, 30/70, 7/93, 11/89, 24/76	35/65, 71/29, 35/65, 65/35, 47/53, 54/46, 38/62, 75/25, 95/5, 27/73, 90/10
	平均：22頭で21/79	平均：11頭で57.5/42.5
雌	2/98, 34/66, 10/90, 16/84, 3/97, 44/56, 44/56, 30/70, 71/29, 38/62, 4/96, 12/88, 40/60, 28/72, 3/97, 35/65, 44/56, 44/56, 60/40, 61/39, 48/52, 6/94, 18/82	53/47, 54/46, 27/73, 56/44, 69/31, 67/33, 92/8, 26/74, 36/64
	平均：23頭で30.2/69.8	平均：9頭で53.3/46.7

注) 体毛100本の成長期と休止期の割合であり、(成長期/休止期)で表す。

表3 原産地が寒い地方の犬の成長期毛と休止期毛の割合 (%)

短毛及び中毛種		長毛種	
Alaskan Malamute	9/91	Dachshund	44/56
Beagle	41/59	Golden Retriever	46/54
Boxer	6/94	Pomeranian	38/62
Dachshund	18/82	Shih Tzu	87/13
Doberman	8/92	日本スピッツ	27/73
German Shepherd	37/63		
Great Dane	44/56		
Labrador Retriever	27/73		
Weimaraner	24/76		
秋田	27/73		
平均：32/68			

注)・短毛及び中毛種と長毛種とを、分けて記載する。

・体毛100本の成長期と休止期の割合であり、(成長期/休止期)で表す。

成長期の方が多い値を示すものは、15犬種のうち1犬種のみであった。

表4 原産地がやや暖かい地方の犬の成長期毛と休止期毛の割合 (%)

短毛及び中毛種		長毛種	
Dalmatian	18/82	Maltese	90/10
Pharaoh Hound	36/64	Papillon	56/44
Pug	21/79	Poodle	67/33
紀州	3/97		
柴	21/79		
平均：39/61			

注)・短毛及び中毛種と長毛種とを、分けて記載する。

・体毛100本の成長期と休止期の割合であり、(成長期/休止期)で表す。

成長期の方が多い値を示すものは、8犬種のうち3犬種であった。

表5 体型別の毛根と毛幹のサイズ

(25倍で撮影した写真による。単位：mm)

	一次毛の毛根 (幅×長さ)		一次毛の 毛幹 (太さ)	二次毛の毛根 (幅×長さ)		二次毛の 毛幹 (太さ)
大型犬	Great Dane	8×70	6	秋田 A. Malamute Dalmatian G. Shepherd Golden R. Pharaoh H. Labrador R. Weimaraner	4×25 3×40 3×43 5×55 6×50 10×35 4×40	5 4 2.5 4 4 7 6 2.5
	秋田	15×70	10			
	紀州	12×75	6			
	A. Malamute	14×75	9			
	Boxer	6×60	5			
	Dalmatian	14×70	7			
	G. Shepherd	20×60	10			
	Golden R.	17×70	8			
	Pharaoh H.	15×80	10			
	Labrador R.	18×80	11			
Weimaraner	17×80	10				
中型犬	Beagle	11×79	6	日本スピッツ	3×20	3
	柴	13×65	8			
小型犬	Papillon	10×56	7	Pomeranian Pug Dachshund Poodle Shih Tzu	3×30 6×55 4×40 2×30 2×30	4 4 4 2 2
	Pug	10×70	8			
	Dachshund	14×60	8			
	Poodle	7×40	7			
	Shih Tzu	5×60	9			

注) 毛根は紡錘形の部分を、毛幹の太さは毛根に近い部分を計測した。

毛は産生されず、抜け落ちる時期を待っている。しばしば何週間かあるいは何ヵ月か経って次の活動期が始まると、新しい成長期毛が伸び始めて、休止期毛は抜け落ちる。この期間、棍状毛はまだ角質形成性小根によって繫留されており、毛乳頭は縮小して、毛球の胚細胞の被膜下方に位置する細胞球となる。休止期の後に有糸分裂と角質化が再び始まり、新しい毛が形成される。休止期に引き抜かれた毛は根鞘を持たないが、一つの角化して囊のついた棍棒状の毛根を呈する。

メラニン細胞は退行期の毛包から休止期には毛乳頭に移行するので、毛色が1つの毛周期と次の毛周期の間で変化することはない²⁷⁾。

また、被毛には上毛である一次毛と、下毛の二次毛があり、それぞれの働きをまとめてみると以下になる。

一次毛包は直径が大きく、真皮深くまで伸び、一般に脂腺・汗腺及び立毛筋を伴う。立毛筋は犬の背部に沿って特によく発達しており、立毛筋が収縮すると毛が立つ。寒い季節には、立毛筋が収縮して毛が持ち上がることによって毛皮内に微小な空気の空所が形成され、この空気のスペースは体温の維持を助ける重要な絶縁体となる。また立毛筋の収縮は毛を立てるだけでなく、脂腺の分泌(皮脂の働きは抗菌と防水)にも一役を担っている。皮膚に存在するアポクリン汗腺の分

泌は乏しいが、機能は同種個体間のコミュニケーションに関係する臭い、おそらくは性的誘引物質または縄張りのマーカーとして、粘稠な分泌物を産生する²⁾。一次毛は太く長く粗剛毛で保護毛としての働きがある。

二次毛包は直径が一次毛包より小さく、毛根は皮膚の表面近くにあり、脂腺を伴う場合はあるが、汗腺と立毛筋は欠いている²⁾。一次毛より短く微細で数が多く、冬に最も密になり、保温効果を高められる。

本研究の結果が示唆するのは、「成長期毛が多いのは長毛種である。また成長期の毛には髓質がしっかり存在するので、保温効果も高いと思われる。一方、休止期毛が多いということは、近く換毛が起こり、次の季節に合った新しい毛が産生される」ということである。犬の場合、換毛はモザイク状に起こるので、一斉に脱毛が起こることはない⁷⁾。しかし休止期毛が異常に多くなるということは、成長期がかなり短縮されているとも考えられ、不適切な飼育環境あるいは全身性疾患、ホルモンバランスの不調、ストレスなどが考えられる。

次に、屋外飼育犬と室内犬の被毛を比較すると、室内犬では人工的な日照ではあるが一日の日照時間は長くなり、一年を通して季節の変化による温度差は少なくなる。そこで、日照時間の変化で被毛がどのように変わっていくかという点を検討した。日照時間が減少

すると被毛が脱落して新しい毛の成長が刺激され、被毛の厚さが増し、皮脂の産生は低下する。これらの効果として、絶縁性の改善された濃密なふかふかした被毛が造られる。一方、日照時間が増加すると、脱毛の速さが増し、被毛は粗剛になり、毛の密度が減る。そして皮脂の分泌が亢進する。これらの効果はすべて被毛の間に空気の流通が良くなるように仕組みられているようである^{2,7)}。

日置は、「皮脂腺細胞は発生学的に上皮系細胞であり、これには新陳代謝によって生まれ変わるという特徴があり、したがって抑制型の成長因子というものが必要になるということから、皮脂腺で脱毛因子をつくっている可能性が強いとみられる。脱毛因子はヘアサイクルのなかで重要な役割を果たしている。それは、いつまでも古ばけた髪を捨て去り、新しい元気な毛母細胞を誕生させるために不可欠である。つまり脱毛因子も大きい目でみれば、成長因子といえる。脱毛因子は退行期へ移行させるきっかけとなり、正常なヘアサイクルをコントロールしていると考えられる」⁴⁾と述べている。このことから、換毛と皮脂腺は無関係ではないことが解る。

したがって、屋外飼育犬は自然環境に起因する夏毛・冬毛のための換毛があるが、室内犬は年間を通して一日の照明時間が長い環境で飼育されているので、年間を通して休止期毛が脱毛を続け、皮脂も分泌される。ただし、脱毛するだけでなく新しい毛も成長しているため、脱毛症には至らない。

本研究では表1とグラフ1に示すように、室内飼の方が室外飼に比べて休止期毛の割合がわずかに多いことが解る。また、成長期毛においても、室内犬の場合は毛根まで抜けてしまうものが多い傾向にあった。

以上のことから、室内で飼う場合は、正常な換毛、それに伴う皮脂の正常な分泌なども行われなくなるので、シャンプーによって余分な皮脂を取り除き、不要な毛はブラッシングするということが、被毛管理上、重要なポイントであろう。

栄養不足、換気が悪い、シャンプーが合わない、加齢、細菌性や内因性の皮膚疾患によっても、毛艶も張りも変わってくる。日常的に被毛の状況が健康チェックの指標となるように、今後も、年齢差による被毛の違い、シャンプーの効果、成長期/休止期の一次毛と二次毛における季節的变化、室外と室内飼における季

節的变化、特定の犬種（例：Maltese, Poodle）による違いなど、さらに詳細に観察する必要がある。また、毛の成長周期のうち休止期はどの程度の期間を占めるのか、休止期毛の立毛筋、脂腺、汗腺の働きはどうなっているかなども課題として残された。

謝辞

東京農工大学農学部獣医学科家畜内科学教室の岩崎利郎教授と青木三代先生、関口麻衣子先生の懇切なご指導を賜り、また同教室の研究生の皆様、大学院生の方々のご協力によって犬の被毛の研究を行えましたことを心から感謝するとともに、御礼申し上げます。また被毛の採取の際には、つくばワンワンランドの獣医師とスタッフの方々、横浜安達警察犬訓練所の所長・安達俊夫様およびスタッフの方々、東京都北区田端にお住まいの方々にご協力いただき心より感謝するとともに、重ねて御礼を申し上げます。

参考文献

- 1) Cline, J., Guest, K., Kerr, W. and Young, L. (2002) Hair growth, hair density and hair tract morphology in dogs / from 8 weeks of age to 52 weeks of age. 18th ESVD-ECVD Annual Congress, p203
- 2) Dellmann, H-D. (1994) 「第16章 外皮」『獣医組織学 (新版)』(牧田登之監修, 阿部光雄ほか訳) p293~307, 学窓社
- 3) Scott, D.W., Miller, W.H., Griffin, C.E. (2001) 『Muller & Kirk's SMALL ANIMAL DERMATOLOGY 6th Edition』 p4~8・39~49, WB Saunders Company, Philadelphia, USA
- 4) 日置正人 (2002) 『新育毛理論「脱毛因子ブロック」で髪はよみがえる! 一分子生物学的根拠による画期的育毛法—』 p79~90, 現代書林
- 5) 井上哲男・八木原陽一 (2002) 『毛髪の科学と診断 (改訂版)』 p5~31, 薬事日報新書 (薬事日報社)
- 6) 花王生活科学研究所編 (1993) 「第1章 髪の毛とは」「第2章 髪の毛の基礎知識」『ヘアケアの科学』 p1~27, 裳華房
- 7) Muller, G.H., Kirk, R.W., Scott, D.W. (1987) 「第1章 皮膚の構造と機能」『小動物の皮膚病 (上巻)』(幡谷正明・望月宏監訳) p1~49, 学窓社
- 8) 武田克之 (2002) 『発毛・育毛に本当に効く新常識—毛髪医療からの最新報告—』 p40, 青春出版社

海棲哺乳類のストランド（座礁）

—その原因をさぐる—

石垣奈陽（日本動物病院看護士学院）

Nao ISHIGAKI

はじめに

水族館などで人気のある所といえば、イルカショー・シャチショーなどの海棲哺乳類ショーがあげられる。その一方で、野生の海棲哺乳類も注目されている。ここ最近頻繁に起こっている、座礁による海棲哺乳類の死。すなわち、浜辺に打ち上げられるものだけでなく、入江に迷い込んできたものも含むストランド（座礁の意。strand〈座礁させる、座礁する〉）由来の件数が年々増加傾向にある（表1）。なぜ彼らは、集団または単独で砂浜に上がろうとするのか？

本稿では、海棲哺乳類の中でも特にイルカのストランドについて、これまでの環境説・病気説などの諸説を紹介し、加えて「オーロラ説」について述べる。オーロラは大きな磁力をもつが、そのオーロラが最近、増加傾向にあることが分かっている。そのためか、海棲

哺乳類のストランドも増加している。それでは、オーロラの影響はどの程度のものなのか。本当にオーロラによってストランドが引き起こされているのか。このテーマについて考察し、また、私たちがストランドに遭遇したときの対処方法を説明する。

◆「イルカが健康であること」を前提とした場合の原因説

座礁死の文献上の最古のものとして、アリストテレスの記述²⁾が知られている。そこには、「イルカたちはなぜかわからないが、何か妄想や幻想にとらわれて、どちらかといえば頻繁に上陸してくる。しかも、目につくような理由がないのが常である」と記されている。一方、わが国における最も古い記述としては、『古事記』にイルカの集団上陸と思われる事件が記録されている。

その原因について、いろいろな研究や討論がなされてきたが、疑問点が数多く残されている。これまで議論されてきた原因をまとめてみると、以下のような説があげられる。これらはいずれも、イルカが健康であることを前提とした説である。

1) 「集団自殺説」

集団上陸したイルカを海に返そうと救助しても、彼らは、その救助を拒否するように再上陸してくる。すなわち、自ら望んで陸に上がったと判断されたために出た説である。しかし、イルカの脳はたしかに優れていると言われるが、“自殺をする”までの高度な精神活動を営んでいるかは疑問とされている。

2) 「集団ヒステリー説」または「集団妄想説」

表1 各地で確認されたストランドの件数

（出典：国立科学博物館のホームページ・海棲哺乳類情報データベース）

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
日本海	28	52	63	51	65
太平洋	49	68	70	95	115
瀬戸内海	4	4	4	9	11
インド洋	0	0	0	0	0
オホーツク海	2	12	15	8	9
大西洋	0	0	0	0	1
東シナ海	1	4	8	7	11
白海	0	0	0	0	1
北海	0	0	0	0	0
合計	84	140	160	170	213

日本動物病院看護士学院 動物看護学科2年生
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1丁目21番13号

上述のように、アリストテレスが「妄想や幻想にとられて…」と述べたことに基づく。仮にイルカたちに高度な精神活動があったとしても、ヒステリーの原因はまったく解明されていない。

3) 「環境不適応説」

これは、公害説、海中騒音説とともに出された。海中の汚染物質や海底ケーブルなどに対してイルカの不適応反応が起こり、集団上陸したのではないか、という説である。

「環境不適応説」の例として「ソナー犯人説」が浮上した。ソナーは、超音波を発信し、海中の物体に反射して返ってくる音から相手の位置や方向を探る装置で、魚群探知機や海の深さを測る音響測探機のほか、潜水艦に装備されている。「ソナーがイルカたちの脳（メロンの部分）に異常をきたし、バランス方向感覚を失わせた可能性がある」として、米国の海軍と海洋大気局が調査を開始した。

調査のきっかけは、カリブ海のバハマ諸島ノースウェスト・プロビデンス海峡で、海軍の潜水艦の存在をソナーで探ったり、魚雷を発射する訓練を行ったりした直後に、16頭のイルカが岸に乗り上げ、うち7頭が死んだことであった。

解剖の結果、寄生虫やサメに襲われた外傷などはなかったが、5頭の聴覚・発音器官の周りの組織に内出血などが見られた。潜水艦に使われたソナーの強さは235デシベルだが、ガード下の電車の騒音が100デシベル程度であるのでその倍以上である。水中では音が伝わりやすい上、海洋哺乳類の聴覚は発達していることから、ソナーが「騒音公害」になっていることは推測されることである。しかし、人間がソナーを使って漁業をする以前からストランドは起こっていたので、ソナーがすべての原因とはいえない。

4) 「砂浜無反響説」

この説は、集団上陸がほとんどの場合、遠浅の砂浜で起こることから唱えられた。遠浅の浜辺にイルカの出した超音波の反射が有効に起こらず、反射を捉えられないまま、そのうち岸に近づいてきて、そのまま上陸したという説であった。しかし、漁船の魚群探知機を使った実験で、超音波の反射は遠浅の砂浜でも有効に行われたことが証明された。

5) 「先祖がえり説」

昔、イルカは海岸に住んでいて、時々餌をとり海に入っていて、いまま海で危険が迫ると、無意識的に陸に上がろうとして、集団上陸するという説である。なお、イルカの天敵であるシャチ自身のストランドも多く報告されている。イルカが海に戻れないのに、イルカよりも体の大きなシャチが海に戻れるのでは、説明がつかなくなるであろう。

6) 「餌の深追い説」

餌の魚を追いかけて岸まで来て、魚だけがUターンして海へ戻り、イルカだけが座礁してしまったという説である。

7) 「リーダー誤導説」

集団上陸したイルカの中で、リーダー格の一番大きなイルカを海に戻したら、その後の救助が楽になったことがあるという。しかし、翌日にはその集団が再上陸してしまったり、同じ群れの一部が外海にとどまっていた例もある。

イルカの多くはファミリーで暮らすことが知られており、仲間意識が非常に強い。しかし、ファミリーの中で誤導が起こって一部が座礁し、他が外海にとどまっているという状況は説明しにくい。そのような状況から考えられることは、個体で異常を起こしたイルカたちが、ファミリー単位を形成して集団上陸したのではないかということである。

8) 「過剰生息説」または「資源間引き説」

カナダでは1972年に捕鯨が禁止になり、同国沿岸では、それ以降1974年頃から集団上陸が頻発した。1978年頃から1年に3～4回の割合で起こるようになってきたことから、この説が浮上したようである。

野鼠が大量に繁殖し、川を泳ぎ渡ろうとして、その多くが溺死することがある。これは、食料を求めた大移動の末のアクシデントと言われている。集団移動や集団上陸は、特に「集団生活する傾向の強い種類において多い」「生息数の多い所で頻発している」「若年や老年個体の上陸は少なく成獣に多く見られる」と言われる。よって、集団が大きくなり過ぎたため、その集団に大きなストレスがかかり、そのストレスが原因で集団移動や集団上陸が起こるのではないかと考えら

れている。

- 9)その他、「天候不順説」「冷水説」「気象条件説」などの諸説。

◆「イルカが病態であること」を前提とした場合の原因説

イルカが病態である場合についても、諸説がある。

最古の文献としては「古事記」の中で、「鼻^す毀りし入鹿魚」と鼻の病気を原因としている。古事記の仲哀天皇の項に見られる。建内宿禰命が皇太子とともに、現在の福井県敦賀あたりの海岸で仮宮を建てて寝ていると、その土地の神である伊奢沙和氣大神の命が夢に現れて、「名前を交換して欲しい」と告げられた。名前を交換したところその謝礼として、「翌朝になったら、海岸に出てみよ」と言われたので、そのとおりに翌朝出てみると、海岸には鼻の傷ついた入鹿魚でいっぱいだった。その入鹿魚たちは出血しており、その血で海岸が臭うほどだったことから、そこは地名を血浦(後に都奴賀)とされたという。

ここで「鼻毀りし入鹿魚」とあったが、ここで書かれている鼻が入鹿魚の鼻かどうかは、明確には記されていない。また、この入鹿魚の座礁については、集団とする説もあれば、そうではないとする説もある。その規模については分からないが、イルカが座礁していたことは明確に表記されている。出血の記載は事実であり、ケガや病気で出血していると推測される。

以下の病気説では、伝染病などの病気が集団上陸の引き金とされている。

1)「寄生虫説」

単独座礁したイルカの解剖を行ったところ、副鼻腔に線虫が無数に寄生しているのが見つかった。これが頭蓋内感染や脳腫瘍のように、脳の聴覚を司る部分の一部を傷害するため、方向感覚を失って上陸するのではないかとみられる。

また、別の単独上陸したイルカを解剖したところ、肝臓や胆管内に寄生虫(カンブラ・ロシエブル)が黄疸を引き起こしていた大脳や小脳に壊死巣があった、という報告がある。飼育中に死んだイルカの脳でもたくさん病巣が発見されて、中には、寄生虫の卵があったイルカも報告されている。これらは、単独上陸した

イルカの報告であり、集団上陸の報告では少ないとのことである。

寄生虫説が発表されてから6年後、これを否定して「寄生虫による脳障害が上陸死の原因ではない」とする報告書が出た。その研究によると、集団上陸したイルカ57頭をくわしく調べたところ、中耳腔において多数の寄生虫が寄生していても、平衡感覚や聴覚を司る内耳に侵入した寄生虫は1例も発見されなかった。さらに、17種類の病気、11種類の細菌感染、10種類の寄生虫を発見した。その病気は腎臓結石、胃潰瘍、腫瘍性疾患などで、脳腫瘍は1例も見られなかった。

2)「ストレス説」

集団上陸したイルカに高率で副腎の肥大が見られた。これは、彼らが長い間ストレスにさらされていた証拠であり、そのストレスとは海洋汚染や食糧難と推測される。集団上陸したイルカの胃の中は全てにおいて、食べ物が全く入っていない。また、集団上陸してくるイルカの中に、乳を飲んでいるイルカは概していない。

3)「脳障害説」

イルカを解剖すると、脳腫瘍ができてるのはつねに脳の後半分であり、よって脳腫瘍が発見されたイルカは体の左側を上にして浮き、正常に泳ぐことができない。これは、平衡感覚器である内耳のほか、平衡感覚は小脳との関係が深いことから説明がつくであろう。この説は、「聴覚損傷説」として今なお議論がなされている。

◆「オーロラ説」とは

最近よく紹介されているのは「オーロラ説」である。これは、「オーロラによって引き起こされた脳の異状によってイルカが集団上陸する」というものである。

オーロラは、地球大気の粒子と電子が衝突して発光する。その電子とは太陽風に含まれているもので、太陽風には- (マイナス)の荷電子のほか、+ (プラス)の荷電子を持つ粒子が含まれており、それらを総じて、プラズマ粒子または荷電粒子と呼ぶ。太陽で大きな爆発があった時に、2~3日後に太陽風に乗って荷電粒子は地球に到達する。そして、地球大気の酸素原子や窒素分子と衝突し、励起、発光し、オーロラが発生する。

地球は大きな磁石ようになっており、それを磁場

という。北極、南極付近でオーロラが多く見られるのは、磁場に荷電粒子が引きつけられるからである。オーロラのカーテンのように見える光は、それぞれ+、-が交互になって作られており、そのためオーロラは絶えず+、-が変化している。この巨大な磁石のような状態が最近頻発しているといわれる。原因ははっきりと分かってはいないが、太陽の黒点の活動が活発化していることが、一つにはあげられている。黒点の活動の活発化は太陽で爆発の活発化を示しており、太陽風が頻繁に地球に到達すれば、それだけオーロラの発生回数も増える。

一方、「動物には体内磁石がある」とよく言われるが、イルカのソナーの役割をしている超音波も使えなくなって方向感覚が鈍り、自分が今どこにいるか分からなくなり、泳げば泳ぐほど岸に近づいてしまうという現象が起こる可能性がある。

磁場と海洋哺乳類の関係説については、2002年1月に鹿児島県大浦町で起きた14頭のマッコウクジラ座礁について、「地磁気を便りに回遊してきた群れが、海岸線へ直行する磁場環境のため、錯乱した可能性が高い」とする一報告があった。

この報告では、クジラが地磁気の強さが等しい線（等高線）に沿って回遊するため、この等高線が海岸線と交わる地点で座礁が起きやすいという磁場説に着目。国土地理院の地磁気図を元に分析したところ、大浦町を含む鹿児島県南西部は、地磁気を結んだ等高線が海岸線と垂直に交わっていることが分かった。さらに、海岸は遠浅の砂浜でもあるため、「地形を探知するためクジラが発する音波が、砂に吸収され、位置がつかめなかったのではないかと」されている。また、過去に集団座礁が起きた宮崎県日南市なども、地磁気等高線が海岸線と直交しており、遠浅の砂浜が続く地形も共通しているとされている。

この「磁気攪乱説」と似ている、またはその引き金となっているのではないかと思われる説が、「海洋構造変化説」である。これは、地形の変化が混乱を起こすものとされている。

◆ストランドした海棲哺乳類を救うための方策

実際、ストランド防止のためにできることは何か。海洋汚染を少しでも減らそうと努力するのも、一つの方法であろう。しかし、ストランディングした海棲哺乳

類または海亀（よく見られる）を見つけたら、生死にかかわらず、最寄の博物館や水族館、水産研究所、試験場などに連絡して、その施設の人たちに対処してもらうことである。その連絡先が分からない場合は、地元の警察などを通じて専門家に援助を求めるときである。

また、援助が到着するまでの間、彼らの様子を観察しながら応急処置を施すこともできるだろう。ここでは、座礁した彼らの救助方法とその際の応急処置について、関係者から示唆を受けたので以下にまとめてみたい。

- ①動物の皮膚を湿らせる。体の乾燥を防ぎ、衰弱を少しでも軽くさせる。クジラ類は、乾燥すると皮膚がひび割れて致命傷を負うこともありうる。日焼けに弱いので、湿らせた（海水か真水で）タオルなどをかけるとよい。また、体に直接水をかけてあげるのも有効な手段だが、噴気孔が開いている時は、そこには直接水をかけない。噴気孔は肺につながっているため、肺に水が入ってしまうと呼吸困難に陥って生存率も下がってしまう。体に直接水をかける際には、タオルか新聞紙で噴気孔をカバーして水が入らないようにする。
- ②日陰を作るためにシェルター（覆い）を設置する。
- ③胸ビレや尾ビレを冷やす。
- ④動物に精神的な苦痛を与えないため、見物人を近づけないようにする。ただし、1人でできない作業を行う場合には、多くの人に声をかけて援助を求めることも必要である。
- ⑤動物を刺激しないため、できるだけ音を立てない。
- ⑥動物の背中が上になるようにする。または胸の部分に穴を掘る。そうすることによって、動物が自分の体重で内臓がつぶれてしまわないようにする。座礁死における最も多い原因は、圧迫死である。

逆に、以下のことをしてはいけない。

- ①人が尾ビレや頭の近くに立つこと。動物を刺激すると同時に、クジラ類の尾ビレは力が強いので人があたってケガをする。
- ②胸ビレ、尾ビレ、頭などを押したり、引っ張ったりすること。胸ビレは引っ張ると簡単に骨折して

しまう。

- ③噴気孔を塞ぐこと。上記で述べたように密封しないもので噴気孔を保護すること。
- ④噴気孔に砂や水を入れること。
- ⑤動物の皮膚に、人用の日焼け止めローションなどを塗ること。動物専用のものを塗るのがよい。
- ⑥必要以上に動物に触ること。

おわりに

海棲哺乳類のストランドをはじめとする自然界での動物たちの異常行動は、何らかの理由によって近年頻発している。これを、自然破壊や環境汚染など人間が作り出したストレスの要因が、動物たちの環境を破壊していることのシグナルととらえ、真剣に考えるべきと思われる。また、動物たちの異常行動は、哺乳類の神経科学の発展に寄与する研究分野でもあるので、これに対するいっそうの取り組みが望まれている。

謝辞

財団法人日本鯨類研究所・広報課の久場朋子様より、貴重な資料と御助言をいただきました。感謝申し上げます。

引用文献・参考文献

- 1) 森満保 (1991) 『イルカの集団自殺』 p46~67, 金原出版
- 2) Geraci, J.R. (1978) The enigma of marine mammal strandings. *Oceanus*, No.21, p38~47
- 3) 赤祖父俊一 (1995) 『オーロラへの招待-地球と太陽が演じるドラマ-』 p85~158, 中央公論新社 (中公新書)
- 4) 村山司・笠松不二男 (1996) 『ここまでわかったイルカとクジラ-実験と観測が明らかにした真の姿-』 p56~64, 講談社 (ブルーバックス)
- 5) 大隈清治 (1997) 『クジラは昔陸を歩いていた-史上最大の動物の神秘-』 p307, P H P 研究所 (P H P 文庫)
- 6) D.E. ガスキン (1984) 『鯨とイルカの生態』 (大隈清治訳) p450, 東京大学出版会
- 7) 村谷敏郎 (1992) 『鯨の自然誌-海に戻った哺乳類-』 p210, 中央公論新社 (中公新書)
- 8) 村山司・中原史生 (2002) 『イルカ・クジラ学-イルカとクジラの謎に挑む-』 p450, 東海大学出版会
- 9) ケネス・ティラー (2001) 『オーロラの仕組み』 『ナショナル ジオグラフィック (日本版)』 2001年11月号, p48~65, 日経ナショナル ジオグラフィック社

以下、インターネットのホームページ

- 1) 海棲哺乳類情報データベース (国立科学博物館)
- 2) 独立行政法人 水産総合研究センターならびに同センターの遠洋水産研究所
- 3) YAHOO! JAPAN の Yahoo! カテゴリ——自然科学と技術:天文学:オーロラ:「オーロラが空に浮かぶ世界(“遊造”提供)」より「オーロラ発生の仕組み」

動物病院におけるトリミング業務の検討

赤池久恵・井上五月・渡辺由希・中田かおる・松本恵実・前嶋朱美
(赤池ペットクリニック)

The analysis of trimming service at the Akaike Pet Clinic

Hisae AKAIKE・Satsuki INOUE・Yuki WATANABE・Kaoru NAKATA
Emi MATSUMOTO・Akemi MAEJIMA

はじめに

当院では、クライアント・サービスの一つとしてトリミング業務を行っている。動物病院でのトリミングの利点として、以下の点があげられる。

- ①トリミングに来院の際、継続的な治療やアドバイスができる。
- ②獣医学的な知識と技術を持つ動物看護師兼務のトリマーが、トリミングを行うことにより、トリミング中の突発的な事故、急病（発作）などの際、早急に獣医師への報告ができ、適切な対処が可能である。

しかし、獣医学的な知識を基にしたトリミング中の観察や飼主への適切なアドバイスが、本当にできているのだろうか。今回、トリミングに来院したケースのカルテを分析し、今後のトリミング業務の方向性を検討したのでここに報告する。

1. 調査期間・方法

1) 調査期間

平成12年1月1日から平成13年8月20日

2) 対象

期間中にトリミングを行った犬および猫

3) 調査項目・目的

調査期間内にトリミングを利用した犬および猫の頭数、種類、年齢、疾病の有無、治療の継続状況、トリ

ミング頻度などを調査し、今後のトリミング業務の方向性を見出す（期間中、複数回トリミングに来院した個体は1頭と数えた）。

2. データ分析

1) 利用頭数とその比率

平成12年1月1日から平成13年8月20日の期間に、来院した登録数（犬、猫に限る）は2,144頭。そのうち、犬は1,481頭で全体の69%、猫は663頭で全体の31%を占めている（表1）。その中で、トリミング利用の犬は1,481頭中381頭で26%、猫は663頭中26頭で4%となる。合計407頭だった（表2）。

表1 調査期間中の全登録数

全登録数		
犬	1,481頭	69%
猫	663頭	31%
合計	2,144頭	100%

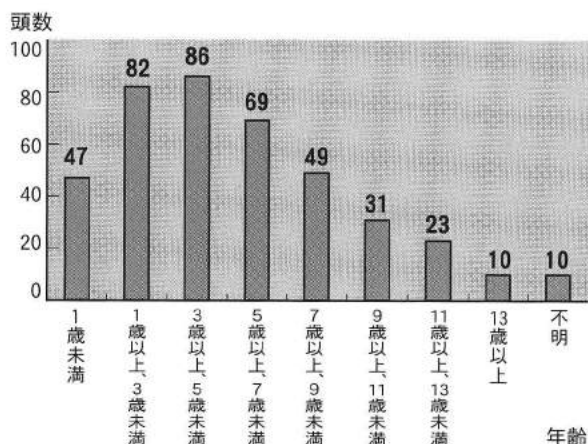
表2 調査期間中のトリミング利用頭数

トリミング利用頭数	
犬（1,481頭中）	381頭
猫（663頭中）	26頭
合計	407頭

2) 年齢層

トリミング利用頭数407頭の年齢層は、0歳から5歳が215頭（53%）を占める。6歳から9歳は92頭、10歳以降は55頭だった（表3）。

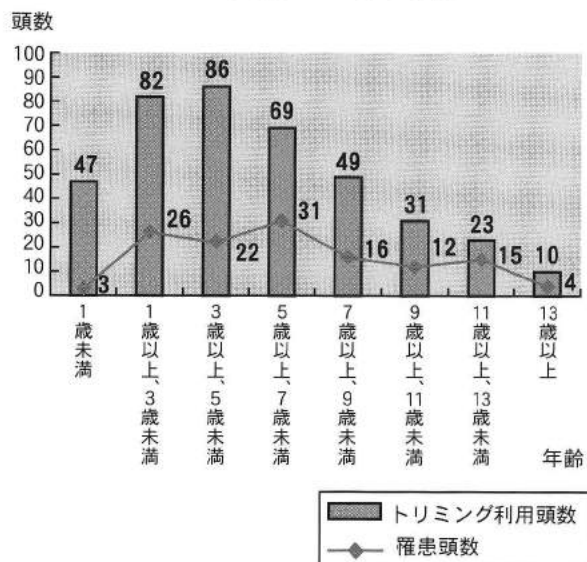
表3 年齢層



3) 年齢別にみた罹患状況

1歳を過ぎた頃より、罹患している割合が多くなっている。11歳を過ぎたトリミング利用頭数は、全体から見ると少なくなるが逆に罹患率が高くなっているため、トリミング施行中は細心の注意が必要と言える。また、7～10歳の来院頭数の4割、11～13歳では7割が何らかの疾病に罹患していた(表4)。

表4 年齢別にみた罹患状況

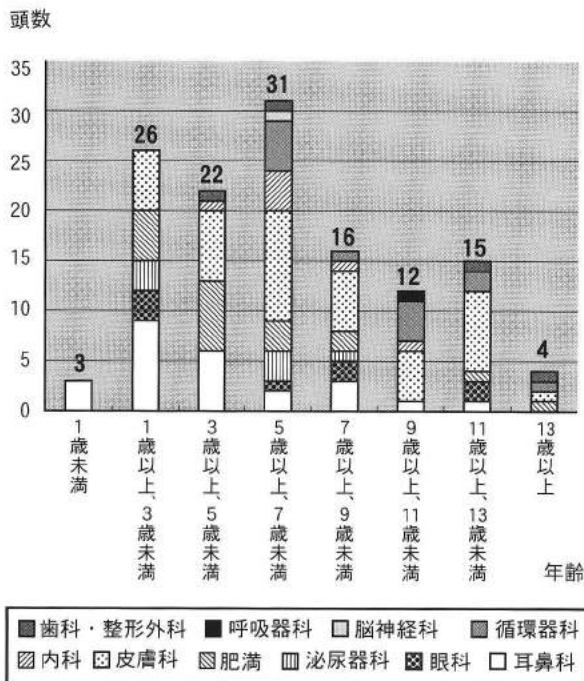


4) 科目別状況

トリミング利用頭数407頭のうち、罹患動物の中で疾病の内訳を見ると、皮膚疾患44件(34%)、耳疾患25件(19%)、肥満19件(14%)、心疾患13件(10%)が多い。皮膚疾患は、1歳を過ぎたころより全年齢に多くみられる。耳疾患は若齢より全般的に各年齢層に

見られる。5歳を過ぎるころより心疾患の占める割合が多くなることも注意したい(表5)。

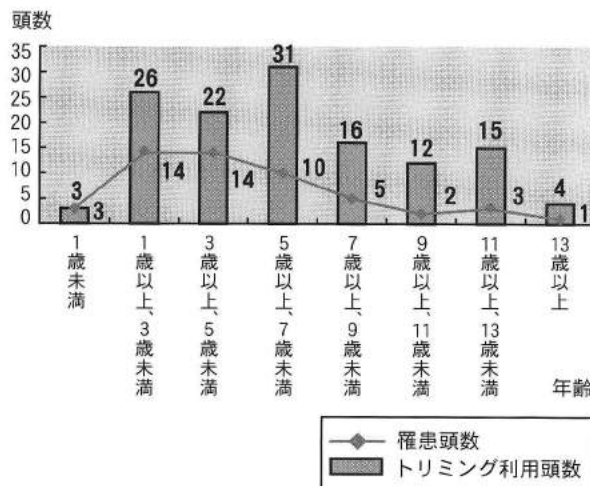
表5 科目別状況



5) トリミングから異常発見に結びついた頭数

トリミング利用頭数407頭のうち、何らかの疾病を持っている患畜は、129頭で32%を占める。トリミング利用から治療に結びつき患畜となった個体は、罹患頭数の40%を占めている(表6)。

表6 トリミングから異常発見に結びついた頭数



6) トリミング利用患畜のフォローアップ状況

表7 トリミング利用患者のフォローアップ状況

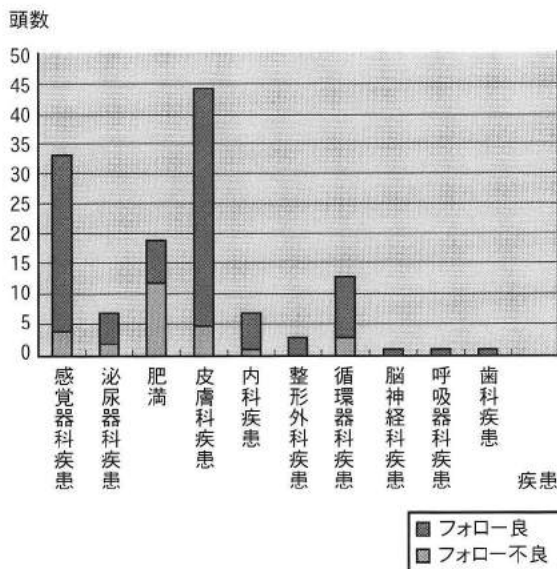
来院時の年齢	罹患動物	経過観察	継続治療	完治	フォロー良	再発	放置	中断	フォロー不良
1歳未満	3	0	0	1	1	0	0	2	2
1歳以上 3歳未満	26	3	16	4	23	0	2	1	3
3歳以上 5歳未満	22	1	12	2	15	1	4	2	7
5歳以上 7歳未満	31	3	20	2	25	1	2	3	6
7歳以上 9歳未満	16	0	12	1	13	0	1	2	3
9歳以上 11歳未満	12	0	11	0	11	0	0	1	1
11歳以上 13歳未満	15	0	12	0	12	1	1	1	3
13歳以上	4	0	2	0	2	1	0	1	2
合計	129	7	85	10	102	4	10	13	27

患者のその後のフォローアップ状況を見ると(表7)、129件のうち102件(79%)は「経過観察」「継続治療」「完治」している。そのグループをフォローアップ良とした。残り27件(21%)は治療を中断、放置している。このグループはフォローアップ不良とした。トリミング利用の個体も、トリミング台帳の記入を行い、健康状態や皮膚の状態などを次回へ申し送りできるようにしている。

7) 疾患別フォローアップの状況

疾病別のフォローアップの状況を見ると、肥満の患

表8 疾患別フォローアップの状況



畜のフォローアップが他の疾病と比べ悪かった(表8)。

8) トリミングから異常発見に結びついた頭数の内訳疾病の内訳は、耳鼻科疾患19頭(37%)、皮膚科疾患15頭(29%)、肥満11頭(21%)となった(表9)。トリミングを行う際、耳そうじやシャンプーの時などに、観察しやすい部位の疾病発見はできていると思われる。また、耳や皮膚の状態は飼主も比較的観察しやすく、動物がかゆがったり、フケが多かったりなど、カットオーダーの際にトリマーに伝えることから、診察につながりやすいと思われる。

表9 トリミングから異常発見に結びついた頭数の内訳

疾患名	頭数
耳鼻科疾患	19
眼科疾患	3
泌尿器科疾患	2
肥満	11
皮膚科疾患	15
内科疾患	0
循環器科疾患	1
脳神経科疾患	1
合計	52

9) 品種から見た利用の状況

トリミング利用407頭の中で、シーズーは130頭(32%)と圧倒的に多かった(表10)。そこで、シーズーを対象として10)に分析した。

表10 品種から見た利用の頭数

品種	頭数	疾病有	トリミングからの疾患発見
シーズー	130	57	26
雑種	46	8	4
ヨークシャテリア	31	5	1
マルチーズ	25	7	2
ボメラニアン	23	8	3
トイ・プードル	19	2	1
シェルティー	16	8	1
ゴールデン・レトリバー	13	5	3
ミニチュア・ダックスフンド	11	3	2
パピヨン	9	0	0

10) トリミング利用の最も多いシーズーの内訳

トリミング利用407頭のうち、シーズーは130頭(32%)。その中で、疾病に罹患している頭数は57頭(44%)を占めている。疾病の内訳は、皮膚科疾患26頭、耳鼻科疾患11頭、肥満9頭である(表11)。

表11 トリミング利用の最も多いシーズーの内訳

シーズー(130頭)	罹患頭数	フォローアップ良	フォローアップ不良	トリミングからの異常発見
耳鼻科疾患	11	8	3	7
眼科疾患	4	4	0	1
泌尿器科疾患	3	2	1	0
肥満	9	2	7	7
皮膚科疾患	26	23	3	11
内科疾患	2	2	0	0
循環器科疾患	2	2	0	0
脳神経科疾患	0	0	0	0
合計	57	43	14	26

11) トリミング利用頻度

トリミング利用頻度をみると、単発・不定期は248件(61%)を占めていた(表12)。利用時の状況をも、体毛もかなり伸びて毛玉が多くなってから来院する飼主もおり、次回の来院を予想するのは困難といえる。来院する407件中129件は何らかの疾患を持っていることより、トリミングに来院する1回の機会はとも重要であると言える。よって、適切な助言を行い、

表12 トリミング利用頻度

利用頻度	件数(407件中の割合)	疾病有	フォロー良	フォロー不良
0.5~1.5ヶ月/1回	56件(14%)	33件	28件	5件
2~2.5ヶ月/1回	82件(20%)	27件	21件	6件
3ヶ月/1回	21件(5%)	4件	3件	1件
単発・不定期	248件(61%)	65件	65件	15件

飼主が継続管理できるような取り組みを検討する必要がある。

3. 考察

近年、犬猫の来院する理由が、治療から予防へと徐々に変化してきたように思われる。熊井ら¹⁾は、「犬の来院理由の年次推移は、何らかの病気で来院した数は1990年の41.6%から漸減し、途中わずかの上下があるが2000年には34.7%になった。フィラリア予防とワクチン接種を併せた病気予防は、1992年からワクチン接種と狂犬病ワクチンを区分して集計したところ40.3%であったが、2000年には44.5%と漸増傾向を示し病気予防が定着してきたことが示唆された」と述べている。このように予防意識が高まる中で、「かかりつけの病院でトリミングをして欲しい」という飼主の意見が、受診の際に聞かれるようになった。

トリミング利用の動物で、何らかの疾患を持っている頭数は407頭中129頭、32%であった。内訳の上位は皮膚疾患、耳疾患、肥満、心疾患である。山本ら²⁾は、「イヌは外耳道炎の発生率が高く、年間を通して上位にみられた。また、ノミの寄生の増加に伴い、皮膚炎、急性湿疹および膿皮症といった皮膚疾患が、夏季を中心に発生の多くなる傾向がみられた」と報告している。今回の調査期間やトリミングに来院する品種等の違いがあるので、診察に来院するデータと比較することは難しいと思われるが、トリミングを利用する患者においても、皮膚疾患や耳疾患は重要な病気であることがわかる。ノミ、ダニの寄生については、407頭中ノミは4件、ダニも4件で意外に少ない数値である。また、ノミ、ダニに関して何らかの予防を行っていたのは、407頭中97頭(24%)であった。飼育環境によっても寄生する確率が違うと思われるので、関連する情報を今後も収集していきたい。

トリミング利用から治療に結びつき患者となった個体は、罹患頭数の40%を占めている。トリミングでは全身の観察ができる良い機会となるため、トリマーは、カットのみでなく患者の健康状態を配慮できる知識が必要であることが、このデータからも言える。

また、「肥満」にも注意しなければならない。磯部³⁾は肥満の定義を、「標準体重に比べ、15%以上の体重増加や脂肪組織の増加したもの」として、「肥満の発生率は、犬は24.3%、猫は6%~12%」と述べて

いる。当院では肥満の定義として、日本ヒルズ・コルゲート株式会社から提供されたボディ・コンディション・スコア (BCS) を採用している。これは、患畜の肥満状態がわかりやすくイラスト化されており、どの程度肥満なのか、また理想の体型はどのような状態がわかりやすいので、飼主への指導の際に利用している。竹村⁴⁾は、「犬猫ともに5～6歳で肥満状態になるケースが多い。報告により若干の差はあるが、この年齢層で概ね50%前後の犬や猫が肥満状態にある」と述べている。今回も、肥満は129件中19件 (15%) を占めている。フォローアップの状況を見ると、フォロー良は7件、フォロー不良は12件となっている。他の疾患と比べて極端にフォローアップが悪いことがわかる。磯部⁵⁾は、肥満を管理する上での問題点として、以下の4つを述べている。

- ①飼主が、肥満による併発症を認識していない。
- ②飼主が、食事を減らしたり、好物を与えられなくなることを好まない。
- ③食事による影響、例えば糞便量が増えたりすることを飼主が好まない。
- ④飼主のライフスタイルが、犬に不活発なライフスタイルを与えている。

今後の取り組みとして、飼主が生活習慣を見直し肥満対策に取り組めるような指導、助言が出来るよう検討していきたい。

トリミングを利用する患畜の中には10歳を超える動物もいる。高谷⁶⁾によると「高齢になるにしたがって発生の多くみられる疾病には、子宮蓄膿症、僧帽弁閉鎖不全症、心不全、痴呆があげられる」とある。今回の当院のデータからも、高齢の患畜ほど疾病に罹患している割合が高いことがわかる。内野⁷⁾によると「イヌの異常心電図の多発時期は9～10歳、不整脈の多発時期は13～14歳であった」とある。当院では、心疾患に罹患している患畜と、10歳以上の犬、7歳以上の鎮静剤使用の個体はトリミング前に心電図検査を行い、獣医師が当日のトリミング実施の判断をしている。今回のデータからも、4歳を過ぎた頃より心疾患に罹患している患畜がみられることから、今後もトリミング前の心電図検査は重要といえる。以上のことから、トリミングは、患畜にとって身体的、精神的に負担を与える作業であるため、高齢になるに従ってトリミング中の事故や急変も十分考えられる。よって、獣医師

との連携を十分にとり安全にトリミングを行うことが重要といえる。

おわりに

今回のデータから、年齢分布、罹患している動物の割合、疾病の内訳など、様々な事項を読み取ることができた。病院という特性を生かし、トリミング利用の機会にも適切なアドバイスができるよう、病院のシステムやパンフレットなどの充実を検討していきたい。

なお、この調査と同時進行で、トリミング利用の飼主にアンケート調査を行っている*。「飼主がどのようなことに興味を持っているか」また、「動物病院に求めるものは何か」などを調査している。今後は、本稿で行ったカルテ分析と、このアンケート調査とを併せてさらに分析、検討し、動物病院におけるより良いトリミングサービスを提供していきたい。

引用文献

- 1)熊井治孝 (2001)「イヌの1990～2000年までのバックグラウンドデータ」『PROVET』No.165,p62, インターズー
- 2)山本彰 (2001)「イヌの月別疾病発生順位」『PROVET』No.147,p68, インターズー
- 3)磯部禎夫 (1999)「イヌのエネルギー過剰摂取による影響/日本での取り組み」『PROVET』No.135,p31～32, インターズー
- 4)竹村直行 (2001)「高齢動物の内科的看護」『日本動物看護学会第10回大会予稿集』p34
- 6)高谷不羈 (2001)「イヌの月齢別・年齢別疾病発生順位」『PROVET』No.166,p66, インターズー
- 7)内野富弥 (1996)「高齢にともなう疾病」『MVM』No.22,p30, ファームプレス

*編集部注：今号 p55に掲載

トリミング来院の飼主へのアンケート結果

井上五月・松本恵実・保阪 香・前嶋朱美・渡辺由希・赤池久恵・鈴木加奈子
(赤池ペットクリニック)

The analysis of research of takecarers for trimming service

Satsuki INOUE・Emi MATSUMOTO・Kaori HOSAKA・Akemi MAEJIMA・Yuki WATANABE
Hisae AKAIKE・Kanako SUZUKI

はじめに

平成12年1月1日から平成13年8月20日にかけて、トリミング利用の飼主やその患畜に関するカルテ分析を行った*。その中で、

- ①疾患の上位は皮膚疾患、耳道疾患、肥満、心疾患である。
- ②肥満のフォローアップが、他の疾患と比べると悪い。
- ③高齢動物に対する安全対策の必要性。

などについて分析することができた。今回はその結果を踏まえて、飼主側の関心のあることや意見などを調査し、より実情に即した指導・助言ができるよう検討を行った。

1. アンケート期間・方法

①アンケート期間

平成13年8月20日から平成13年12月31日

②アンケート方法

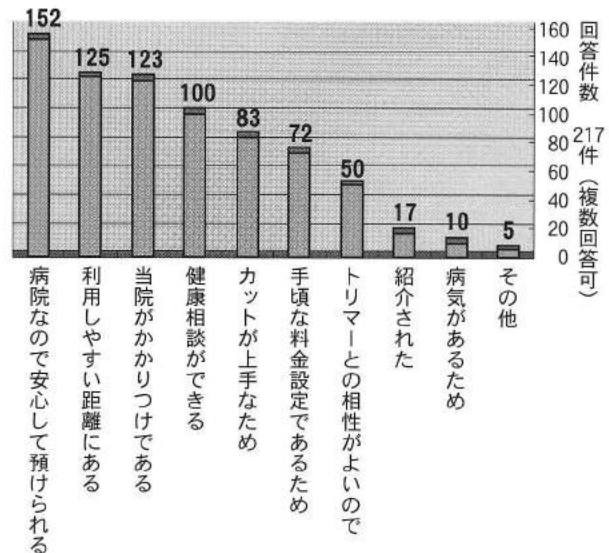
期間中にトリミング目的で来院した飼主を対象にして、当院のトリミング利用理由や、日頃関心や疑問に思う項目を挙げて、該当するものすべてにチェックをお願いした。

2. アンケート結果および分析

1) 当院のトリミング利用理由について (複数回答) (表1)

病院なので安心して預けられる 152件/217件

表1 当院のトリミング利用の理由について



利用しやすい距離にある 125件/217件
 当院がかかりつけである 123件/217件
 健康相談ができる 100件/217件
 カットが上手なため 83件/217件
 手頃な料金設定であるため 72件/217件
 トリマーとの相性がよいため 50件/217件
 紹介されたため 17件/217件
 病気があるため 10件/217件

当院のトリミングを利用される理由については、「病院なので安心」「当院がかかりつけ」「健康相談ができる」「病気があるため」などの、病院であることのメリットを求めての来院が、合計回答数737件中385件、52.2%を占めていた。

2) 飼主が日頃、スタッフに聞きたいと思っているこ

と

①トリミングとシャンプーについて（複数回答）（表2-1）

耳掃除の仕方	55件/217件
爪切りの仕方	38件/217件
シャンプーの仕方	28件/217件
爪切りの頻度	18件/217件
シャンプーの頻度	17件/217件
シャンプー剤の選び方	8件/217件

トリミングに関して知りたいことでは、家庭で動物のケアをする際、実際に役立つ「耳掃除の仕方」「爪切りの仕方」「シャンプーの仕方」が上位を占めていた。

②食餌について（複数回答）（表2-2）

食餌の量	26件/217件
おやつについて	25件/217件
食餌の種類	14件/217件
食餌のメーカー	3件/217件

飼主からの質問の中で、食餌に関する質問が69件と全体的に少ないのは特徴的であった。

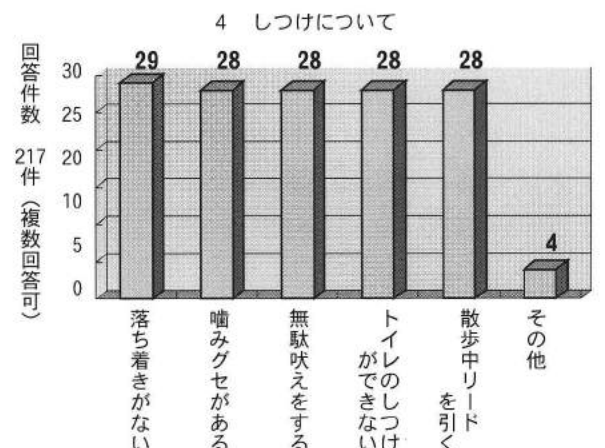
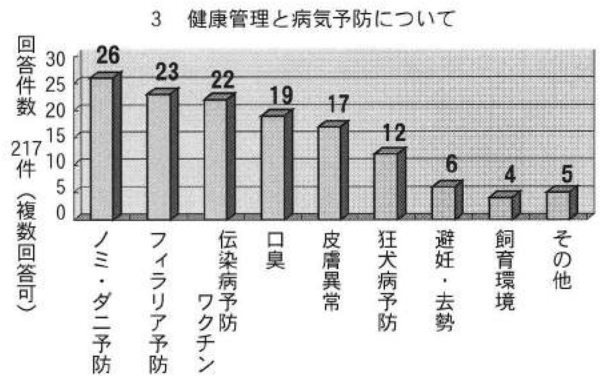
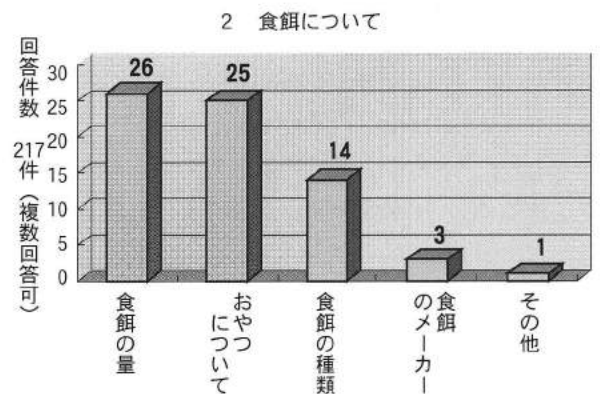
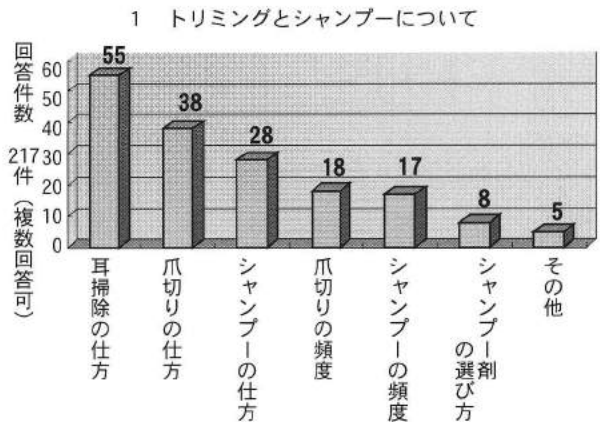
③健康管理と病気予防について（複数回答）（表2-3）

		予防実施状況
ノミ・ダニ予防	26件/217件	60件/217件
フィラリア予防	23件/217件	188件/217件
伝染病予防ワクチン	22件/217件	143件/217件
口臭	19件/217件	18件/217件 (デンタルケア)
皮膚異常	17件/217件	
狂犬病予防	12件/217件	
避妊・去勢	6件/217件	
飼育環境	4件/217件	

今回のアンケートにおける動物の実際の予防対策実施状況を見ると、ワクチン予防をしている件数は217件中143件（65.9%）、ノミやダニの予防をしている件数は217件中60件（27.6%）、フィラリアの予防をしている件数は217件中188件（86.6%）、デンタルケアをしている件数は217件中18件（8.3%）であった。健康管理・病気予防についてのアンケート結果は、ノミやダニについて関心はあるものの、実際に製剤を使用している件数は低いことがわかる。

④しつけについて（複数回答）（表2-4）

表2 飼主が日頃、スタッフに聞きたいと思っていること



落ち着きがない	29件/217件
噛みグセがある	28件/217件
無駄吠えをする	28件/217件
トイレのしつけができない	28件/217件
散歩中リードを引く	28件/217件

しつけに関するアンケートでは、「落ち着きがない」は217件中29件(13.4%)、「噛みグセがある」「無駄吠えをする」「トイレのしつけができない」「散歩中リードを引く」は共に217件中28件(12.9%)であった。動物が成長する過程で適切に、しつけについてアドバイスしていくことが大切と思う。

3. 考察

カルテ分析でもトリミング利用頭数の内訳は、皮膚疾患(34%)、耳鼻科疾患(19%)が上位を占めていたが、飼主がトリミングについて聞きたいことでは、実際に動物のケアをする際に家庭で役立つ、耳掃除や爪切り、シャンプーの仕方などが上位を占めた。

山本¹⁾は、「犬は外耳道炎の発生率が高く、年間を通じて上位にみられた。またノミの増加に伴い、皮膚炎、急性湿疹及び膿皮症といった皮膚疾患が、夏季を中心に発生が多くなる傾向が見られた」と報告している。トリミング来院動物の多くは室内飼育犬であり、飼主が身近に動物と接する機会が多いため、痒がったり臭ったりすると飼主も気になり、何らかの対処をしてあげたいと考えるのではないかと思う。家庭においても、適切に動物をケアできるように指導していきたい。

カルテ分析において、肥満は疾病内訳の15%を占めており、フォローアップを見ても悪い状況にある。反面、おやつに関しては、どのようなものを与えたらよいかなどに関心があるようだ。おやつに関して日本ヒルズ・コルゲート株式会社²⁾は、おやつを与える目的として「愛犬との生活をエンジョイ」「日常のコミュニケーションに利用」、また、おやつの種類としては「ジャーキーが最も多く利用されており、人間の食品(ちくわ、ハム、チーズ、食パン)も利用されている」という調査結果を挙げている。

船津³⁾は、「人間の環境の変化、特に食べ物によって動物たちは多くの病気を起こすようになった。中でも、皮膚病や消化器病は多いと思う。…(中略)…食餌の偏り方が極端だと思う」と食事の重要性を指摘している。問題が生じてから生活習慣を変えようとして

も、飼主はもちろん動物たちも非常に変えにくいのが現状である。動物の成長期の頃から、飼主と共に食餌やおやつについて助言する機会が必要と感じた。

健康管理と病気予防については、トリミング来院の品種は、シーズー、ヨークシャテリア、マルチーズなど小型室内犬が大半を占め、飼育環境も限られていることから、オーナーの「室内なので寄生することはないだろう」という意識が、ノミ・ダニに関する予防行動を低くしているのではと考えられる。

また、デンタルケアについても、何らかの形で動物に実施している件数は、全体から見ると少ないものの、動物の高齢化に伴い今後ますます重要になってくる分野と考える。口臭により初めて口腔ケアに気づくのではなく、動物が幼若な頃から歯垢・歯石をつけさせなくする取り組みが必要と思われる。

おわりに

今回、トリミング業務に関するカルテ分析とアンケート調査により、飼主が何を知りたがっているのかが少しずつ見えてきた。また、私たち動物看護師は、動物のおかれていた環境を把握しながら、飼主に対してどのように指導・助言すべきか考えさせられた。飼主に、動物たちが患っている皮膚病や耳道疾患、肥満について、食餌の重要性と関連づけて問いかける必要があるのではと感じる。

この調査結果をもとに、トリマーと連携して、肥満予防と対策、シャンプーの仕方、爪切りの仕方、フィラリア予防、皮膚病やノミ・ダニに関する説明などを掲載した飼主向けパンフレット(次ページ参照)を作成した。来院の機会はトリミングであっても、動物看護師は動物の全体像を見つめ、また、飼主との良好なコミュニケーションを取りつつ適切なアドバイスができるよう心掛けたい。

引用文献

- 1)山本彰(2001)「イヌの月別疾病発生順位」『PROVET』No. 147, p68. インターズー
- 2)日本ヒルズ・コルゲート株式会社(2001)『Hill's AHTセミナー 2001予稿集 今日から役立てよう クライアント教育 ベットの食餌選びのポイント』
- 3)船津敏弘(1996)「食事に関連する皮膚疾患へのアプローチ法1 飼主の生活パターンと皮膚疾患について」『CAP』No.81, p37, チクサン出版社

フィラリア症

愛犬・愛猫の敵


あなたの愛犬・愛猫に最も適した予防対策を

フィラリア症とは・・・
蚊によって媒介されるフィラリア（犬糸状虫）の成虫が、大や腿の心臓に着出して血液の流れを妨げます。フィラリアの子虫によって採血の虫歯をも侵害して起こる感染症です。季節による予防効果が高いのも特徴です。

感染・・・
種々の蚊が下図のように、感染犬から吸血し糸状虫をへと感染を広げます。



主な症状・・・
一般的に症状は食欲不振や咳、息切れなどですが、次第に貧血→浮腫→むくみ→肺水腫による呼吸困難の順で重篤な症状が現れ死に至ります。



予防・・・
フィラリア症において最も重要なことは予防です。フィラリア症は完全に予防できる病気です。毎日の発生する季節になったら血液検査でフィラリア感染の有無を調べ、愛犬・愛猫に最も適した予防薬を処方してもらおうして下さい。

薬剤の効果・効果・特徴・・・

薬剤名	剤型	効果・効能			特徴
		フィラリア感染予防	消化管の蠕虫駆除	ノミの発育抑制	
シメック	錠剤	○	○	○	室内犬には理想的な薬です
カルドメック	チュアブル	○	○	—	ピープルのチュアブルなので投薬が簡単です
モキシデック	錠剤注射	○	—	—	1回の注射で6ヶ月の予防が出来ます

赤池ペットクリニック 055-277-8500

スケーリング 歯石除去



現在、ペットの口腔内の問題は悪化の速い疾患であるといわれています。歯石が溜まると口の中はあらゆる事（歯周病・虫歯）、心臓や腎臓など全身にも悪影響を及ぼします。歯肉炎が悪化するや歯槽炎と下顎性炎症不良となり、場合によっては死に至る可能性があります。

歯肉炎の進行過程



たかが歯、されど歯です。しっかりきれいにしていきたいと思います。

スケーリング前の診察
★ 歯石の除去を行う際は、動物の口を開けたまま同じ姿勢をとらせずでの全身麻酔下での処置となります。前診検査として歯肉・歯槽の沈着物や歯のぐらつき加減などの他に全身の健康状態をチェックし、更にレントゲンでは精密検査（心臓、腎臓、肝臓の機能）を行います。

スケーリングの方法

- ① 歯の根元に付いた歯石を、超音波によって高速で振動し、歯表面の歯垢や歯石を浮かせながらスケーラーで除去します。（歯肉が下がっている歯は歯肉の沈下より歯石の根元（歯根）に付着している歯石を除去することが重要です。）
- ② 歯石を取り除いたら、歯肉を専用のブラシとクリームで磨き上げます。（そのままで歯の表面が乾く、再び歯垢や歯石が付着しやすい状態になっているからです。）

犬・猫のスケーリングも人間と全く同じ行役を行います。




スケーリング前 → スケーリング後

スケーリング後の家庭でのケア

家庭でのケアとして最も適切な方法は人間様に毎日の歯磨きです。ガーゼを指に巻き優しく口の中をマッサージしてあげます。しかし歯磨きが困難なときは、口腔衛生を考慮して作られたフード（歯、歯垢、歯石）やガム（歯垢、歯石）などを活用して歯垢の付着を予防しましょう。当院でも扱っておりますのでスタッフにご相談下さい。

赤池ペットクリニック 055-277-8500

あなたのペットはどんな体型ですか？



肥満した犬猫の特徴
腹部が垂れ下がり、腰に張り出している。背骨に肋骨がつかめる。

毎日の生活を見直してみよう。

1. おやつをあげ過ぎではありませんか？
2. 動物の年齢にあった食事の種類ですか？
3. 食事の量はあっていませんか？
4. 動物にあった運動量ですか？
5. 人間の食べている物を与えていませんか？
6. 家族全員で協力して食事の管理が出来ますか？

上記が、3つ以上あったら要注意！
肥満になると、糖尿病、関節疾患、心疾患などの病気が原因となります。

1. 糖尿病 2. 特殊な疾患 3. 心臓血管系疾患 4. 腫瘍

あなたのペットが太り過ぎたら、多くの病気を可愛いペットを守るため減量作戦に取り組みましょう。

獣医師及びスタッフにご相談下さい。
(低カロリー、低脂肪の減量用療法食があります。)

赤池ペットクリニック 055-277-8500

爪の手入れ


犬の爪の伸び具合は、生活環境や運動量で差があります。爪は爪根へ巻き込む性質があるため、伸び過ぎると先端が肉球に食い込み、化膿し痛みます。特に、前後の内側にある「肉爪」を切り忘れないで下さい。

この爪は、地面につかないので伸び過ぎ、皮膚に食い込む恐れがあります。長毛犬種は、被毛に隠れて見落としやすいので、より注意が必要です。

＜ 爪の切り方 ＞

- ① まず、血管がどこまで伸びているか確認します。
- ② 肉爪をして血管を傷つけないように注意します。
- ③ 爪の状態を確認しながら、少しずつカットします。
- ④ ヤスリをかけ、先端を丸く仕上げます。

一度でも強い痛めをさせると、次からの爪切りを嫌がります。肉爪して出血した場合は、止血剤（クイックストップ）で止めて下さい。



※ 自宅で実施出来ない場合は、当院で行いますのでお気軽にお申し付け下さい。


愛犬・愛猫の敵

ノミ・ダニの予防と駆除はしていますか？

ノミ・ダニの害は健康と寿命を脅かします。梅雨時期から秋にかけて発生しやすくなるので予防と駆除をして下さい。

ノミは吸血が13分で1匹になると産卵し始めます。ノミを1匹見つけたら100匹のノミが繁殖されていると考え下さい。駆除する時にノミの駆除は、アレルギー性皮膚炎を悪化させます。また、ササゲムシなどの中間宿主ともなり、羞しい病いによるストレスのため体調減少を招きます。

マダニはノコギリ蟻のクチャパンを皮膚に刺しつけ、セメント状の物質を出して、皮膚を硬く固定します。刺し取る時が痛くて化膿します。吸血時にバネが刺さる血管に入ると、赤血球を破壊して貧血を起すバネアザ症を起します。また、人には人畜共通伝染病のライム病も媒介します。



赤池ペットクリニック 055-277-8500

飼主向けパンフレットの例

避妊・去勢手術のおすすめ
～子犬を望んでいないのであれば考えて下さい～

去勢手術のメリット（オス）
① 睾丸がんの予防。② 前立腺炎、おしよひ会陰ヘルニア（お尻の奥の硬さ・硬い）の予防になります。

行動性疾患では、尿石やホモンがなくなるため攻撃性が低下し、性格の穏やかになります。また、③ 会陰ヘルニア予防と示すためのマーキングが弱まります。

避妊手術のメリット（メス）
① 子宮蓄膿症（子宮に膿が溜まる）、② 卵巣腫瘍、乳腺腫瘍（③）の予防になります。

行動性疾患では、発情期の出血もなくなり雄犬が寄ってこないで、精神的ストレスから解放されます。

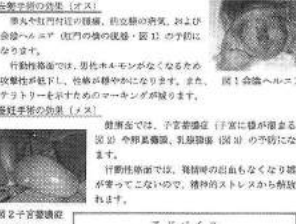
図2 子宮蓄膿症
オスの去勢手術は陰嚢を切開し、左右の睾丸を摘出します。日陰の手術です。メスの避妊手術は、腹中部開腹により、左右の卵巣と子宮を摘出します。一泊の入院が必要ですが、手術は予約が必要です。当日は絶食食で手術前日に来院してください。術後、数日安静が必要で、術後ケアが大切です。当院は手術後ケアに力を入れています。赤池ペットクリニック 055-277-8500

図3 乳腺腫瘍
メスの去勢手術は陰嚢を切開し、左右の睾丸を摘出します。日陰の手術です。メスの避妊手術は、腹中部開腹により、左右の卵巣と子宮を摘出します。一泊の入院が必要ですが、手術は予約が必要です。当日は絶食食で手術前日に来院してください。術後、数日安静が必要で、術後ケアが大切です。当院は手術後ケアに力を入れています。赤池ペットクリニック 055-277-8500

肛門嚢を知っていますか？

犬の肛門の両側には肛門嚢と呼ばれる袋があり、ペースト状の液体が貯蓄されます。この液体は非常に臭く、個体識別や排便時の潤滑物の役割をします。（左下図）

肛門嚢を閉鎖しにくい先天性の病気や炎症を引き起こす犬種、慢性の下痢を起している犬は肛門嚢炎を起しやすいです（右下写真）。これを放置すると肛門嚢嚢炎の原因が自壊して膿や血漿が排出されます。



犬の肛門付近の解剖図 犬の肛門嚢炎

こんな時は肛門嚢に膿がたまっています！
★ 肛門嚢を何度も洗ったり触ったりする
★ 肛門嚢を指先や爪でこすったりする
★ 自分のお尻を洗ってあげてあげる
当院はトリミングに肛門嚢絞りも行っております。月に一度は絞り出す必要があります。肛門嚢絞りだけでもお気軽に申し付け下さい。

赤池ペットクリニック 055-277-8500

書評

『動物看護学 総論・各論』

日本動物看護学会教科書編集委員会 編

日本動物看護学会 発行

動物看護師に期待される 「人と動物の関わり」についての理解

森山哲美 (常磐大学人間科学部教授
—行動分析学・学習心理学・比較心理学—)

筆者の専門は動物心理学である。そこで学んだことは、動物の心的過程を理解するには、動物と人の心的過程の関係を理解する必要があるということである。

このたび、『動物看護学 総論・各論』の教科書を読む機会を持ち、動物看護師の職の意義を知るとともに、この職に携わる方々は、動物の看護に関わるもろもろの知識や技術を習得するだけでなく、動物と人の関係を広い視点から理解する必要があるということを知った。このことは、筆者が動物心理学の研究から学んだ視点と共通するものである。

「人と動物の関わり」の歴史は古い。そのことはこの教科書にも記されている。その関わりは、大きく二つに分けることができるだろう。一つは、人が動物を科学研究の対象とする関わりであり、もう一つは、家畜やペットとして人の日々の生活に動物を関わらせるというものである。どちらも、人と動物の相互の関わりが問題である。一方だけで成り立つ関係ではない。従って、人が人を理解することで、人は動物を理解でき、また、人が人を理解するには、人は動物を理解する必要があるだろう。

動物看護師という職は、この二つの「人と動物の関わり」を理解し、双方の共存と共栄に貢献する職であると思われる。この職に就く方々は、人社会における「人と動物の関わり」を理解することが求められるだろう。



その点で、『動物看護学 総論・各論』は動物看護師を目指す方々にとって最適の教科書と考える。この教科書は、動物看護に関わる様々な技術的問題を提供しているだけでなく、それらの問題の根底にある基礎科学や応用科学の知見をわかりやすく紹介している。さらに特筆すべきは、動物倫理の視点を、総論の第1章「動物看護概論」で紹介している点である。上で述べたように、動物看護が人社会における「動物と人の相互の関わり」を問題とする以上、動物倫理の問題はきわめて重要である。動物の福祉、動物の生存権といった動物に関わる倫理的な問題は、人行動の理解なくしてあり得ない。単なる情愛的な視点でとかく論じられる動物倫理の問題は、きちんとした科学的裏付けのもとで論じられるべきであると考えている。総論の第1章では、その問題が簡潔明瞭に論じられており、その点でも優れた教科書といえるだろう。

今後、人と動物の関係は人社会においてますます複雑化し、思いもよらぬさまざまな問題が我々に提起される可能性がある。そのとき、動物看護の技術提供者としてだけでなく、それらの問題を広い視点から解決できる研究者としての活躍が、動物看護師に期待されることになるだろう。そのようなポテンシャルティーのある動物看護師の育成に、『動物看護学 総論・各論』は大いに貢献すると思われる。

●お知らせ● ヒューマン・アニマル・ボンド心理学研究会 (HAB心研) の第10回会合が、以下の概要で行われます。日時: 03年12月6日 (土) 午後2時/場所: 東京都新宿区・早稲田大学総合学術情報センター内 共同研究室/発表: 「身体障害者補助犬における地域での現状と課題」藤原佳典氏 (東京都老人総合研究所) (予定)/問合せ: 横浜国立大学・安藤研究室 TEL 045-339-3270 e-mail t-ando@ynu.ac.jp

日本動物看護学会 第12回大会
パネルディスカッション「動物看護教育カリキュラムについて」

“動物看護師の教育課程が抱える課題とは？”

2003年6月8日(日) 東京都港区・慶応義塾大学にて

◆議論に先立って——座長挨拶◆

日本動物看護学会では、1995年12月の学会発足時に、

1. 学問としての動物看護学の確立
2. 動物看護師（師）の職域の拡大
3. 育成カリキュラムの策定とライセンス認定

の大きな3つのテーマを目標に立てた。そして2002年に、これまでの学会活動の成果を『動物看護学総論・各論』の2冊の教科書として世に問い、1のテーマに関する最初の答えを出した。

その後、幅広く各大学の先生方にもご協力いただき、会長の諮問機関として動物看護師資格認定試験委員会（以下、認定委員会）を立ち上げ、その答申に沿う形で動物看護師の資格認定試験の準備を開始した。2003年9月には現職者を対象とした移行措置試験（実施済）、2004年3月には新卒者を対象とした認定試験を実施することは、周知のとおりである。

認定委員会では様々な議論がなされたが、そのすべてに結論が出た訳ではない。また、資格を立ち上げた後に生じうる問題や解決しなければならない問題が、山積みされているというのも、委員会での共通認識となっている。

今まで不幸にして、動物看護師教育のカリキュラムや資格試験といった問題が公の場で議論されたこともないまま、状況が一人歩きしている。本日のパネルディスカッションでは、幅広く動物看護教育に携わる先生方に集まっていただき、動物看護師資格をよりいっそう充実させるためにも、公開の場で熱い議論を交わしていただくことを意図して企画した。



▲熱気あふれる会場



▼公開討論の様子



座長
桜井富士朗
(日本動物看護学会副会長)

◆私はこう考える——①パネリストからの提言



牧田登之氏

(元 山口大学農学部長)

制度としての動物看護師は、人医の看護師に参考にするべき点が多いと思う。近年、動物看護師教育機関の数は急増し、現在では全国で300校近くを数える

といわれる。こうした状況下で動物看護師の教育カリキュラムを考えるにあたり、以下の点を課題として挙げてみたい。

1) 動物看護師教育の3つの目標

- 国家資格の確立：社会的認知度を高め、動物看護師の資質を向上させる。
- 福利厚生充実および待遇改善。
- 職域の確保：動物看護師の職業をより社会に広げる必要がある。

2) 動物看護学の高度化

動物看護学が人医の看護学に見劣りするものであってはならない。動物看護師は、つねに技量の向上に努めるべきである。

3) 教育カリキュラムの統一化

動物看護師の各資格認定を、近い将来、統合して行くための働きかけが必要であると思う。また、動物看護師教育機関の教育カリキュラムを標準化すべきだ。そうしないと、いつまでたっても社会の認知を得られないのではないか。また、獣医科大学も動物看護教育にもっと力を入れるべきであろう。

4) 教育カリキュラムの明確化

医学の歴史を語る中で、医院と理髪店が同居していたことはよく知られているが… 動物看護学とトリミング、グルーミングの境界を明確にさせないと、国家資格化の際に障害となるのではないか。

5) 良質な教材の開発

現状では良質な教材がまだ少ない。模型や組織片などももっと活用したい。日本動物看護学会が発行した教科書は、この課題における出発点といえるが終着点ではない。よりよい教材の開発を推進すべきと思う。

6) 入学基準、資格取得の厳格化

学生の入学や資格制度の運営においては、「誰でも

入れる」「誰でも取れる」ものでは意味がない。「入る」と「出る」つまり「入学と卒業を厳格に行う」ことが、確固たる教育カリキュラムの運用に不可欠であろう。

7) 学生の経済状況への配慮

どの程度の教育を行えば、動物看護師としての十分な知識と技術を習得できるかを、より考える必要がある。“貧しい学生”たちに、金銭面で過剰な負担がかからないよう配慮してほしい。また、動物看護師として就職後は、男女ともに満足な生計が立てられるような収入の確保が急務である。

8) 職域拡大の可能性

動物病院以外で働く動物看護師の存在も、今後は予想されるだろう。様々なケースを想定して、動物看護師の幅広い可能性を考えたい。

9) ビジネスマナーと接客教育の充実

動物看護師は獣医師以上に、飼主らに対する“接客業”としての側面も有する。挨拶、電話対応の仕方、パソコンの取扱いなどのビジネスマナーと接客教育を、教育カリキュラムに取り入れるべきであろう。

〈会場からの質問〉

動物看護師の教育カリキュラムを作成する際に、最も参考にするものは何でしょうか。

〈牧田氏の回答〉

人の医学の教育カリキュラムを多大な参考にします。この中から必要性のあるものを抽出し、動物看護師の教育カリキュラムに取り入れます。



多川政弘氏

(日本獣医畜産大学獣医学科 教授、動物保健学別科長)

当大学の動物保健学別科は、動物看護師の養成を目的として2003年4月に開設された。ここでは、動物看護師をめざす学生が、大学の充実した施設を利用して高度な知識と技術を身に付けられると自負している。

教育カリキュラムとして、1年度64単位という充実した講義と実習を組んだ。この策定にあたっては、パデュー大学(米国)の動物看護師の養成コースなどを十分に研究した。しかし、まだ手探りの状態といえる。

なお、動物病院における動物看護師採用の際には、トリミング技術を有する者が歓迎されているようだ。当科でも、トリミング技術の講義を行うことを考えている。

動物看護師は、時に厳しい労働条件下であっても、動物が大好きで懸命に働いている。当科の学生たちも、動物に対する無償の愛情をもっている。このことは私も十分に認識し感銘を受けている。動物看護師の存在意義をもっと深く突き詰めて考えていく必要がある。

〈会場からの質問〉

動物保健学別科の初年度入学者の人数を教えてください。

〈多川氏の回答〉

第1期生40名中、男性9名、女性31名です。ほぼ全員が動物看護師をめざしています。



高橋英司氏

(帝京科学大学工学部アニマルサイエンス学科 教授)

本学科は2002年4月に開設された。コンパニオンアニマルと野生動物との共生を研究目的として、教育カリキュラムを策定している。在籍学生の約6割の生徒が動物看護師としての就職を希望している。

1年次の共通基礎科目では、コンパニオンアニマルの行動学と栄養学を学ぶ。2年次の実習では、休暇中を利用して約2週間程度、動物園や水族館などで動物看護を行う。これは、コンパニオンアニマルと野生動物の両方を対象とする。3年次の実習では動物病院に出向いて実地業務を行うが、これは野生動物方面の進路を希望する学生にも課している。学生らが将来、動物病院でも働けるようにするためである。

学生は皆動物好きであり、実習にも熱心に取り組んでいる。教育カリキュラムは、今後も随時見直しや改善を行いたい。

〈会場からの質問〉

他の4年制大学と同様に、研究室などはあるのでしょうか。

〈高橋氏の回答〉

3年次の後期から研究室に入室し、卒業論文の準備をします。各研究室があり、例えば私の研究室であれば、「高橋研究室」という名称で感染病学を学んでいます。今後は、修士課程ではさらに高度な研究をめざすなど、独自性をもたせるための準備をしています。修士の資格をもつ動物看護師が社会に出て行くことは、動物看護師の資質や社会的評価を高めることに、大きく寄与するものと考えています。



酒井健夫氏

(日本大学生物資源科学部獣医学科 教授)

既存の4年生大学において、動物看護師などの資格を設定するとすれば、学芸員もしくは教員養成課程のような形がよいの

ではないか。18歳人口が激減し続ける中であっても、動物学は人気が高く大変多くの志願者が集まる。

動物看護師の教育カリキュラムについて、私は次の2点について意見を述べたい。

一つは、教育体制の整備・充実である。現在国内には、大変多くの関連校があると思われるが、これらの教育内容の標準化が不可欠と思われる。その際に求められる視点とは、「教育理念と目標の確認」「教育カリキュラムの評価と点検」「4年制大学における学士、短大における準学士のような称号の設立」「生涯教育プログラム(卒前と卒後教育)の充実」などであろう。

もう一つは、動物看護師の社会的位置づけである。これに関する視点としては次の3点をあげたい。「動物看護師を職業として保証すること」——獣医療法の中に、「獣医業の適切な運営をはかるために動物看護師をおく」のような一行が入れば、きわめて意義と思われる。「経済保証」——待遇改善全般について。「職域の連携強化」——大動物や野生動物への対処はひとまず除き、小動物医療の看護に限定してこれを突破口にして、動物看護師の社会的信用を確立できないか。獣医師とのパートナーシップの確立も大切な課題である。

動物看護師の社会的位置づけの確立については、歯科衛生士、保健婦、看護師などの制度が大いに参考になるだろう。

今後社会で、動物に対する福祉、愛護、社会道德、倫理の意識がより高まれば、獣医師とそのパートナーである動物看護師はいつそう注目されるだろう。動物看護師が社会的地位を確保するためには、適切なカリキュラムに基いて、獣医師との連携を強化する教育を行い、社会の期待を裏切らないことが大切であると思う。

〈会場からの質問〉

日本動物看護学会による「動物看護師資格認定試験」を運用する上で、どのようなことに最も注意すべきでしょうか。

〈酒井氏の回答〉

柔軟な姿勢で取り組まれることを望みます。この認定試験こそは、ゴールではなくスタートであると思われまます。

リマール業務を付加価値としてどう位置づけるかも、重要なポイントと思われる。

動物看護師の教育期間は2年がよいのか、3年がよいのか。これには卒後教育の実施方法も関係してくるのであろう。

インターンシップ（実習）の問題で言えば、人の医療においては、実習指導専門の看護師がいる。このような存在が看護学の発展に不可欠であらう。つまり、教育的視点から看護を指導できる看護教員のような存在が、獣医師でも動物看護師でも求められるのではないか。

また動物看護師は、獣医師よりも飼主に接する機会が多いとも言える。そこでは、飼主とのコミュニケーションが非常に重要視される。上手な人間関係を築くことについても、修得すべきことは多いと思われる。

動物看護学が今後一つの学問として成立するためには、様々な観点からの研究が行われるべきであらう。動物看護師自身にあっても、日頃の業務における様々な事柄を、科学的に考える力を養うことが求められるであらう。

◆私是怎么考える——②指定討論者からの提言



長田久雄氏

（桜美林大学大学院国際学研究科
老年学専攻 教授）

動物看護師はどうあるべきか、動物看護師は獣医師とどこが違うのだろうか。動物看護とは、疾病の有無にかかわらず、動物が快適に過ごすための支援を行うことであらう。病気を治療するのは医師であるが、治療の過程で快適な環境を支援するのは、看護師だと考えられる。獣医師と動物看護師の役割分担を考える時、この点が重要と思われる。

職域についていえば、現状の獣医師法の下、動物看護師は注射ができない。いっぽう人の医療において注射は、看護師はできるが助産士やホームヘルパーはできない。救急救命士の医療行為は現時点では禁じられている*、などの現状がある。動物看護師における、獣医師業務との職域の再検討は大切な課題であらう。動物看護師の地位や収入にもかかわる問題である。ト

〈会場からの質問〉

獣医師と動物看護師の職域の違いを、どのようにお考えですか。

〈長田氏の回答〉

難しい問題ですが、私の考えを申し上げるなら、医師は原則的に治療に関わる問題に専念すべきで、それ以外の生活、すなわち入院中に起こり得る心身の諸問題について、医師はそれほど深く関わるべきではないでしょう。医師がそういった問題に関わるのは難しいと思います。それこそが看護師の仕事でありましょう。

ただし、血圧を図る、心電図を取る、注射をするといったことは職域上重なりがあるわけです。米国では、看護師が薬の調合もできるようですが、わが国では認められていません。しかしやはり、医師と看護師の持ち場は異なり、「医師は治療、看護師は生活支援」なのでしょう。動物看護師と獣医師の場合は、人の医療よりも、持ち場がはっきり区分される気がします。

*編集部注：救命救急士の医療業務範囲は、近年の法律改正により拡大傾向にある。

〈酒井氏の回答〉

今後、獣医療の高度化につれて、動物看護師と獣医師は役割分担を明確化しないと、やっていけないと考えます。できるだけ早い時期に、獣医師と動物看護師の双方の職域を明確にすることが必要でしょう。



渡辺 茂氏

(慶應義塾大学文学部教授—生物心理学—)

動物看護師育成のための教育カリキュラムとは、獣医師育成のそれとは異なる、独自の内容がより盛り込まれるべきであろ

う。まず、この点をしっかりと認識しておきたい。加えて、動物看護学と学問を称する以上は、獣医学以外の要素、すなわち、様々な領域からの学際的な考察が不可欠であろう。

動物看護においては、動物に症状を尋ねられないから、飼主とのコミュニケーションが大切となる。動物看護師にとって、飼主との対応業務が想像以上に大きいといえる。よって、心理カウンセリングの基礎を修得しておく役立つのではないか。

取材：高橋亜弓（学会事務局） 文責：学会誌編集委員会

本記事は、当日の内容を再構成の上まとめたものです。なお文中、「動物看護師」にて表記の統一をしています。



日本動物看護学会

「第1回 移行措置における

動物看護師資格認定試験」

総評

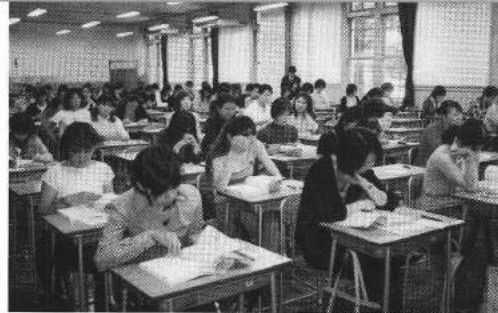
日本動物看護学会 会長 今道友則

平成15年9月28日（日）東京・大阪2会場にて現職動物看護師を対象とする「第1回動物看護師資格認定試験」を実施しました。東京会場178名、大阪会場97名総計275名の現職動物看護師の人たちが受験しました。

このたびの試験は「動物看護師」としての資質を認定保証する全国的視野の公的認定試験制度を確立させる第一歩と言っても過言ではありません。

我が国の動物看護の現状を顧みる時、教育面においては動物看護師養成学校におけるカリキュラムが平準化されていないこと、看護対象動物という面では小動物開業医を訪れるいわゆるコンパニオンアニマルのみに偏っていること、さらに資格に関しては国家認定制がなく、また公正中立機関による認定もないなど様々な問題を抱えておりました。

このような現状の中、「資格」を授与するにあたり本学会では有資格者足り得る知識・技術の基準作りから手掛けることになりました。約6年の年月をかけて動物看護学教育カリキュラムを検討し、動物看護に関わる者が最低限習熟しておくべき学習内容を網羅した基準教科書を、昨年に発刊いたしました。これを元に公正中立な認定制度を目指し、獣医系大学および関連する人文系大学の教授陣を中心として本学会常任理事を加えた「動物看護師認定試験委員会」を設置し、試験要綱を策定しました。さらに、試験問題の作成にあたっては27名の大学教官らの協力を仰ぎ、動物看護師としての職務を熟慮したうえで、いわゆる「ミニ獣医学」を問うことだけに終始しないように努めました。このようにして作成された400題をこえる試験問題の中から厳選した80題（筆記試験60題・実地試験20題）を今回の試験問題として採用いたしました。また試験問題の印刷においても都外某所にて責任者が全工程立ち会いのもと厳重な態勢で実施し、試験当日まで責任者以外に問題が明かされることのないよう徹底して参りました。



東京会場



大阪会場

試験当日は東京会場において、JR中央線の大幅なダイヤの乱れがあり、試験の変則的開始などが余儀無くされましたが、十勝沖地震の影響で上京できなかった者1名を除く275名全員が両会場で滞りなく試験を終えることができました。

採点は選出された動物看護師資格認定委員が行い、243名が合格となり、当初学会が予測していた合格者数を大きく上回る結果となりました。現職者として多忙なスケジュールの中、セミナー受講および通信教育受講などの補習教育を修了なされた意欲と経験豊かな動物看護師の方々故の合格率であるものと推察しております。

今回の試験に合格し「動物看護師」として認定された方々におかれましては本学会が規定しておりますところの「生涯学習」に励み、さらなる精進をしていただきたいと思えます。

本会としましては、このたびの試験実施を機に関係各界のご指摘・ご意見を拝聴しながら、本資格認定制度の充実発展および国内における動物看護教育の平準化に向け努力して参りたいと考えております。また資格認定者の人材育成、職域拡大などを図りながら動物看護師としての誇りと十分な満足が得られる社会的環境を整えるべく活動して参りたいと存じますので、関係各位におかれましてはご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、不測の事態とはいえ、交通機関の乱れで受験者の皆さんにご迷惑おかけいたしましたこととお詫びいたします。またこのたびの試験に関してご尽力いただきました関係各位に深謝いたしますとともに会場提供等にご協力くださいました日本獣医畜産大学にお礼申し上げます。

日本動物看護学会規約

第I章 総則

1. この学会は、日本動物看護学会と称する。
2. この学会は、動物看護に関する研究を中心として、関連する諸領域相互の情報交換の場を設け、この分野における研究の進展を図ることを目的とする。
3. 前述の目的を達成するため、次の事業を行う。
 - ① 動物看護師の諸問題についての事業
 - ② 会員の研究発表、シンポジウム、ワークショップ等の開催
 - ③ 学会誌などの発行
 - ④ 目的を達成するために必要なその他の事業

第II章 会員

1. この学会への参加はこの分野に従事する者および関心を有する者とする。
2. この学会の会員は、正会員および賛助会員とする。
3. 正会員は、この学会の主旨に賛同し、会費を納付する個人とする。ただし2ヵ年度分以上滞納の場合は退会とみなす。
4. 賛助会員はこの学会の目的事業を賛助し、賛助会費を納付する者とする。
5. 会員は学会の主催する研究発表会などに参加し、この学会の発表する出版物などの優先的配布を受けることができる。

第III章 役員および会議

1. この学会には次の役員をおく。

会長（1名）・副会長（3名以内）・監事（2名）・事務局長（1名）・理事（若干名）
2. 理事および監事は、総会において正会員の中から選任される。
3. 会長、副会長、事務局長は理事の互選により選出される。
4. 会長は、この学会を代表し、会務を総理する。会長に事故ある時は、副会長がその職務を代行する。
5. 理事は、総会の承認を受けて決定される。
6. 理事は、理事会を組織して会長を補佐し、この学会の運営に当たる。
7. 理事は、互選により事務局長を選出し、事務局長は事務局幹事を任命し、運営の実務を司る。
8. 役員の任期は2ヵ年とし再任を妨げない。
9. この学会には、評議員若干名をおく。
10. 評議員は総会において正会員の中から選任され、第III章の規定が準用される。
11. 学会活動に功績のあった会員を、顧問とすることができる。顧問は理事会が推薦し、総会において決定される。
12. 通常総会は、毎会計年度終了2ヵ月以内に会長が招集する。
13. 臨時総会は、会長または理事会が必要と認めるとき、いつでも招集できる。
14. 理事会は随時会長が招集する。

第IV章 会 計

1. この学会の経費は、会費その他の収入をもってこれに当てる。
2. この学会の会計年度は4月1日に始まり3月31日に終わる。
3. 理事会は、毎会計年度の収支決算を通常総会に報告し、承認を受けなければならない。

付 則

1. この学会の会費は、年額理事6,000円、正会員3,000円、賛助会員一口30,000円以上とする。
2. この定款は1995年12月9日より施行する。
3. この定款の変更は総会の議決による。
4. この学会の議決は出席者の過半数の賛成をもってする。
5. この学会の事務局を東京都千代田区猿楽町2-6-3におく。

注) 2003年8月より右記に移転：東京都中央区八丁堀3-9-8 新京橋第一長岡ビル5階

1995年12月9日制定

1997年11月29日改正

1999年6月6日改正

【役員】(敬称略・順不同)

会 長	今道 友則 (日本獣医畜産大学名誉教授)	
副 会 長	桜井富士朗 (桜井動物病院)	
	廣田 順子 (アリスどうぶつクリニック)	
	渡辺 茂 (慶應義塾大学)	
事 務 局 担 当 理 事	桑野 悟 (動物病院モルム)	
事 務 局 長	村中 志朗 (広尾動物病院)	
理 事	大城 朋子 (四街道動物病院)	大和田一雄 (山形大学)
	小杉正太郎 (早稲田大学)	高橋 和明 (日本獣医畜産大学)
	田中 吉春 (㈱アイビーテック)	和 秀雄 (広島国際大学)
	幅田 慶子 (センターヴィル動物病院)	長田 久雄 (桜美林大学)
	林 良博 (東京大学)	秋葉 亮子 (あいち動物病院)
	若尾 義人 (麻布大学)	中俣由紀子 (かしま動物病院)
	酒井 健夫 (日本大学)	牧田 登之 (元 山口大学)
	村中 志朗 (広尾動物病院)	小松 千江 (新ゆりがおか動物病院)

【監 事】(敬称略・順不同)

竹内 吉夫 (看護編集者)	高見澤重昭 (弁護士)
---------------	-------------

【評議員】(敬称略・順不同)

植松 一良	佐久間明美	岡ノ谷一夫	清水 誠	内野 富弥
仲間 一雄	青木 信夫	白井 玲子	石原 絵里	斉藤 徹
信永 利馬	紺野 耕	小方 宗次	辻 弘一	富沢 保治
朝田 則子	戸塚 耕二	森 裕司	伊藤 勇夫	青木香代子
高倉はるか	山崎由美子	種市康太郎	甲田菜穂子	

【投稿規定】

(1997年11月1日施行)

(2002年9月10日改正)

日本動物看護学会 会誌

『Animal Nursing (アニマル・ナーシング)』

(Journal of Japanese Society of Animal Nursing)

1. 投稿論文は動物看護領域に関する未発表の英文の Full Paper (原著)、Note (短報)、Review article (総説)、および和文の原著、総説、技術講座、資料、論文紹介、トピック等とする。
2. 著者または共著者は会員、非会員を問わない、また投稿料は無料とする。
3. すべての投稿論文は編集委員または編集委員会が委嘱した論文審査員が審査し、編集委員会が採否を決定する。編集委員会は原稿の訂正を求めたり返却したりする場合がある。動物の福祉面に問題のある論文は採択しない。
4. 原著論文の構成は各分野の慣習に従うが、要約 (Summary)・序文 (Introduction)・材料と方法 (Material&Method)・結果 (Result)・考察 (Discussion)・引用文献 (Reference) から成ることが望ましい。
5. 要約は欧文 (または和文) とし、150語前後で内容を簡潔にまとめ、3～5語の Key Word をつける。原著論文以外の報文も、欧文表題を必ず付け、欧文要約があることが望ましい。
6. 和文原稿は新仮名遣いとし、なるべく当用漢字を用い、外来語と生物の和名は片仮名とする。原稿はパソコンまたはワープロを用いて A 4 判用紙に作成する。手書きの場合は A 4 判横書き原稿用紙を用いる。欧文原稿は厚手のタイプ用紙にダブルスペースでタイプし、左端2.5cm あける。
7. 文献は本文に引用したものに限り、アルファベット順に記載する。個々の文献の記載例を下に掲げる。
〔雑誌〕 著者名 (発行年次) 表題名, 掲載誌名, 巻数: 最初の頁-最後の頁: 発行所.
例 1) 赤池久恵 (2001) 糖尿病の犬と飼い主への関わりを通して看護指導の意義を考える, アニマル・ナーシング, 7: 4-19: 日本動物看護学会.
2) Dennis, R (1997) Veterinary Diagnostic Imaging: into a new era, Veterinary Nursing, 12: 12-13: J. B. V. N. A.
〔書籍〕 著者名 (発行年次) 書名: 最初の頁-最後の頁: 発行所.
例 1) 熊倉正樹ほか (2002) 動物看護学各論: 50-51: 日本動物看護学会.
2) Paul W. Pratt (1994) Medical, Surgical and Anesthetic Nursing for Veterinary Technicians: 259-342: American Veterinary Publications, Inc., Goleta.
8. 図および表の番号は「Fig. 3, Table. 2」または「図3、表2」のようにする。図と表は本文原稿とは別にして、挿入希望箇所を本文原稿中に指定する。図が手書きの場合には黒インクを用い、白地用紙あるいは青罫のグラフ用紙を用いる。
9. 上記以外で執筆中の詳細は、執筆者に配布される執筆要綱による。
10. 著者校正は初校までとする。原則として誤植の訂正に限り、新たな文章やデータを付け加えることはできない。また、原稿、原図などは、著者に返却される。
11. 投稿論文については、カラー印刷に要する費用は著者の負担とする。
12. 別刷論文は1編につき50部まで無料、それ以上は著者の負担とする。
13. 本誌に掲載された論文の著作権は、日本動物看護学会に属する。

—論文執筆を終えて—

「牧畜民は家畜を看護するか？」

(曾我 亨／弘前大学人文学部情報行動講座 助教授)

牧畜民が家畜と取りむすぶ関係は一様ではない。家畜は家族の一員でもあり、財産でもあり、食料でもある。家畜を擬人化したり、可愛がったりしないが、誇らしく思ったり、家畜から深い満足感を得たりしている。そのような関係の多様さを知ることは、ペットを擬人化してしまう私たちのやり方が、決して唯一のあり方ではないことを教えてくれると考えている。

「動物の存在が人物の印象に及ぼす影響」

(金児 恵／東京大学大学院人文社会系研究科)

欧米のコンパニオン・アニマル研究の結果がそのまま日本社会にも適用できるのか否かに関心を持ち、実験や調査といった社会心理学的手法を用いながら実証研究を進めてきました。今後も、日本の社会的・文化的背景に注意を払いつつ、日本社会でよりよい人と動物の関係を築くためには何が必要なのかを検討していきたいと思えます。

「北川動物病院におけるフェレットの入院看護の工夫」

(高嶋絵理子・森本かおり・古川修治・山村穂積／北川動物病院)

初めて執筆させていただきました。とても大変でしたが、この執筆をとおして勉強にもなりました。さらなる工夫を重ねていきたいです。(高嶋)

「犬の毛周期の成長期と休止期の比率からみた被毛状態」

(野手盾夫子／日本動物病院看護士学院)

犬の被毛の研究は今回が第1回目の発表であり、第一歩を踏み出したばかりといえます。被毛の状態に関する基礎的データとしてもまだまだ不十分な点が多くあり、年齢差によるデータや冬季の被毛についても観察してゆきたいと考えています。犬の健康維持ばかりでなく、病気の早期発見にも役立つことができるよう、今後も研鑽を積んでゆく所存です。

「海棲哺乳類のストランド（座礁）—その原因をさぐる—」
(石垣奈陽／日本動物病院看護士学院)

高校生の頃からいつか形にしようと思っていたことが、今日、専門学校卒業という節目にこうして一つの形にできたことを、とても嬉しく思います。と同時に、執筆にあたりまして、牧田学院長、帝京科学大学・粕谷俊雄様ほか、たくさんの方々にご助言、ご助力いただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

「動物病院におけるトリミング業務の検討」

(赤池久恵・井上五月・渡辺由希・中田かおる・松本恵実・前嶋朱美／赤池ペットクリニック)

現在私は、山梨県立看護大学大学院にて、看護学について再度学びを深める努力をしております。同期には看護における先輩が多く、とても良い刺激となります。仕事を始めてしまうと、日々の忙しさから、日頃学んだ事、感じとった事などをふり返る時間も少ないと感じます。動物看護の歴史をつくり、社会的に認められる為にも、このような学会に参加し、学びを共有することが大切と思えます。(赤池)

「トリミング来院の飼主へのアンケート結果」

(井上五月・松本恵実・保阪 香・前嶋朱美・渡辺由希・赤池久恵・鈴木加奈子／赤池ペットクリニック)

今回、このような発表、執筆の機会をいただき、「形」にしたことで、問題がより具体的な課題となりました。アンケートをして、飼主が、何を知らたがっているのかが見えてきました。今後はトリマーと連携して、作成したパンフレットをもとに、飼主への指導・助言のテクニックを磨いていきたいと思えます。学会では、他の動物病院の工夫を知ることができ、とても刺激になりました。ありがとうございました。(井上)

以上、取載順(執筆より一部)

■ 編集後記 ■

現職の動物看護士を対象とする「第1回動物看護師資格認定試験」が無事終了し、本会認定の動物看護師の称号を手にする方が200名以上誕生しました。試験当日の東京会場は、JR中央線の大幅なダイヤの乱れがあり、試験の変則的開始などが余儀なくされましたが、欠席者を出さずに(十勝沖地震の影響で、やむなく上京できなかった方が1名おられました)、無事試験を終えることができました。これは、受験者の皆さんの熱い思いと執念の賜物と言ってよい、奇跡的な快挙ではないでしょうか(事務方も、事前にしっかり準備しましたが、まさかあそこまで混乱するとは夢にも思わず、メチャクチャに大変でした)。

編集子も大阪会場に立ち会いましたが、会場は最初から凜とした空気が張りつめ、此方も思わず緊張したものでした。新生動物看護師の方々はこれからもいっそうの努力で、動物看護学を確立していく先頭に立っていただきたいと思えます。

動物看護師元年とも言える平成15年度に初めてお届けすることになる本号は、昨年度よりかなり厚さを増し、投稿のバラエティーもますます充実してきています。本学会誌では、動物看護学の水準を内外にアピールできる最良の場をつねに提供していきますので、投稿や編集へのアイデアをどしどしお寄せください。

(F.S)

本誌への投稿に関するご質問は、次ページの連絡先までお気軽にお寄せください。どのようなことでも結構です。e-mailでのお問合せもお受けしております。

日本動物看護学会編集委員会

■編集長 桜井富士朗（桜井動物病院・帝京科学大学）

■副編集長 甲田菜穂子（関西福祉科学大学）

■編集委員 太田能之（日本獣医畜産大学）

草山太一（慶應義塾大学）

栗野 悟（動物病院モルム）

小松千江（新ゆりがおか動物病院）

高倉はるか（帝京科学大学）

竹内吉夫（看護編集者）

種市康太郎（聖徳大学）

中俣由紀子（かしま動物病院）

牧田登之（元 山口大学）

村中志朗（広尾動物病院）

（五十音順）

〈広告索引〉

大日本製薬(株)……………表 2

(株)ファームプレス……………目次裏

アイムス・ジャパン(株)……………巻末

イソップ薬品(株)……………巻末

(株)インターズ……………巻末・表 3

日本ヒルズ・コルゲート(株)……………表 4

広告のご出稿をいただき、ありがとうございます。

学会事務局／山岸多摩子・高橋亜弓・船木生子

DTP／伊原英治・日引さつき・牛尾英則

編集制作／日引さつき・上野 純

日本動物看護学会 会誌

Animal Nursing (アニマル・ナーシング) Vol. 8 No. 1 (第 8 巻 第 1 号)

2003年11月25日 第 1 刷発行

定価 2,000円 (税込)

本誌の購読料は会費に含めて徴収しています。

編 集 日本動物看護学会編集委員会

発行人 今道友則

発 行 日本動物看護学会 (会長 今道友則)

〒101-0032 東京都中央区八丁堀 3 丁目 9 番 8 号

新京橋第一長岡ビル 5 階

TEL 03-3537-6920 FAX 03-3537-6921

e-mail jsan_info@jsan.org

ホームページ <http://www.jsan.org>

DTP制作 株式会社アグレ

印刷 松澤印刷株式会社

認定試験・補習教育専用

TEL 03-3523-3077

FAX 03-3523-3078

学会の最新情報は、
左記のホームページでも
随時お知らせしております。

本誌の内容を無断で複写・複製・転載することを禁じます。



犬・猫の栄養学で世界のリーダーを目指すプレミアムペットフード

ユーカヌバ
Eukanuba

IAMS
アイムス

ユーカヌバ・ベテリナリーダイエット

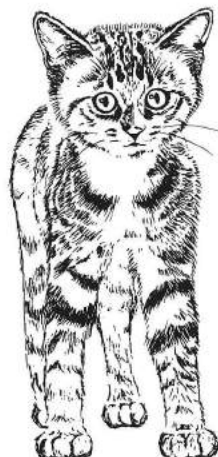
Eukanuba
VETERINARY DIETS

先生方のペイシエントのために



**開業獣医師と
共に歩む**

Aesop



動物用医薬品の総合商社
イソップ薬品株式会社

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-6-20
電話 東京03(5994)2711番代 FAX03(5994)2714番
〈フリーダイヤル〉0120-203130番



コンパニオン・アニマルの 看護技術学

著：浅野妃美 浅野隆司
AB判 上製本 296頁 定価 7,800円＋税



ドッグ ケア

編・著：Sue Guthrie/Dick Lane Professor Geoffrey Sumner-Smith
監訳：梶ヶ谷 博
A4変形判（菊判） 並製本 264頁
定価 6,800円＋税



治癒から日常の健康維持、リラクゼーションまで

ドッグ・マッサージ

著：Jean-Pierre Hourdebaigt/Shari L. Seymour
監訳：岩崎利郎
B5判 並製本 178頁 定価 5,800円＋税



新・犬と猫の解剖セミナー — 基礎と臨床 —

著：浅利昌男
A4判 並製本 171頁 定価 8,400円＋税



Teton最新獣医臨床シリーズ
カラーイラストですぐにわかる

図解 動物臨床薬理学

著者：Cynthia R.L.Webster
翻訳・監訳：小久江 栄一 下田 実
A4判 並製本 約180頁 定価 9,800円＋税



小動物看護のための内科学

村杉栄治・浅野妃美・浅野隆司 共著
B5判 並製本 272頁
定価 6,311円＋税



VTの臨床検査ハンドブック

斉藤久美子・酒井道子 共著
A4判 並製本 183頁
定価 7,767円＋税



改訂新版 第二版

動物の基礎生理学セミナー

著：西田利穂
B5判 並製本 234頁
定価 9,400円＋税



普及版

小動物寄生虫鑑別マニュアル

監修：今井杜一 著：佐伯英治 編：梶ヶ谷 博
A4判 並製本 102頁
定価 8,571円＋税



コンパニオン・アニマルの 健康管理学

著：浅野妃美 浅野隆司
AB判 上製本 192頁 定価 7,800円＋税



カレントコンセプト 最新臨床栄養学

— 疾患別栄養管理の実例 —

著：P.Lynne Stockton 他
訳：余戸 拓也 余戸安佳音
A5変型判 256頁 定価 3,800円＋税



ダンバー博士の

イヌの行動問題としつけ

エソロジーと行動科学の視点から

著：イアン・ダンバー A5判 340頁
定価 3,500円＋税 発売元：レッドハート株式会社



「人と動物の関係」の学び方

— ヒューマン・アニマル・ボンド研究って何だろう

編・著：桜井富士朗 長田久雄
A5判 並製本 290頁
定価 3,900円＋税



目で見てやさしくわかる

実践AHTマニュアル講座

著：小宮山典寛
A4ワイド判 並製本 121頁
定価 5,631円＋税



改訂版 AHTのための

臨床カラーアトラス犬・猫

監修：山村穂積
A4ワイド判 144頁
定価 9,514円＋税



入院動物のナーシングケア

監修：V T教育研究会
A4判 並製本 180頁
定価 7,573円＋税



小動物臨床のための

機能形態学入門

浅野妃美・浅野隆司 共著
A4判 並製本 275頁
定価 9,400円＋税



小動物看護用語辞典

監修：大石 勇
四六判（箱入り）
693頁
定価 13,333円＋税



animal specialist

アニマルスペシャリストのための
ワークマガジン
『月刊 アス』



実務に役立つ連載が、いっぱい!

【偶数月企画】

病院Report
HOW TO GROOMING

【奇数月企画】

特集 今さら聞けないシリーズ

【好評連載】

実践 エマージェンシー講座 ～あわてないための救急医療学～

猫の30疾患

知ってトクする薬の知識

疾患別にみるVTの順番

世界に羽ばたくVTへ

Q & Aここがポイント問題行動

ホリスティックmassageのススメ

ほかに、好評連載「海外誌翻訳シリーズ」「as カウンセリングROOM」
など、動物看護師・トリマー・グルーマー必読の強力ラインナップ!

<定期購読料>

■ 6ヵ月(6冊) : 7,000円(税込)

★毎号買うより2,600円もおトク!

■ 1年(12冊) : 12,000円(税込)

★毎号買うより7,200円もおトク!

■ 2年(24冊) : 22,000円(税込)

★毎号買うより16,400円もおトク!

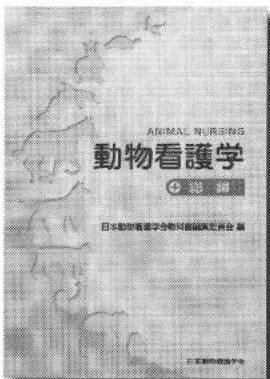
A4判 88頁 毎月10日発行 定価 1,600円(税込)

動物看護師が修得するべき標準的な知識・技術を提示

動物看護学【総論・各論】



- 動物看護学の学問的基礎が、わかりやすく身につく。
- 総論と各論から成り、各分野を系統立てて学習できる。

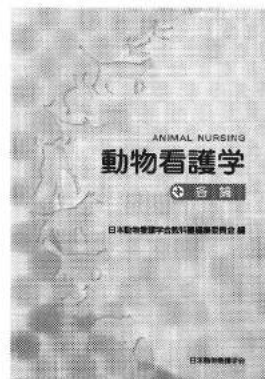


動物看護学【総論】主要目次

- 第1章 動物看護概論
- 第2章 動物看護における業務と技術
カラー写真 看護の対象動物
- 第3章 看護の対象動物
- 第4章 動物看護学研究法
- 第5章 関連法規
資料

動物看護学【総論】

日本動物看護学会教科書編集委員会 編
B5判並製 326頁 2色刷 定価 9,800円+税



動物看護学【各論】主要目次

- 第1章 解剖生理学 第2章 内科看護学
- 第3章 外科看護学 第4章 薬理学
- 第5章 感染病学 第6章 繁殖と遺伝
- 第7章 動物心理学・動物行動学
- 第8章 動物栄養学
- 第9章 動物看護公衆衛生学
- 第10章 動物看護師のための輸液
- 第11章 動物看護師の放射線学

動物看護学【各論】

日本動物看護学会教科書編集委員会 編
B5判並製 318頁 2色刷 定価 9,800円+税

発行:日本動物看護学会 発売:(株)インターズー

プリスクリプション・ダイエット® 猫用缶詰バラエティー 粗挽きフォーム

ペットの延命に役立つ事が
証明された特別療法食



ヒルズのプリスクリプション・ダイエット



〈猫用〉 **c/d**
粗挽きフォーム
チキン入り



〈猫用〉 **c/d**
粗挽きフォーム
シーフード入り



〈猫用〉 **k/d**
粗挽きフォーム
チキン入り



〈猫用〉 **r/d**
粗挽きフォーム
チキン入り



〈猫用〉 **w/d**
粗挽きフォーム
チキン入り



〈猫用〉 **x/d**
粗挽きフォーム
チキン入り

プリスクリプション・ダイエット®
〈猫用〉缶詰製品“粗挽きフォーム”が
6種類となりました。

従来の栄養特性はそのまま、
高い嗜好性を実現しました。

獣医師専用の食事療法情報テレホン **0120-211-317** ヒルズ・ホームページ
<http://www.hills.co.jp>

販売元：
大日本製薬株式会社
アニマルサイエンス部
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8

輸入元：
日本ヒルズ・コルゲート株式会社
〒135-0016 東京都江東区東陽3-7-13